

鹿児島高専だより

第71号

平成29年3月

〈特集〉 グローバル高専事業の取組について



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目次

校長室から

グローバルに活躍する技術者 …… 1

特集

グローバル高専事業の取り組みについて …… 2

教務だより

これからの高専教育はどうあるべきか …… 6
1年自学自習導入教育について …… 7
1、2年生の数学補習について …… 7
授業力アップアクティビティ …… 8
一日体験入学 …… 8
インターンシップ …… 9
技術士会との連携による共同教育 …… 10

学生だより

雨の体育祭 …… 11
再び降り続いた雨の中で …… 11
雨でも賑わった文化祭 …… 12
ロボコン九州大会開催を終えて …… 12
都城・鹿児島高専親善試合結果 …… 13
大会等結果 …… 15
学生表彰者リスト …… 17

志学寮だより

志学寮あれこれ …… 19
寮長より …… 20
学寮チュートリアルの実施報告 …… 20
寮生の登校状況 …… 21
着任のご挨拶 …… 22
寮生の皆さんへ …… 22

専攻科だより

専攻科について …… 23
JSTT・ISTS2016に参加して …… 25
中国におけるインターンシップに参加して …… 26
インターンシップを通して …… 26
研修で産総研へ …… 27

地域共同テクノセンターだより

平成28年度の地域共同テクノセンターの活動について …… 28
保護者向け校内合同企業セミナー …… 29
IoT&ドローン活用技術研究会について …… 30

学生何でも相談室だより

相談室から …… 31

教職員研究活動

ジルコニウム-銅系合金の形状記憶特性 …… 32
学校教育のための成長型気象観測ネットワークシステムの開発 …… 32
気象データの開発と活用 …… 33

卒業

贈る言葉 …… 35
五年間を振り返って …… 35
5年間ありがとう …… 36
高専のおもいで …… 36
5年間の高専生活 …… 37
これから …… 37
専攻科修了にあたって …… 38
専攻科修了にあたって …… 39
修了にあたって …… 39
卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 …… 40

教職員の動向

世界にはばたく技術者に Rise to Globalized Engineer …… 43
新任のご挨拶 …… 43
新任のご挨拶 …… 44
新任のご挨拶 …… 44
新任のご挨拶 …… 45
新任のご挨拶 …… 45
新任のご挨拶 …… 46
新任のご挨拶 …… 46

新任のご挨拶 …… 47
新任のご挨拶 …… 47
新任のご挨拶 …… 48
定年退職のご挨拶 …… 48
退職のご挨拶 …… 49
保健室より感謝を込めて …… 49

国際交流だより

平成28年度の国際交流室の活動について …… 50
海外インターンシップに挑戦して …… 52
スウェーデン研修を終えて …… 52

同窓生だより

在校生の皆様へ …… 53
自分流で目指した宇宙 …… 53
私が伝えたいこと …… 54
在校生のみなさんへ …… 55
これからの技術者の形 …… 55
在校生のみなさんへ …… 56
大学院に進学して感じたこと …… 57
専攻科、大学院を修了して …… 57

広報委員会だより

平成28年度の広報委員会の活動について …… 58
ニューライフカレッジ霧島について …… 59

後援会だより

御挨拶 …… 60
後援会今昔 …… 60
お願いします …… 61
何があっても学生の味方 …… 61
思い …… 62
高専5年間で感じたこと …… 62
高専入学におもうこと …… 63
今の時間を大切に …… 63

行事予定

平成29年度 行事予定表 …… 64

【表紙の説明】

- ①写真上左：ハワイ語学研修
- ②写真上右：ベトナム学生交流
- ③写真下左：スウェーデン学生交流
- ④写真下右：日本文化研修





グローバルに活躍する技術者

校長 丁子 哲治

来年の2018年は明治維新から150年を迎えます。150年ほど前の幕末の頃に十代を含めた19名の若者が、当時は全くの発展途上国であった日本から先進国のイギリスに留学しました。現在のいちき串木野市の海岸から出航し、香港、シンガポール、ペナン、ボンベイ、カイロ、マルタ等を経て、ロンドンに到着しています。これらの経由地はいずれも当時はイギリスの統治下にあり、日本とほとんど同規模の島国とは言え、世界を支配しているイギリスの実力をまざまざと見せつけられた思いだったでしょう。イギリスではロンドン大学で当時の先進技術を学んだということですが、その学習意欲の高さにイギリス人も驚き、敬愛を込めて、「Satsuma Students」と呼んだということです。鹿児島高専の学生諸君も同郷のしかも同年代の若者のチャレンジを大いに誇りにしているものと思います。

さて当時のイギリスでは、その100年ほど前から産業革命が進められており、その発端となった一つの技術にワットの蒸気機関の改良があります。しかし、産業革命初期のワットの時代は職人が長年かけて工夫した結果として実用化された技術がほとんどで科学的でないものも多々ありました。実際に、エンジンの開発に不可欠な理論である熱力学は、ワットの時代から数十年経てから体系化されています。産業革命の後半になって、ようやく科学の進歩により、技術開発が加速されていくようになります。イギリスの産業革命は100年も要しましたが、科学技術の進歩に伴ってようやく完成を見たと言っているでしょう。

薩摩からの留学生がロンドンに到着した当時は、イギリスの産業革命の成熟期という絶妙のタイミングであり、またロンドン大学で先進の科学技術を学ぶことにも意味があったと考えられます。イギリス全土に蒸気機関車が走り、大西洋海底電線が敷設された時代で、それ

らの基礎研究のほとんどは大学で行われたものだからです。

このようにイギリスで始まった産業革命は、蒸気機関による機械工業化で、大量生産が可能となり、その後さらに20世紀前半までは石油と電力による大量生産・大量輸送が実現し、多くの人々が世界を移動するようになる時代を迎えます。これらをそれぞれ第1次、第2次の産業革命と言います。

さらに、20世紀後半ごろからは、IT技術の発展による生産の自動化、機械の制御を中心とした第3次産業革命が続きます。我が国で高専制度が創設されて、これまで発展してきた時代に相当します。したがって、これまでの高専のカリキュラムもほぼ第3次産業革命の内容に準じたものと言えるでしょう。

我が国の第1次産業革命は明治以降に、欧米の技術をキャッチアップすることで始まり、「Satsuma Students」もその一端を担っていたこととなります。さらに、第2次を経て、第3次産業革命の時代も後半になってきて、ようやくキャッチアップ時代を終え、高度経済成長期となります。その後、先進国となった日本は、世界に先駆けて新たな技術を創造していかなければならなくなっています。しかも、生産量が拡大していくにつれて、生産拠点や市場が海外に求められるようになり、技術者のグローバル化が不可欠となってきました。

ところが、最近では第4次産業革命が始まったとされています。AI、IoT等を中心技術とし、世界に繋がった膨大なデータによる技術革新です。第4次産業革命時代でも日本の技術はフロントランナーであり続けることができるのでしょうか。それは、これからの技術者を担う学生諸君にかかっていると言わざるを得ません。学生諸君には、是非このような社会情勢を予見し、第4次産業革命の中心で活躍できるようにしっかり力をつけてもらいたいものです。その力とは、創造力は言うに及ばず、グローバル力、コミュニケーション力などが不可欠となるでしょう。このような力をつけるには、明確な目標（夢）を持つこと、次にその目標（夢）に向かって粘り強く取り組み、やり遂げる習慣を身につけることです。時代は違いますが、「Satsuma Students」にもこの力が備わっていたものと思われます。このような鹿児島出身の偉人をコンピテンシーとして、鹿児島高専は、第4次産業革命の中心的技術者となる人材育成を目指したグローバル高専として、さらなる飛躍を遂げようとしています。

因みに、国際的に通用する技術者の定義は、「数学、自然科学の知識を用いて、公衆の健康・安全への考慮、文化的、社会的及び環境的な考慮を行い、人類のために創造、開発又は解決の活動を担う専門的職業人」とされています。



グローバル高専事業の取り組みについて

副校長(総務・企画、国際交流、地域連携担当)
国際交流室長 大竹 孝明

・「グローバル高専事業」(H28～H30)

独立行政法人国立高等専門学校機構は、世界を支える技術者育成のため様々な取組を展開しています。

その一環としてH28年度から、第5ブロック(九州沖縄地区高専)のグローバル高専(展開型)の拠点校として鹿児島高専が指定を受け、3年間取り組むことになりました。

・大学間連携共同教育推進事業「九州沖縄地区9高専連携事業」(H24～H28)

鹿児島高専は、H24年度からH28年度まで5年間実施した、文部科学省の大学間連携共同教育推進事業「九州沖縄地区9高専連携事業」の代表校として取り組んできました。この事業で培った連携機能をより有機的に発展させ、個性的で創造性に富んだグローバルエンジニア育成のための多様なプログラムを開発・構築し、その効果を第5ブロック(九州沖縄地区の9高専)内に迅速に波及できる体制となっています。

・グローバル高専事業とは

グローバル高専本事業は、世界で活躍し通用する技術者を育成することを目指して、現行の英語教育・国際交流プログラムの更なる展開と、グローバル化に向けての新規プログラムの開発を行い、開発したプログラムを実施する事業です。

独立行政法人国立高等専門学校機構は、全国51高専の中から2014年6月にグローバル高専モデル校として茨城高専と明石高専の2校、2016年4月にグローバル高専展開校として鹿児島高専を含む7校を指定しました。

鹿児島高専はグローバル高専指定校として、様々な取組を行っています。

・グローバル高専として目指すもの

グローバル高専事業を推進するため、以下のことを目指すこととしています。

- 高専の学生が、海外の学生・研究者及び企業の技術と、英語を用いてスムーズに意思疎通ができるようになるための英語コミュニケーション力向上を図ること。
- 学生の英語力強化のための教育プログラムを開発すること。
- 学生の国際・異文化理解をより深めること。
- 英語による授業を行うこと。

■教職員のグローバル化に関する意識向上を高め、英語による教育研究力の強化を図ること。

そのために、以下のプログラムについて方策を検討し、ブロック内の他高専と連携して取り組む予定です。

- 中学英語教育と連携した高専における英語教育プログラムの開発
- 英語教育プログラムに則った学生の英語力強化
- 英語による講義と国際・異文化理解に対応したカリキュラムの整備
- 学生・教職員の国際・異文化理解のさらなる促進
- 教員の英語力強化
- 専攻科の教育・研究におけるグローバル化

これまで鹿児島高専では、校長のリーダーシップのもとで海外異文化研修等のプログラム策定や、海外の大学とのMOU締結に関すること、また海外留学生の教育支援等について既存の国際交流委員会が実践してきました。

この実施機能を強化するために、平成27年度からは本校の管理運営メンバーの副校長が国際交流を担当し委員長兼務とする組織改革も行いました。

さらに、本年度拠点校として指定を受けた本事業を推進するため、事務組織では本年度から、海外学生の受入やインターンシップ等の支援を行う学生課と、海外大学等とのMOU締結等の業務を支援する総務課とが連携し、国際交流室(室長は国際交流担当副校長)を設置し事務担当者を置くことなど、機能の強化を図ってきました。

このような本校の実施体制をモデルとして、ブロック内高専に波及を図ることとしています。

本事業の概念図を図1に示しました。概念図にありますように、本グローバル事業は、これまでの鹿児島高専が主幹校として第5ブロックで取り組んできました文部科学省の大学間連携共同教育推進事業「九州沖縄地区9高専連携事業」の実績を基に、鹿児島高専を拠点校として、ブロック内高専の協力の下で、迅速にスケールメリットの効果が発揮できる体制としました。

すなわち、「九州沖縄地区9高専連携事業」での実績を十分に活かし、またブロック内の各高専での実績ある事業も積極的に取り組みながら、平成28年度事業を進めていくこととしています。

一方、「九州沖縄地区9高専連携事業」に関しては、独自に自立化の事業展開を図る必要がありますが、本事業と補完的な関係で、相乗効果が発揮できるように計画する予定です。

さらに、本事業を発展させ、ブロック内の全高専に早急に波及させることを目指しています。

今年度(平成28年度)の主な活動(プログラム、予定を含む)については、以下のようなものとなりました。

○学生・教職員の英語力（英検、TOEIC等）

①英語キャンプの実施

春季・夏季休業時等に校内の施設を利用し、低学年向けに数日間程度で校内での英語キャンプを実施する。

②エンパワーメント・プログラムの実施

春季・夏季休業時等に校内の施設を利用して、専攻科生向けに数日間～1週間程度、校内での英語プログラムを実施する。

③教職員向けオンライン英会話講座の実施

毎日25分程度のOnline英会話講座を開講する。校内で週2回程度は時間を設定し開講する等の工夫を図る。

○教育カリキュラムの作成、英語による授業

①ALC Net Academy (e-learning教材) の英語の授業への導入

低学年には英検を受験させるため、場所を選ばず利用できるe-learningを、英語教員の監督の下活用する。

②ストックホルムNTI高校との交流(英語による授業実施)

H27年度から実施しているストックホルムNTI高校との交流を継続する。(H27年度実績：H27. 10. 26～H27. 11. 2 学生9名教員2名)

③海外インターンシップの受入先新規開拓

海外インターンシップの受入先について、本校教員の人脈を生かして新規開拓を行う。

○教育実践・研修

①多読用洋書の導入

多読用洋書を図書館に導入し、授業等で活用する。

②海外異文化研修及び海外語学研修の実施

夏季休暇を利用して学生が研修に参加し、教員はその引率を務めることで教員のグローバル化を図る。年間5名の教員が渡航することを目標とする。

③専攻科特別研究ポスターの英文校閲及び国際シンポジウム参加学生の英語論文ネイティブチェック

専攻科特別研究の中間発表、本発表を英語で実施し、海外で開催される国際会議でのより質の高い発表を目指す。

○上記以外の取組み

①海外研究者招聘及び講演会の開催

海外学術交流協定校から国際交流のため教員を招聘し、英語による授業を実施するとともに、教職員向けに英語で講演を実施する。他高専への波及としてGIネットを使って配信する。

②教員の研究紹介資料集(日英併記)の作成

文部科学省の大学間連携共同教育推進事業を通じて学術交流協定を締結したアジアの大学等と国際共同研究を開始する。

③本校国際交流事業の広報

グローバル高専事業のホームページ開設及びリーフレットを作成し、本校の国際交流事業について広く周知を行う。

○ブロック内高専への展開(ブロック拠点校のみ)

①教職員向けオンライン英会話講座のブロック内高専への波及

教職員向けオンライン英会話講座を鹿児島高専で実施し、年度内に第5ブロック高専に波及させる。

②海外インターンシップの受入先新規開拓

海外インターンシップの受入先について、第5ブロック高専教員の人脈を生かし、共同で新規開拓を行う。

③多読用洋書の導入

多読用洋書の導入を鹿児島高専内で試験的に実施し、年度内に第5ブロック内高専に波及させる。

以上の今年度の取り組みの中で、教育実践・研修の内、

②の海外異文化研修及び海外語学研修の実施については、表1に示すような、夏季休暇を利用し教員が引率を行い学生の六カ国への海外研修を行いました。

なお、ベトナム(ハノイ)への海外異文化研修については、9高専連携事業として実施致しました。

また、その一例として、タイ(バンコク)への海外異文化研修の報告書を表2に示します。

最後に、本事業に対する関係各位のご協力に感謝致しますと共に、今後とも、学内及び九州沖縄地区各高専のご協力、ご助言を頂きますようよろしくお願い致します。

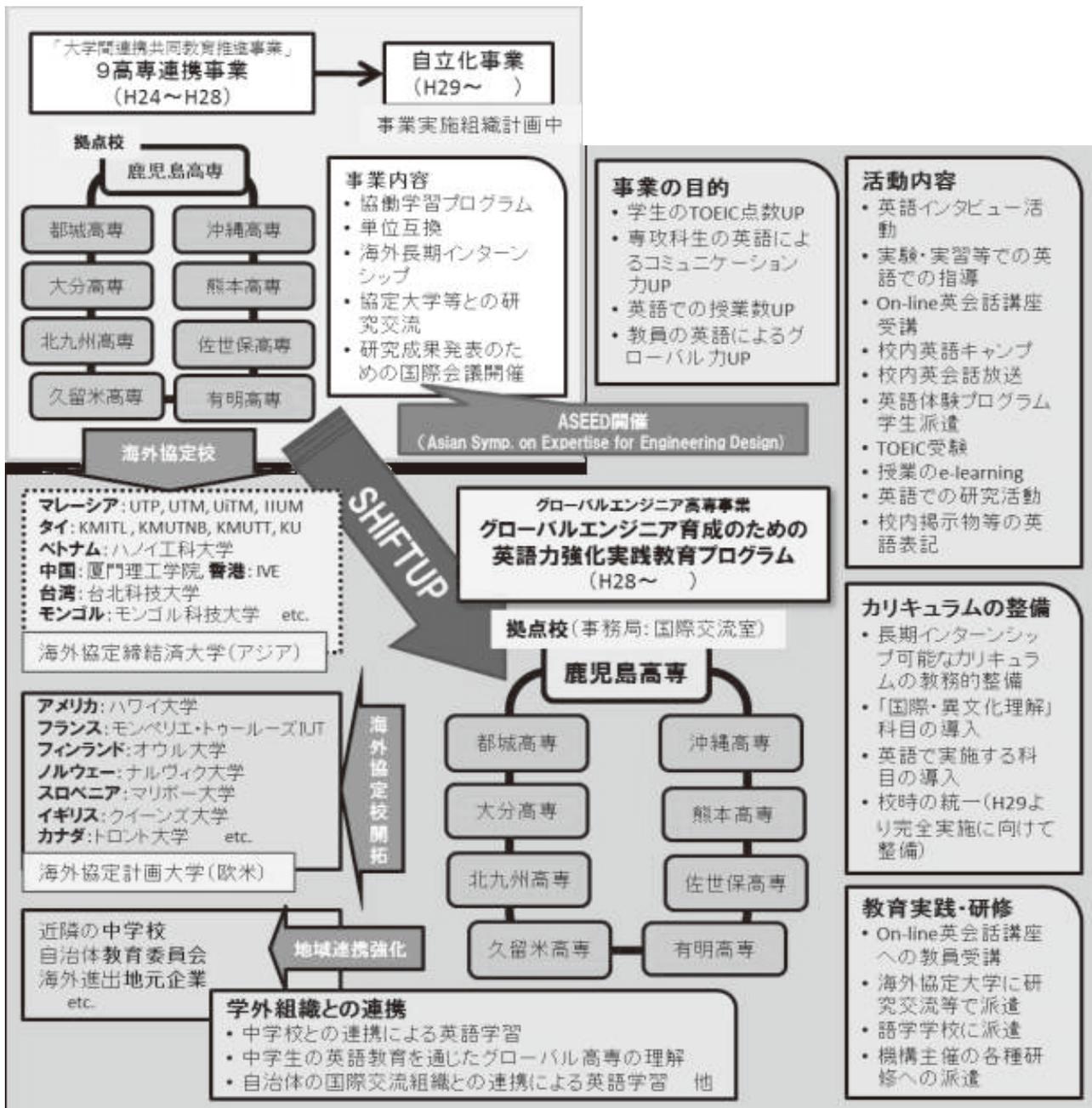


図1 グローバル高専事業の概念図

表1 平成28年度海外研修(8月～9月)について

| 渡航先 | 日程 | 学生数 | 訪問先 |
|------------------------------|------------|-------------------------|----------------------------|
| アメリカ(ハワイ) | 9月3日～17日 | 11名 | ハワイ大学 |
| タイ(バンコク) | 9月11日～16日 | 9名 | カセサート大学 セイコーウオッチ、タイ・ローム |
| ベトナム(ハノイ) (9高専連携事業) | 8月24日～28日 | 8名(鹿児島2名、 都城5名、有明1名) | ハノイ大学、ベトナム TOTO |
| 台湾(台北) | 9月25日～29日 | 7名 | 台北科技大学、平田機工 |
| スウェーデン (ストックホルム) | 8月30日～9月8日 | 8名 | NIT 高校、ウプサラ大学 |
| フランス(モンペリエ、 トゥールーズ、マルセイユ) | 9月13日～22日 | 7名 | IUT、エアバス社 |

表2 平成28年度のタイ（バンコク）への海外異文化研修報告書

| グローバル高専事業 | |
|----------------------|---|
| 渡航期間 | 平成28年9月11日(日)～平成28年9月16日(金) |
| 渡航先 | タイ(バンコク) |
| 渡航者 (所属校) | 大竹孝明(鹿児島高専) |
| | 西留 清(鹿児島高専) |
| 訪問内容 ・場 所 ・目 的 | ① カセサート大学(日本語学科での交流) |
| | ② セイコーウオッチ(株)工場視察 |
| | ③ ローム(株)工場視察 |
| | ④ アユタヤ見学 |
| | ⑤ バンコク市内見学 |
| 報告・結果 今後の取組み | <p>①カセサート大学を訪問し、人間学部言語学科日本語専攻の教職員及び学生との交流を行った。カセサート大学及び本校の学生により、それぞれの国の歴史や現状について説明を行い理解を深めた。タイ語の研修等の後、ゲームを行い親睦を深めた。教職員及び学生と学内の見学も行った。</p> <p>②バンコクから車で北へ約1時間のナワナコン工業団地にある、セイコーウオッチ(株)の工場を視察した。手作りの高級時計の生産も行われ、部品の製造から組み立てまで一貫した作業を見学できた。2011年の大洪水についても説明を受けた。</p> <p>③セイコーウオッチ(株)の工場と同じナワナコン工業団地の、ローム(株)の工場を視察した。スマートフォン等のIC等を生産する一大拠点工場であるが、ICの製造など最新の設備を見学できた。2011年の大洪水からの復興についても説明を受けた。</p> <p>④バンコク到着後、午前中に世界遺産に登録されているかつて王朝が開かれ、「水の都」とも呼ばれるアユタヤへ移動し、最古のワット・ヤイ・チャイ・モンコン寺院等を見学した。ビルマ軍によって破壊されたワット・マハタート寺院の仏塔や仏像が歴史を伝えているが、タイの繁栄と衰退の歴史を学んだ。</p> <p>⑤アユタヤ訪問後バンコク市内へ戻り、エメラルド寺院や王宮等を見学し、黄金の寺院等に圧倒され、その繁栄に触れた。タイ王朝は1782年にラマ1世が開いたが、プミポン国王(ラマ9世)は国民から尊敬され、国中に国王の写真が飾られていた。</p> |
| 備考 | バンコクとしては珍しく雨天が少々続いたが、連日日本より蒸し暑い日が続き、徒歩での移動も多く、皆少々疲れ気味であった。最終日、空港までの市街で大渋滞に巻き込まれ、帰国便には間に合ったが、かなり余裕を持って空港へは移動した方が良かった。 |





これからの高専教育は どうあるべきか

教務主事 須田 隆夫

1. 10年後の社会で活躍できる技術者とは

人工知能（AI）が、囲碁で人に勝つところまで来てしまいました。2014年にオックスフォード大学の研究者が10年後には今の職業の47%が、ロボットやAIにとって代わられる、という予測を発表して話題となりました。この2、3年のAIの進歩は目覚ましいものがあり、本当に10年後には、技術の分野でも保守や点検、検査などは、AIに画像を送るカメラと、指示を受ける端末を持っていけば、素人でも可能になりそうです。そのような未来社会で技術者は当然、「新たなモノをつくり出す」創造性が今以上に求められることになります。

そのような未来に向けて、私たちはどのような教育を行わねばならないか。我々は日々それを模索しながら授業をしています。実はこれは技術者教育に限らず、これからの教育に共通の課題であり、アクティブラーニングの推進もその課題に対する方策のひとつです。これからの教育の課題と方向性を分かり易く示した文章がありますので、以下に紹介します。

”教えやすかったり、評価がしやすい能力ほど、簡単にデジタル化や自動化ができたり、また外部へ委託することができる。これは教育者が直面するジレンマである。今の子供たちは、学校の課題のほとんどをスマートフォンの助けを借りてすぐにこなすことができる。子供たちをスマートフォンより賢くしたいというのであれば、我々は学んだことを子供たちがそっくり再生できるかどうかと言う次元を超えて、子供たちが既知のことから推測をしたり、経験したことがない状況で知識を創造的に活用できるかどうかといった視点からものごとをみていかなければならない。”（教育課程研究会編「アクティブラーニングを考える」：東洋館出版社（2016）から、OECD教育・スキル局長 アンドレアス シュライヒャー 氏の寄稿文より抜粋）

2. 学習支援について

<1年生の自学自習導入教育>

今年度からの新たな取組として1年生の自学自習導入教育を実施しました。本来、高専ならば「学生は自主的に学ぶ」ところですが、近年「自学自習の習慣があまりついていない」学生が多く見られるようになりました。そこで、自学自習の習慣づけとその重要性を認識してもらうことを目的に、4-5月期に週2回、4週間、計8回、放課後にクラスごとに残ってもらって、当日の授業の復

習を中心に勉強してもらうという取組を行いました。各クラスの専門学科の先生方に指導・監督の協力を頂きました。学科によってはこの期間の後も、学科の先生が定期的に自学自習の指導をするなど、継続的な学習支援へ発展しており、良い傾向だと思います。

<低学年の数学補習>

平成26年度から始めました1,2年生の数学補習については、引き続き、今年度も実施しております。前期は6月末～7月、後期は10月～11月と12月～1月の2期間、それぞれ各学年5回ずつ実施しています。この取組の効果が明確な数字として出てきているという訳ではありませんが、数学が不振である1,2年生のフォローアップには確実になっていると思います。（以上について詳しくは担当主事補の記事をご覧ください）

3. キャリア教育について

「10年後には47%の職業がなくなる」と言われるぐらい、将来への展望が難しい時代です。（だから今の勉強が大事なのですが）キャリア教育の重要性が大きくなっています。1年の工場見学、2,3年の特活での技術士会の講演、4,5年生へのOBの講演など実施しておりますが、4年生のインターンシップ（夏季工場実習）は、実際に企業で技術者として働くことを知る最も良い機会です。今年度はインターンシップ参加者が昨年度から飛躍的に増加し、4年生の75%が参加しました。多くの企業が人材確保と、特にマッチングを重視してインターンシップ受入れに力を入れていると言う事もありますが、4年担任の先生方が参加を勧めてくれたおかげだと思います。インターンシップが就職につながることも多いので、事前に企業研究を行い意中の企業に応募することも大切ですが、必ずしも希望の企業に行けるとは限りません。それでも学生時代に企業内を体験できるのは貴重なことです。今後もこのように学生が意欲的に応募してくれることを期待します。

4. 進学について

今年度5年生の進路については、進学が増加したことが特徴的です。高専本科から大学編入、専攻科への進学率は全国平均で40%ですが、本校はこの数年約30%、と少なく、以前は多くが編入していた、難関校も先輩が失敗すると受験しない、と言った悪い方向に入っていました。今年は、10月末で合格者73名（38%）また、複数受験ができる高専ならではの、延合格者は93名に上ります。専攻科を含めて推薦による合格者が64%と、これも高専ならではの特徴です。これらの結果は本校の学生の実力が発揮されたものとして喜ばしいかぎりです。それとともに5年担任の先生方の進路指導の努力があったことも忘れてはならないと思います。

1 年自学自習導入教育について

教務主事補 垣内田 翔子

本校における学習サポートの取り組みとしては、教務委員会の実施している1,2年生への数学の補習、寮務委員会の実施している集合学習、各教科担当教員が実施している補習などがあります。本校は高等教育機関に所属する学校であるため、自主自立のもと自学自習をして学ぶ姿勢が学生らに求められます。しかし、「どのように取り組めばよいのか分からない」というような声が少なからず聞こえます。1年次学年末の成績は、入学試験の成績との相関は小さいですが、前期中間試験との相関は高いとの報告もあります。入学当初において、学生が自ら学ぶ習慣付けをするとともに、本校では勉強をすることが重要である(必要である)という意識付けをすること、及び学力の向上を目的として、本年度は1年生の自学自習導入教育を行いました。

学生の自学自習をするための導入教育であるため、授業とは異なり、教員が資料を用意するようなことはしません。復習を中心とした自学自習を推奨したいと考え、学生らには当日に学んだ教科の自学自習をするように指導しました。分からなかった、授業時間内のみでは理解が不足している部分を自ら見つけ、先生や友人に自ら質問し解決する姿勢を実践して欲しいと思います。

1年生ではカリキュラム上、授業では学科の教員と接する機会が少なくなります。本取り組みにより、早期に学科の教員と一緒に取り組む機会をつくる事ができました。これにより、学科それぞれでの勉強への取り組む姿勢やサポート体制、専門性と一般教育科目の繋がりを知るきっかけになったのではないのでしょうか。この繋がりを生かして、学校に在籍する間は、学科・一般科に関わらず、多くの先生から沢山のことを自ら学んで欲しいと思います。

実践しよう!

自学自習の取り組みステップ

1. 当日の学習内容を再確認・整理する。
2. 授業で取り扱った演習問題を自力で再度解く。
3. 発展問題・応用問題に取り組む。授業で扱われた内容に関連する情報を調べ、理解を深める。

1、2年生の数学補習について

教務主事補 垣内田 翔子

数学は、日常のみならず、どの学科の専門においても現象の理解や予測をたてるために必要不可欠な知識になります。本校においては、一昨年度から教務委員会、数学科教員による1,2年生を対象とした数学補習を行っています。数学力の向上に向けて、前期中間試験後から、各回の定期テストの成績に応じて、数学科教員により選ばれた受講生が参加しています。1,2年生とも受講生はそれぞれ40名となります。補習では、数学科教員の用意した補習課題に取り組みます。補習には毎回、専攻科生のTA(ティーチングアシスタント)が5,6名参加しており、分からない問題があれば、その都度、個別に質問ができる環境を整えています。

補習では、取り組んだ問題の理解度について、自分で確認し、チェックリストに明確化をするよう指導しました。また、「自宅では解ける気がするのに、テストではできない」を減らすため、ノートに問題を写してから解き始めることで、ヒントなどを目に入れないで自力で解いてみることを合わせて指導しています。それにより、自分のできていないことが見えてきた学生もいるようです。高専レベルの数学では、自力で解いてみないことには理解は進みません。数学補習を実施して、学生の学力向上のサポートはしていますが、最後は個々の学生の努力が結果に繋がります。数学補習を通して、分からないことを質問できる環境、努力がより結果に繋がるようアドバイスを行うことで、勉強へのモチベーションアップに繋がって欲しいと思っています。



TAによるワンポイントアドバイスもあります。



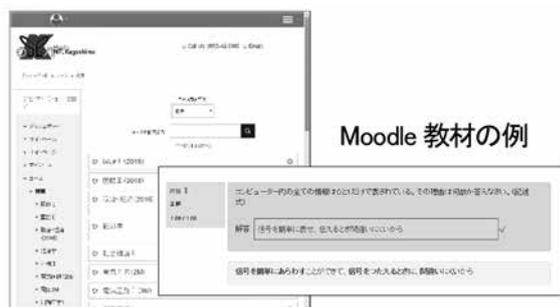
TAが個別で質問に対応してくれます。

授業力アップアクティビティ

教務主事補 垣内田 翔子

昨年度に引きつづき、平成28年度も教員の授業力向上を目的として、授業力アップアクティビティ実施しています。現在日本の教育の中では、これまで行われてきた、先生の講義を聞いて、板書をノートにとるという、昔ながらの受け身の授業から、アクティブラーニング（能動的学習）への移行が叫ばれています。学生の皆さんが学んだ知識を使い、応用を実践する機会の多いアクティブラーニング型授業の実施に向けて、その手法や各種インストラクションスキルの共有・改善をこのアクティビティを通して行っています。既に、パソコンやスマートフォンなどを使ってのe-learningでの学習が導入された授業もあります。このような学習コンテンツの活用は、事前学習の促進や、授業時間以外の学習支援にも繋がると考えています。このような新たな取り組みの共有はもちろん、日頃それぞれの先生が授業において持っている疑問や問題点の共有・解決を図ることで、授業の質の向上を行っていく取り組みが授業力アップアクティビティです。

本年度は、一般教育科、機械、電気電子、電子制御、都市環境の6学科から1名ずつの教員が授業を公開して、メンターがその授業を見学します。授業を更に良いものにするために、授業構成や、各授業での達成目標の設定、指導法について、見学したメンターの客観的視点を踏まえてディスカッションすることで、よりよい授業を目指します。更に、本年度は、どの学科にも共通してある情報処理系科目において、学科を跨いだ授業力アップアクティビティを行っています。それぞれの学科で行われている共通トピックの授業について、学科横断的に授業内容・教授法を共有します。これにより、より良い授業を学科独自に留めるのではなく、鹿児島高専全体へ波及させ、学生の学力に繋がるよう取り組みます。



一日体験入学

教務主事補 保坂 直之

平成28年度の「一日体験入学」は前期最後の週末の8月7日に実施された。今年も天候に恵まれ、暑い一日だった。372名の中学生を迎えることになったが、参加者数は前年度（413名）と比べると大きく減少した。その中で女子の参加者は58名で、相対的にはあるが参加者に占める女子の割合は16%近くに上昇した（前年度は11.9%）。もちろん、これは数字のトリックのようなもので、その分男子を中心にした参加者の数が大きく減った結果を反映したに過ぎないとも言える。秋の中学校訪問の機会などを利用して、教務委員会ではこの大きな数字の変動の原因を探っているところである。

一方で保護者・引率者向けの説明会などへの参加率は昨年度よりもわずかではあるが上がっている。これは今年度の新たな試みとして、午後には部活動紹介の時間を設けたことも影響している可能性がある。いずれにせよ、子供たちが学ぶ場をよく知りたい、という関心はやはり高いのだと認識して、その期待に応えるよう「一日体験入学」の内容を充実させる必要があるだろう。部活動紹介については、実際に練習に参加させる、などの踏み込んだ対応が可能かについて今後検討されるはずである。

アンケートの結果を見ると、「一日体験入学」についての情報の入手方法については、約55%が「先生から」ということだった。前年度はこの数値が63%だったのでかなり減っている。来年度からは中学校を訪問してのお願い以外の宣伝媒体についても広く可能性を探っていくことになっている。現状を打開するためにはそれは必須である。だがこの数値の急な減少の裏に、中学校の現場で本校を勧めてもらえなくなった、という現象がないかどうかは慎重に見極めるべきであろう。一方で、参加してくれた中学生のほぼ全員が「十分満足」「ほぼ満足」と答えてくれていて、これはうれしい数字である。本校の学生についても大変良い印象を持ってきているようで、真夏の暑い中、文字通り汗をかいて動いてくれた教職員・学生の尽力の賜物だと思う。

参加者してくれた中学生の6割が本校の受験を予定しており、本校での学生生活を体験してもらいながら工学を学ぼうとする人を広く開拓する場として、次年度以降も「一日体験入学」の充実を図るべきであろう。

この場を借りて関係する皆様に御礼申し上げます。

インターンシップ

教務主事補 渡辺 創

インターンシップとは「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」とされており、本校では主に本科4年生及び専攻科1年生が、夏期休業期間を中心に参加しています。もっとも、最近では本科卒業後に進学を希望している学生が、希望する大学でのインターンシップを行うケースも増えてきており、就業体験という意味合いよりも卒業後の進路を検討する機会と捉える方が実情を反映しているようです。

さて、平成28年度の本科4年生のインターンシップ希望・参加状況を調べてみると、平成27年度と比較して参加希望者が44人増加、実際の参加者も55人増加しており、3学科でクラス全体の8割以上の学生がインターンシップに参加したことになります。(表1参照)

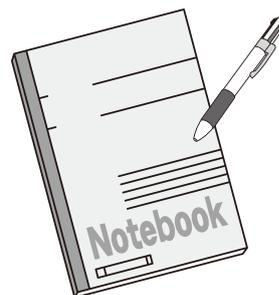
学生によって参加の目的は様々だと思いますが、「学校での学修内容が企業でどのように使われるのか?」、「入社を希望している会社や大学に実際に行き、企業や大学を見てみたい」など、自身の将来を見据えた長期的視点をもって参加する学生が多くなってきていることは、教育機関としてすばらしいことだと思います。

3年生以下の学生諸君。先生や先輩から進路について話を聞くことも重要ですが、「百聞は一見に如かず」と言います。次年度以降も学生自身が高い意識を持ってインターンシップに参加してくれることを期待します。

最後になりますが、今年度は地域共同テクノセンターと鹿児島高専テクノクラブの協力で、県内外問わず多くの受け入れ先を確保することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

表1 参加希望者数と参加者数における昨年度との比較

| | 参加希望者数 | | 実際の参加者数 | |
|----|---------|---------|---------|---------|
| | H 27 年度 | H 28 年度 | H 27 年度 | H 28 年度 |
| M科 | 13 人 | 43 人 | 9 人 | 33 人 |
| E科 | 27 人 | 33 人 | 18 人 | 24 人 |
| S科 | 44 人 | 38 人 | 25 人 | 35 人 |
| I科 | 11 人 | 22 人 | 7 人 | 19 人 |
| C科 | 34 人 | 38 人 | 32 人 | 35 人 |
| 全体 | 133 人 | 177 人 | 94 人 | 149 人 |



技術士会との連携による共同教育

教務主事補 島名 賢児

鹿児島高専の学生は、常勤および非常勤の先生方の授業において一般科目や専門科目を学ぶだけではなく、実際の現場で仕事をされていて、さらに技術コンサルタントとして国から高級技術者と認定された「技術士」という資格を有している方々から直接お話を聴く機会があります。鹿児島高専では、鹿児島県技術士会の協力ののもと、様々な分野の技術士の方々に講演していただく機会を設け、これまで本校の学生の共同教育に取り組んできました。鹿児島県技術士会には建設や農業など様々な分野の技術士の方々が255名登録されています。

今年度はまず、11月2日（水）に、本校の2、3年生を対象に、機械工学科は鹿児島大学特任教授の小川領一様から「異文化と技術者」、電気電子工学科は第一工業大学教授の若井一顕様から「8KスーパーハイビジョンとIoTの展開」と題して講演していただきました。

さらに11月9日（水）には、同じく2、3年生を対象に、電子制御工学科は（株）アジア技術コンサツタンツ技師長の萩原清道様から「これからの技術者の人生設計について」、情報工学科は㈱建設技術コンサツタンツ技術部係長の中村大輔様から「技術者の楽しい未来～よく学び、よく働こう～」、都市環境デザイン工学科は窪川（技術士・労働安全コンサルタント）事務所長の窪川正文様から「技術者を目指すあなた達に～H28熊本地震の教訓～」と題して講演していただきました。

まだそれほど所属学科の専門科目さえ学んでいない低学年の学生が、学科によっては異なる分野の技術士の方からお話を聴く場面もありましたが、各講師の方々が、低学年の学生でも分かりやすく工夫してお話しをされて、聴講した学生たちにとっても、本校での勉学に対するモチベーションや、自分の将来について真剣に考えるきっかけを得られる非常に良い機会になったのではないかと思います。

今年度はさらに、12月から2月にかけて、本校の4年生または5年生対象のキャリア教育として、技術士の方々による講演を予定しています。

今後もさらに鹿児島県技術士会と密接に連携しながら、本校学生にとって有益な機会となるよう、本取組みをより充実した内容にして継続していきたいと考えております。





雨の体育祭

学生主事 塚崎 香織

大変残念なことに、今年度の体育祭は雨でした。悪天候の中、ご観覧にお越しくくださった保護者のみなさま、地域のみなさまに心より感謝申し上げます。

四月から学生の代表で構成する体育祭実行委員会と、学生委員会の担当主事補である毛利洋子先生（都市環境デザイン工学科）が連携し、細やかに準備を進めてくれました。

九月から四年生の準備が本格的に始まり、十月には三年生・二年生も加えた準備と練習が連日行われました。毎日遅くまで頑張るみなさんの姿を見てきたので、何としても体育祭を実施したく、当日は朝5:30に学校に集合し、天候を見ながら実施することとしました。

無情にも天候が回復することはありませんでしたが、大きなケガや事故もなく、一年生と二年生の競技、五学科の立派なやぐら絵の掲示と、五学科の勇壮な応援団の演舞が無事にできました。学生のみなさんの頑張りに、心より敬意を表します。

やぐら絵の取り外し作業では、日没時間と雨の心配から、引退した(?)五年生が下級生を手伝ってくれる様子や、学科を越えて作業を協力し合う様子などに感動しました。手伝ってくださったみなさん、ありがとうございました。

最後に、当日グラウンドの水抜きや大雨の中での駐車場の整理、体育祭終了後にデコボコになったグラウンドや野球場の整備、教室の復旧作業など、協力してくださった教職員のみなさまにも心よりお礼申し上げます。

みなさま、ありがとうございました。



再び降り続いた雨の中で

学生主事補 毛利 洋子

前日の文化祭から、結構な雨が降り続けました。放課後に、櫓絵隊長の学生らを集め、明日は、雨が上がったタイミングで設置にとりかかる予定を話し、朝から準備と待機を促しました。しかし、学生の反応は静まり返ってしまいました。

前日の22時頃、何度も見続けていた雨の天気予報が、一時、曇りに変わった時間帯があり、思わず写真に残しました。雨の上がった夜空を見上げ、翌日の体育祭の実施を期待した事を覚えています。

当日の早朝、雨が上がり、櫓絵の設置を開始、日が昇るとともに学生がそれぞれに準備を開始しました。先生方の中には、担当ではないにも関わらず、早朝から心配して自主的にお集り頂いた方もありました。また、グラウンドの整地や水たまりからの排水を手伝ってくださった方々もいらっしやり、本当にありがたく、こうして体育祭が動き始めました。

しかしながら、開始時刻に近づくと再び雨に見舞われ、スタートも切れずに待機。雨対策の詳細が十分に行き届かず、その場その場で、学生と教員間とで相談、調整しながらの判断で、皆様にご迷惑をかけながら実施に踏み切りました。雨、それでもやる、体育祭でした。

もちろん、できなかった体育祭でもあります。各種競技は、多くが実施できず、心残りではあります。今年、新しく企画し、近隣のパン屋さんに依頼し実施に至った、女子向けのパン食い競争。現代っ子の一年生にはイメージすらかかない、今やクラシックな騎馬戦。新しくボールを購入した3年生のプッシュボール。全てが前日迄に、学生によって準備されていました。昨年に続き、参加する学生も、見に来られた来場者も、見ていて面白く、学生の活気に満ちた体育祭を思い描いておりましたが、本当に一部の実施となりました。できなかった…という思いが残ります。ただ、雨にもめげず、今年の自分たちにしかない体育祭に取り組もうとする、学生の前向きな姿に、私自身も励まされました。

一時中断後の昼休み、私は櫓絵周辺に居ました。応援合戦を前に、再び降り始めてしまった雨の中、水浸しのグラウンド越しに見た本部テント周辺には、続々と集まる来場者の姿があり、傘で埋め尽くされて行きました。この雨の中、これだけの方々に集まって頂ける体育祭であることを改めて認識しました。そして、雨の中、学生が舞う姿も勇ましいものでした。4年生の学生が応援団で着用する学ランの刺繍には、生まれ育った地元を象徴し大事に思う言葉や図柄も見られます。そんな様子を見てみると、本校の体育祭もまた、隼人の方々に愛される体育祭に育つと良いのに…と個人的に、ふと思いました。

雨の中、多くのご協力を頂き、ありがとうございました。

雨でも賑わった文化祭

学生主事補 新田 敦司

10月22日、あいにくの空模様でしたが、多くの方々にお越しいただき盛大に文化祭を挙げる事ができました。

前々日より空模様を眺めながら、ステージを第一体育館に移しての開催となりました。

本年度は”学生が楽しんでいたらそれでいい”という安易な考え方で行っていた文化祭の抜本的な改革を目標とし、高専生として恥ずかしくない完成度の文化祭を再構築するように実行委員長にお願いをしました。

改革は困難を伴いますが、成功したときの喜びもひとしおではないでしょうか。

本年度の実行委員のメンバーは学生が帰った後、本当に夜遅くまで準備や打ち合わせを行っていました。文化祭の展示場に人を呼込む工夫や、事故のないような徹底したマニュアル等の再構築を行っていました。知っていましたか？今年のパンフレットがフルカラーになって見やすくなったこと・・・。当たり前ですが実行委員がいなければこの文化祭は成り立ちません。当日も、ずっと裏方としてみなさんが楽しめるように、良い思い出を作れるようにと、休む間も無く動き続けてくれていました。一生懸命に何かをすると人の心を動かすことができるのだと改めて実感させられた1日でした。実行委員の皆さん、お疲れ様でした。本当に色々ありました。でも、他の学生には味わえない思い出たくさんしたと思います。どうか、その思いを大切にしてください。一生の宝物になるはずです。本当に素敵な文化祭でした。

そして、学生を陰ながら支え応援してくれていたのは、先生方、親御さんではないでしょうか？相談すれば的確なアドバイスをくれる先生方には本当に感謝しかありません。親御さんは学生達の発表や、出し物を誰よりも楽しみにしていてくれて、当日来てくださった方も多かったと思います。

部活動の発表、展示はどれも素晴らしいものでした。ステージで全校を盛り上げてくれた部や作品や実験等で活躍した部など、各部ともに素晴らしいものばかりでした。

最後になりましたが、本年度の文化祭はみなさんの心に残るような文化祭でしたか。大人になっても忘れないような思い出ができましたか。

今後も心に残るような文化祭を開催できるように頑張っていきたいと思います。

ロボコン九州大会開催を終えて

学生主事補 篠原 学

2016年10月9日に、「高専ロボコン・九州沖縄地区大会」が、まきぞのアリーナで開催されました。九州沖縄地区の9高専10キャンパスから、各2チーム、計20チームが出場し全国大会を目指します。地区大会の運営を本校が担当するのは、2006年大会以来10年ぶりです。

テレビの収録を伴う競技本番は9日(日)の1日ですが、7日(金)の会場設営に始まって、8日(土)は各チームの受付、競技のリハーサル、9日(日)の競技終了後も夜遅くまで会場の片付けがあり、運営校にとっては3日間にとわたる大イベントです。

大会の準備全般は学生係を中心に進めていただいたので、ロボコン担当学生主事補としての私の最大の役割は、運営に協力してくれる教員・学生の募集と当日の手配となりました。本大会の運営には、とても多くの力を必要とします。前年の資料を参考に見積もると、設営の7日は、教職員25名、学生30名、リハーサルの8日は、教職員45名、学生45名、そして、大会当日の9日は、教職員60名、学生65名もの人数が必要でした。

開催が高専祭の直前のため、先ずは5年生を対象に協力学生を募集しました。担任の先生からクラスの学生に強く働きかけていただき、必要人数の約半数の40名を集めることができました。メカ研0Bの専攻科生8名にも協力してもらえることになりましたが、なお40名の協力が必要で、1~4年生にも募集を呼びかけることにしました。しかし、自発的に希望者を集めることはなかなか難しく、学生会の学生たちやいくつかの部の顧問の先生に協力をお願いして人数を確保することができました。

9月に各担当の業務内容をまとめた資料ができあがり、後期が始まるとすぐ学生たちを集めて担当の割り当てや内容の説明会を行いました。大会の開始まで4日しかなく、時間的に非常に厳しい作業でした。

大会が始まると、会場設営、リハーサルまでは補助に走り回る状況でしたが、競技当日は私の出番はほとんどなく、運営に参加して下さった多くの教職員、学生たちの力により、スムーズに大会は進んでいきました。この日は、各高専の応援団526名、一般の観客497名を数え、全体で1427名が集う大会になり、素晴らしいアイデアとそれを実現する高い技術を見せつける熱戦続きでした。

実際のところ、裏方を担当した協力学生たちは、直接競技を見る機会はほとんどなかったと思います。それでも、10年に1度の貴重な大会運営に参加したことで、それぞれが何かを感じてくれたのではないかと思います。本当にありがとうございました。

都城・鹿児島高専親善試合結果

都城高専会場

平成28年5月14日(土)

| 競技種目 | 試合結果 | |
|-------------------------|--|-------------------------|
| 陸上 | 総合点 都城 ○ (131 - 65) 鹿児島 | |
| 硬式野球 | 第1試合 (4・5年) 都城 (5 - 7) ○ 鹿児島 | |
| | 第2試合 (低学年) 都城 (1 - 8) 鹿児島 | |
| 男子バレーボール | 第1試合 都城 (18 - 25) ○ 鹿児島 | |
| | 第2試合 都城 (16 - 25) ○ 鹿児島 | |
| 卓球 | ◆ 団体戦 | |
| | 第1試合 A ○ 都城 (3 - 2) 鹿児島 | |
| | 第2試合 B 都城 (0 - 5) ○ 鹿児島 | |
| | 第3試合 C 都城 (2 - 3) ○ 鹿児島 | |
| | 第4試合 D 都城 (2 - 3) ○ 鹿児島 | |
| | ◆ 個人戦 | |
| | 1位 中村謙誠(鹿) 2位 吉田優生(鹿) 3位 大原雅史(都) 3位 松元右京(都) | |
| 弓道 | ◆ 団体戦男子 都城 (6 - 9) ○ 鹿児島 | |
| | 都城 (9 - 11) ○ 鹿児島 | |
| | ◆ 団体戦女子 都城 ○ (7 - 6) 鹿児島 | |
| | 都城 △ (3 - 3) △ 鹿児島 | |
| | ◆ 個人戦男子 | |
| | 1位 豊留龍也(鹿) 2位 濱崎元希(鹿) 3位 福島伊織(都) | |
| | ◆ 個人戦女子 | |
| | 1位 中野遥香(都) 2位 榎園麻実(鹿) 3位 山下夏穂(ナツホ)(鹿) | |
| | テニス | ◆ 団体戦 |
| | | 第1試合 都城 (0 - 3) ○ 鹿児島 |
| 第2試合 都城 (0 - 3) ○ 鹿児島 | | |
| 第3試合 都城 (0 - 3) ○ 鹿児島 | | |
| 柔道 | ◆ 団体戦 | |
| | 第1試合 都城 ○ (4 - 1) 鹿児島 | |
| | 第2試合 都城 ○ (3 - 2) 鹿児島 | |
| | ◆ 個人戦 | |
| | 1位 榎田純之介(都) 2位 長倉泰樹(都) 3位 永井蓮(鹿) | |

都城・鹿児島高専親善試合結果

鹿児島高専会場

平成28年5月14日(土)

| 競技種目 | | 試 | 合 | 結 | 果 |
|------------|------|---|---|------------------|-------|
| サッカー | 第1試合 | 都 | 城 | (1 - 4) | ○ 鹿児島 |
| | 第2試合 | 都 | 城 | (2 - 4) | ○ 鹿児島 |
| | 第3試合 | 都 | 城 | (0 - 6) | ○ 鹿児島 |
| | 第4試合 | 都 | 城 | △ (0 - 0) | △ 鹿児島 |
| ハンドボール | 第1試合 | 都 | 城 | ○ (12 - 8) | 鹿児島 |
| | 第2試合 | 都 | 城 | (4 - 13) | ○ 鹿児島 |
| | 第3試合 | 都 | 城 | (4 - 10) | ○ 鹿児島 |
| 男子バスケットボール | 第1試合 | 都 | 城 | (56 - 71) | ○ 鹿児島 |
| | 第2試合 | 都 | 城 | (52 - 68) | ○ 鹿児島 |
| | 第3試合 | 都 | 城 | ○ (28 - 24) | 鹿児島 |
| 女子バスケットボール | 第1試合 | 都 | 城 | ○ (29 - 22) | 鹿児島 |
| | 第2試合 | 都 | 城 | (19 - 26) | ○ 鹿児島 |
| バドミントン | 第1試合 | 都 | 城 | (1 - 2) | ○ 鹿児島 |
| | 第2試合 | 都 | 城 | (1 - 2) | ○ 鹿児島 |
| | 第3試合 | 都 | 城 | (0 - 2) | ○ 鹿児島 |
| | 第4試合 | 都 | 城 | (0 - 2) | ○ 鹿児島 |
| ソフトテニス(男子) | 第1試合 | 都 | 城 | ○ (2 - 1) | 鹿児島 |
| | 第2試合 | 都 | 城 | ○ (2 - 1) | 鹿児島 |
| ソフトテニス(女子) | 個人戦 | 優 | 勝 | 埋金(うめがね)・平野(ひらの) | 組 |
| ソフトテニス(女子) | 個人戦 | 優 | 勝 | 津之地(つのち)・加治(かじ) | 組 |
| 剣道 | 第1試合 | 都 | 城 | ○ (3 - 0) | 鹿児島 |
| | 第2試合 | 都 | 城 | ○ (3 - 0) | 鹿児島 |
| | 第3試合 | 都 | 城 | ○ (2 - 0) | 鹿児島 |
| 水泳 | 競泳部門 | 都 | 城 | (62.5 - 98.5) | ○ 鹿児島 |
| | 水球部門 | 都 | 城 | △ (140 - 140) | △ 鹿児島 |

大会等入賞一覧

◎第69回鹿児島県高等学校男子サッカー競技大会

開催日：平成28年5月23日～29日
会 場：県立サッカー・ラグビー場ほか
結 果：4位

◎第71回鹿児島県陸上競技選手権大会

開催日：平成28年7月2日～3日
会 場：鹿児島県立陸上競技場
結 果：一般男子100m 3位 中俣朋也

◎第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

開催日：平成28年7月8日～17日、11月12日～15日

(1) 陸上

男子100m 1位 中俣朋也
男子200m 1位 中俣朋也

(2) ソフトテニス

男子ダブルス優勝 吉留聖人・原口俊己
女子ダブルス優勝 井上晴海・津之地愛理

(3) バドミントン

団体3位

(4) 水泳

総合優勝

50m自由 2位・100m自由 3位 榮晃太郎

400m自由 3位 吉永光太郎

100m背泳・200m背泳 1位 鶴田瑠威

100m平泳・200m平泳 1位 広谷智之

100m平泳 2位 宮路健太郎

200m平泳 2位 下原啓佑

100mバタフライ 2位 内山尚紀

100mバタフライ 3位 山之口周平

200mバタフライ 3位 西川哲史

200m個メドレー 3位 西原琢斗

400mリレー 2位 内山尚紀・西原琢斗
帖佐直彦・榮晃太郎

400mメドレー 1位 鶴田瑠威・広谷智之
山之口周平・榮晃太郎

200mリレー 2位 松元水樹・釜崎寧々
東由香里・黒田葵

(5) 硬式野球

3位

(6) バasketボール

男子 3位

(7) サッカー

優勝

(8) バレーボール

男子 3位

◎第3回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

開催日：平成28年7月9日～10日

結 果：男子団体 優勝

男子個人 準優勝 豊留龍也

◎第22回西日本地区高等専門学校空手道大会

開催日：平成28年7月9日～10日

会 場：久留米工業高等専門学校

結 果：総合優勝

団体形 優勝

団体組手 3位

男子個人形・組手 3位 今村優希

女子個人形・組手 優勝 今村菜々子



◎第51回全国高等専門学校体育大会

(1) 陸上

開催日：平成28年8月24日～25日
会 場：名古屋市瑞穂公園陸上競技場
結 果：男子100m 1位 中俣朋也
男子200m 3位 中俣朋也

(2) ソフトテニス

開催日：平成28年8月18日～19日
会 場：四日市ドーム
結 果：男子ダブルス 準優勝 吉留聖人・原口俊己
女子ダブルス 出場

(3) 水泳

開催日：平成28年8月21日
会 場：富山県総合体育センター
結 果：50m・100m自由・400m自由 出場
100m背泳・200m背泳 出場
100m平泳・200m平泳 出場
100mバタフライ・200mバタフライ 出場
200m個メドレー 出場
400mリレー 出場
400mメドレー 出場
200mリレー 出場

(4) サッカー

開催日：平成28年8月20日～24日
会 場：愛鷹広域公園多目的競技場ほか
結 果：準優勝

◎第49回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会

開催日：平成28年8月19日
会 場：有明工業高等専門学校
結 果：審査員特別賞 田中佑実

◎第3回全国高等専門学校弓道大会

開催日：平成28年8月23日～24日
会 場：維新百年記念公園弓道場
結 果：男子団体 出場
男子個人 出場

◎全国高等専門学校第27回プログラミングコンテスト

開催日：平成28年10月8日～9日
会 場：伊勢市観光文化会館
結 果：競技部門 決勝戦出場

◎全国高等専門学校ロボットコンテスト2016

九州沖縄地区大会
開催日：平成28年10月9日
会 場：まきぞのアリーナ
結 果：田中貴金属グループ賞

◎第49回鹿児島県高等学校新人バドミントン競技大会

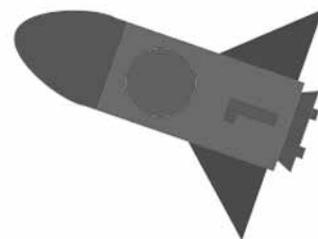
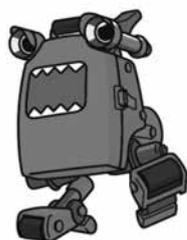
開催日：平成28年10月24日～26日
会 場：サンアリーナせんだい
結 果：4位

◎第13回全国高等専門学校デザインコンペティション

開催日：平成28年12月17日～18日
会 場：高知ちばさんセンター
結 果：構造デザイン部門 審査員特別賞

◎第13回種子島ロケットコンテスト

開催日：平成29年3月2日～4日
会 場：種子島宇宙センターほか
結 果：ロケットコンテスト大賞
ペイロード部門 (CanSat) 優勝



学生表彰者リスト

◎スポーツ賞

○団体の部

| | | |
|---------|--|----------|
| サッカー部 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| | 第51回全国高等専門学校体育大会 (兼第49回全国高等専門学校サッカー選手権大会) | 準優勝 |
| 弓道部 | 第3回九州沖縄地区国立高等専門学校弓道大会 | 優勝(男子団体) |
| 空手道部 | 第22回西日本地区高等専門学校空手道大会 | 総合優勝 |
| 水泳部 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 総合優勝 |
| バドミントン部 | 第49回鹿児島県高等学校新人バドミントン競技大会 | 第4位 |

○個人の部

| | | | |
|--------------|--------------------------------------|------------------------|-----|
| 陸上競技部 | | | |
| 男子100m、200m | 電子制御工学科 5年 ナカマタ トモヤ 中俣 朋也 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 男子100m | | 第51回全国高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 水泳部 | | | |
| 100m背泳ぎ | 電子制御工学科 4年 ツルタ ルイ 鶴田 瑠威 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 200m背泳ぎ | | | 優勝 |
| 400mメドレーリレー | | | 優勝 |
| 400mメドレーリレー | 電子制御工学科 3年 ヤマノケ シュウヘイ 山之口 周平 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 100m平泳ぎ | 電子制御工学科 2年 ヒロタニ トモユキ 広谷 智之 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 200m平泳ぎ | | | 優勝 |
| 400mメドレーリレー | | | 優勝 |
| 400mメドレーリレー | 情報工学科 2年 サカエ コウタロウ 榮 晃太郎 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 空手道部 | | | |
| 団体形競技 | 電子制御工学科 5年 イマムラ ユウキ 今村 優希 | 第22回西日本地区高等専門学校空手道大会 | 優勝 |
| 団体形競技 | 都市環境デザイン工学科 5年 ウノキ アキラ 鶴木 彬 | 第22回西日本地区高等専門学校空手道大会 | 優勝 |
| 団体形競技 | 都市環境デザイン工学科 3年 イマムラ ナナコ 今村 菜々子 | 第22回西日本地区高等専門学校空手道大会 | 優勝 |
| 女子個人形競技 | | | 優勝 |
| 女子個人組手競技 | | | 優勝 |
| ソフトテニス部 | | | |
| 個人戦の部 男子ダブルス | 電気電子工学科 5年 ヨシダ キョウヘイ 吉留 聖人 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 個人戦の部 男子ダブルス | | 第51回全国高等専門学校体育大会 | 準優勝 |
| 個人戦の部 男子ダブルス | 電気電子工学科 3年 ハラグチ トシキ 原口 俊己 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 個人戦の部 男子ダブルス | | 第51回全国高等専門学校体育大会 | 準優勝 |
| 個人戦の部 女子ダブルス | 電子制御工学科 5年 イノウエ ハルミ 井上 晴海 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |
| 個人戦の部 女子ダブルス | 都市環境デザイン工学科 4年 ツノチ アイ 津野地 愛理 | 第53回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 | 優勝 |

◎第19回校内英語暗唱大会

| | | | |
|-------------|----|-------|---------|
| 電子制御工学科 | 1年 | 坪口 瑠奈 | 優勝 |
| 機械工学科 | 1年 | 堀脇 健志 | 準優勝 |
| 情報工学科 | 1年 | 永田 大征 | 3位 |
| 都市環境デザイン工学科 | 1年 | 富田 凱貴 | 4位 (同点) |
| 電気電子工学科 | 1年 | 福森 美月 | 4位 (同点) |

◎文化賞

| | | | | |
|---------------|----|--------|---|------------------------------------|
| 機械・電子システム工学専攻 | 2年 | 川路 啓太 | 第13回種子島ロケットコンテスト | ロケットコンテスト大賞 ペイロード部門 (CanSat) 優勝 |
| 電子制御工学科 | 5年 | 町田 貴洋 | 第13回種子島ロケットコンテスト | ロケットコンテスト大賞 ペイロード部門 (CanSat) 優勝 |
| 都市環境デザイン工学科 | 5年 | 末廣 碧 | 第13回全国高等専門学校デザインコンペティション | 審査員特別賞 |
| 都市環境デザイン工学科 | 5年 | 揚野 崇 | 第13回全国高等専門学校デザインコンペティション | 審査員特別賞 |
| 都市環境デザイン工学科 | 5年 | 永山 智浩 | 第13回全国高等専門学校デザインコンペティション | 審査員特別賞 |
| 都市環境デザイン工学科 | 4年 | 井尻 敬天 | 鹿児島市主催 「天文館の新しい広場について考えよう！」 | 優秀賞 |
| 都市環境デザイン工学科 | 3年 | 田中 潤平 | 平成28年度 第52回建築設計競技 課題「家族みんなで豊かに暮らす住まい」 | 奨励賞 |
| 都市環境デザイン工学科 | 3年 | 深川 桃花 | 平成28年度 第52回建築設計競技 課題「家族みんなで豊かに暮らす住まい」 | 奨励賞 |
| 機械・電子システム工学専攻 | 2年 | 内之丸 一登 | 精密工学会九州支部「第17回学生研究発表会」 | 優秀ポスター発表賞 |
| 電子制御工学科 | 5年 | 高橋 直矢 | 平成28年度パテントコンテスト | 優秀賞(特許出願支援対象) |
| 電子制御工学科 | 5年 | 町田 貴洋 | 平成28年度パテントコンテスト | 優秀賞(特許出願支援対象) |
| 電子制御工学科 | 5年 | 野口 紘史 | 平成28年度パテントコンテスト | 優秀賞(特許出願支援対象) |
| 機械・電子システム工学専攻 | 2年 | 茶園 拓陽 | 6th International Joint Symposium on Engineering Education | Best Presentation Award |
| 機械工学科 | 5年 | 森 尚斗 | 6th International Joint Symposium on Engineering Education | Best Paper Award |
| 電子制御工学科 | 5年 | 井上 晴海 | 6th International Joint Symposium on Engineering Education | Best Paper Award |
| 機械・電子システム工学専攻 | 2年 | 古市 顕則 | 平成28年度第24回 電子情報通信学会 九州支部学生会講演会 | 学生会講演奨励賞 |
| 機械・電子システム工学専攻 | 2年 | 宮崎 達 | 平成28年度第24回 電子情報通信学会 九州支部学生会講演会 | 学生会講演奨励賞 |
| 機械・電子システム工学専攻 | 2年 | 川原 和也 | 平成28年度(第69回) 電気・情報関係学会 九州支部連合大会 | 連合大会講演奨励賞 |
| 都市環境デザイン工学科 | 4年 | 竹内 舞美 | 霧島市商工会青年部によるポロシャツデザイン募集 | 最優秀賞 |
| 電子制御工学科 | 2年 | 吉田 優生 | 霧島市道義高揚・豊かな心推進協議会 「ふるさと霧島と私の未来」作文コンクール | 市議会議長賞 |
| 電気電子工学科 | 2年 | 末山 大勝 | 霧島市道義高揚・豊かな心推進協議会 「ふるさと霧島と私の未来」作文コンクール | 特選 |

◎学習奨励賞（平成28年度学習到達度試験成績優秀者）

| | | | | | |
|---------|----|-------|-------------|----|----------|
| 電気電子工学科 | 3年 | 白坂 潤 | 情報工学科 | 3年 | 田代 悠馬 |
| 電気電子工学科 | 3年 | 中尾 泰彰 | 情報工学科 | 3年 | 中村 奎太 |
| 電気電子工学科 | 3年 | 能瀬 就久 | 情報工学科 | 3年 | 西元 優生 |
| 電気電子工学科 | 3年 | 福島 孝晃 | 情報工学科 | 3年 | 畑山 紘一朗 |
| 電子制御工学科 | 3年 | 永留 健人 | 情報工学科 | 3年 | 宮蘭 大雅 |
| 電子制御工学科 | 3年 | 福留 直樹 | 情報工学科 | 3年 | 湯之上 航 |
| 電子制御工学科 | 3年 | 福満 祐樹 | 都市環境デザイン工学科 | 3年 | カン チュンホン |
| 電子制御工学科 | 3年 | 山内 孝太 | 都市環境デザイン工学科 | 3年 | 西原 琢斗 |

志学寮あれこれ

寮務主事 野澤 宏大

平成28年度の志学寮には、これまでと比べると非常に大きな変化がありました。昨年度まで本校は「1年生全寮制」を敷いておりましたが、今年度からそれがなくなりました。例年約200名だった新入寮生数は、160名程度となり、そのおかげで救われた（寮に残ることができた）という上級生も少なくありません。例年と比較すると、上級生の割合が多い、2志の3人部屋の割合が少ない、というのが今年度の特徴といえます。

昨年度は寮務係の人員が4名入れ替わりましたが、今年度も人員が変化しました。6月末で事務員の田畑さんが学生係へ異動となり、鹿児島大学より鹿子木さんが赴任しました。この異動はある程度予想できたことでした。しかし、10月末で中村係長が人事係へと異動となったことは、誰も予想しておりませんでした。11月より久保田係長が赴任したことで、この2年の間に寮務係の全員（係長、係員、舎監、寮母）がすべて入れ替わったこととなります。

今年度の志学寮を語る上で避けて通れないのが、前期中間試験期間に6志・5志で発生した消火器投下、器物損壊等を含む一件だと思います。警察の捜査も入り、寮生のみならず保護者の皆さまにも多大な不安を与えてしまったことを、お詫び申し上げます。現在に至るまで、決定的な情報は得られておらず、容疑者も分かっておりません。だからと言って、手をこまねいてはいられません。寮の対応としましては、「再発防止」を第一に、夜間・早朝の巡回の強化、防犯カメラや報知器の設置などを行ってきました。その甲斐あってか、その後は試験期間中も大きな問題は起こっておりません。この結果に満足せず、寮務委員会および寮務係一同、今後も気を緩めることなく明るく楽しい志学寮の運営に努めて参ります。余談ですが、先日開催された九州・沖縄地区高専の寮務主事会議の承合事項の中に、「防犯カメラの設置状況」というものがありました。今回の追加設置があったため、「本校の設置台数は他校より多いのでは？」と心配しておりましたが、実はそんなことはありませんでした。他高専寮の設置台数は少なくなく、本校もようやく他高専の水準に追いついてきた、といった感じです。

小さな変化としては、男子寮の乾燥機を挙げておきます。これまでは容量3kgの乾燥機が主流でしたが、寮生の用途の前にはパワー不足の感が否めませんでした。そこで年度当初、屋外洗濯場に容量5kgの乾燥機を7台追加しました。また夏休み期間には、6志洗濯場にあった

3kgの乾燥機6台を撤去し、5kgの乾燥機を15台（3台×5階）に入れ替えました。これでも数的にはまだ十分とは言えませんが、寮生の洗濯環境は多少改善されたと思います。

実は当初の計画では、他の建物にも乾燥機を追加する予定でございました。乾燥機を購入・設置するはずだった費用は、いったいどこへ消えてしまったのでしょうか？その答えは、この文章の中に書かれています。そう、乾燥機は防犯カメラに姿を変えて、今日も寮生達の生活を見守ってくれているのでした。



寮長より

電気電子工学科 竹下 晃太

今年度の志学寮寮長を務めました、電気電子工学科の竹下と申します。

志学寮だよりということで、私が寮に入寮してから4年間で変わったこと、感じたことなど、寮での生活について書きたいと思います。

私は、鹿児島高専入学と同時に志学寮に入寮いたしました。早く家から出たいという気持ちもあり不安もありましたが、ワクワクしていたのを今でも覚えています。二週間もすれば友達もでき楽しく生活をしていました。寮生活が始まり、食事は食堂で提供されるので問題はありませんでしたが、洗濯、掃除など、身の回りのことは自分でしなければなりません。

それは、当たり前のことですが、それを毎日してくれていた両親には感謝の気持ちでいっぱいになりました。それから、帰省した時には少しだけでも家事など手伝いをするように心がけています。

寮では、24時消灯と決められていて時間になると一斉に消灯します。テスト期間になると午前2時までの延灯となります。テスト期間中は三年生以下の寮生は学生チュートリアルという学習の場が、完全自習時間中に設けられ、参加したい寮生は自由に参加することができます。勉強でわからないことなどチューターに聞くことができるので勉強がよりスムーズに行えます。また、テスト前日は食堂の方より夜食としてパンが配られます。私はこのパンが楽しみで勉強を頑張りました。この時期になると自動販売機はいつも、エナジードリンクが売り切れでした。

寮生活はとても楽しく、毎日が修学旅行のような感覚でした。ゲーム機などの持ち込みは禁止となっているため、スマートフォンを使ってできるアプリを探しみんなで遊びました。

二年も過ぎてくると、寮の捕食室で何か食べ物を作ろうという話になり、肉まん、クレープ、ピザ、カレーパスタなど、フライパンと電子レンジで調理できるものを作って食べていました。とても楽しかったです。

この四年間で、上下関係の厳しさや楽しさ、人と生活するうえで我慢しなければならないこと、相手の立場に立って考えること、両親への感謝の気持ち、時間を守るということなど、様々なことを学びました。これは、これからの人生の糧となる良い経験だったと思います。

最後に、この一年間志学寮をとともにまとめてきた寮生会役員、どんなことにも協力、サポートをしてくださった野澤寮務主事をはじめとする寮務係の方々、本当にありがとうございました。

学寮チュートリアルの実施報告

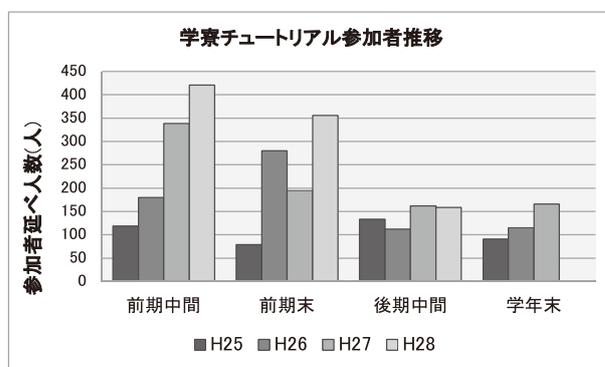
寮務主事補 内田 一平

学寮チュートリアルは、本科1～3年生を対象に、専攻科生が個別学習指導を実施する制度です。高専では、修得内容が学年の進行に従い積み上げ・高度化していくことから、その基礎学力を養い、定着させることを目的として実施されています。この制度は平成13年度後期中間試験から志学寮で継続的に実施され、今年で15年目を迎えました。導入当時は、対象者が1年生に限定されていましたが、実施期間も短かったのですが、寮生からの要望もあり、内容を拡充させてきた経緯を持ちます。また、現在の実施期間は試験期間前の1週間程度で、20時から23時の時間帯で実施しています。本年度も、次に示す期間で開催しました。

- ① 前期中間試験前（5/20～6/2、8日間）
- ② 前期末試験前（7/18～7/27、8日間）
- ③ 後期中間試験前（11/20～11/28、6日間）

当原稿執筆時は予定の段階ですが、学年末試験前（1/29～2/6、7日間）に計画しています。

近年4年間の学寮チュートリアルへの参加状況を示します。



今年度は3期間に計22日の開催ができました。参加者は延べ936人でした。各年の開催期間に若干の変動がありますが、参加者は増加基調にあります。特に、前期中間前においては新一年生が初めて迎える高専の試験にあたるため、特に力が入っていることが窺えます。また、今年度の参加者を学年別にみると、2・3年生の参加が増加してきています。

学寮チュートリアルでの学習に限ったことではありませんが、学生諸君の努力は必ず実を結ぶと確信しておりますので、継続的な努力を怠らずに邁進していただきたいと思います。

寮生の登校状況

寮務主事 野澤 宏大

8時20分、朝食終了のチャイムとともに、私はいつものようにごみステーション前で、登校する寮生たちの姿を見送り始めます。最初のうちは、ただ挨拶をしていただけでしたが、平成27年のある日、ふと、

「いったい何名の寮生を見送っているのだろう？」
とってしまいました。思ってしまっただけで、何もしないのは科学者ではありません。物理実験室からカウンターを持ち出して、それ以降ほぼ毎朝カウントしています。単に数えるだけならそれほど難しいことはありませんが、精度を上げようと思うと、なかなか難しいものがあります。例えば、忘れ物をして通過するのが2度目（以上）となる学生です。教室に鞆を置いてきた場合はわかりやすいですが、途中で引き返してきた場合は鞆を持っているため、区別が難しくなります。ダブルカウントを防ぎ、きちんと集計するためには、個々の学生を識別する必要があります。



個々を識別できるようになると、その寮生の普段の通過時間、交友関係とその変化、さらには通過しなかった（まだ部屋で寝ている）ことなども見えてきます。普段と異なる状況を目にすれば、自然と、

「今日は早いね」

「相方はどうしたの？」

「おや？珍しい靴だね」

「今朝は忘れ物が多いけど、授業交替あったの？」

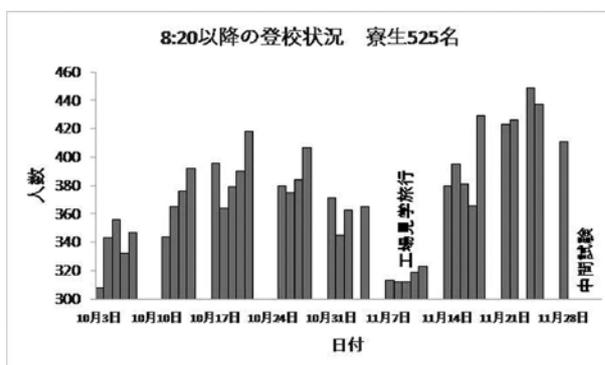
といった会話が生まれます。

後期に入ってから11月末までの、8時20分以降に登校した寮生数の変化を、図に示します。有効数字2桁までは保証しますが、3桁目は参考値程度です。数が最も少なかったのは10月3日（始業日）で308名、最も多かったのが11月24日の449名です。これらの数字を約525名から引いた残りの寮生は、8時20分以前に登校しているこ

とになります。始業日は早めに提出する宿題・課題があったため、総じて登校時間が早くなったのだと思います。一方の11月24日ですが、この日を含んだ11月下旬から、人数の増加傾向が見受けられます。急激に増えはじめた具体的な日は、中間試験の時間割発表日である11月18日です。その理由としてはおそらく、

- ・試験前で夜遅くまで勉強するようになったため
- ・単に寒くなったため

が挙げられます。参考までに、中間試験終了後の12月5日から9日までの期間の平均登校者数は431名で、試験前の期間の平均（433名）と変わりありません。また、延灯（消灯時間延長）となるのは、11月18日の晩からです。これらの総合的な判断は、皆さんの解釈にお任せしたいと思います。



工場見学旅行期間（11月7日の週）は、4年生89名が不在だったため、当然人数が少なくなっています（平均316名）。ちなみに、翌週の平均は390名で、その差は74名となっております。

最後におまけ話を1つ。余計なこととは思いつつも、毎朝8時40分、45分、50分に寮内放送をかけております。そのおかげが、寮生の遅刻（残寮）はほとんどありません。しかしながら12月2日、残寮が6件ありました。この日は中間試験最終日の翌日で、かつ私が出張で不在でした。試験が終わって気が緩んでいたのか、それとも放送がないので起きなかったのか。悩ましいところです。

着任のご挨拶

寮務係長 久保田 雅也

平成28年11月1日付で鹿児島大学から赴任してまいりました久保田 雅也と申します。私の経歴につきましては後の『教職員の動向』のページにも記載してありますので、ここでは割愛をさせていただきたいと思いますが、出身は伊佐市なので、幼いころよりこの国分・隼人地区には買い物や遊びに来たり、また友人も多く住んでいるので、すごく馴染みがあります。

また高校生の頃、鹿児島高専にきて英検の試験を受験したことや、社会人になってから職員採用試験を受けに鹿児島高専に来たことを、今でも鮮明に思い出し、やはり何かの縁あって鹿児島高専に赴任することになったんだとしみじみ感じております。

正直なところを申し上げますと最初に鹿児島高専の寮務係長として赴任することを知らされた時、本当に私で務まるのか正直不安でした。着任してからも初めての業務や寮生との関わりに戸惑うことも多かったのですが、すれ違う寮生たちから礼儀正しく挨拶をされたり、規則正しく生活をしている寮生を見ていると、この寮生たちの生活を、より安全により快適に生活できるよう役に立ちたいという気持ちが強くなってまいりました。

私は学生時代、寮に入って皆と共同生活した経験がありませんので、寮生活がどのようなものかわかっていないところもありますが、先輩や友人から話を聞くと、学生時代に寮で一緒に生活をした仲間は、成人してからも深い絆で結ばれており、またもし自分に何かあったとき、必ず助けてくれるので、とても心強いと言っておりました。私は今、学生寮にいる寮生がとてもうらやましく思います。この学生寮で生活する時間をぜひ有意義に、また多くの仲間を作って、今後の人生に生かして行ってほしいと願うばかりであります。

まだ着任早々で慣れていないところもあり、寮生をはじめ保護者の皆様にも何かとご迷惑をおかけすることがあろうかとは思いますが、いろいろと指導助言をいただきながら頑張りたいと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

寮生の皆さんへ

前寮務係長 中村 浩太郎

寮生の皆さん、こんにちは。

平成27年4月から寮務係で勤務していました中村と申します。

平成28年の11月から異動になり、今はテニスコート前の管理棟で勤務しています。

私が寮務係に勤めていた期間には色々な出来事があり、上級生の寮生の皆さんの生活には影響が大きかったと思いますが、野澤先生の（やさしい）指導や、新入寮生の入寮によって、少しずつ新しい寮に変化しているのかなと感じていました。

日常では、寮生の皆さんと接する機会は多くはありませんでしたが、（病気になる人は結構多かったですね．．病気ももらいましたが．．）元気をもらって勤務することができました。

最後に寮生会の皆さんには、色々な業務を手伝っていただき大変助かりました。寮生会の力は、寮生の皆さんが思っている以上に、寮の運営にかなり大きなものとなっていると思いますので、これからもみんなで協力しあって、寮を盛り上げてもらえたらと思います。短い期間でしたが、どうもありがとうございました。



専攻科について

専攻科長 山内 正仁

専攻科では、本科5年間の課程で身につけた基礎学力、技術者の基盤となる専門能力をさらに高めていく学習と、その知識を他分野の知識と融合させて、研究を通じた、多角的な問題解決能力を高めるための学習が行われております。今年度は、1年生20名、2年生33名 計53名が在籍しています。

本校の専攻科は、平成26年度、大学評価・学位授与機構から特例適用専攻科の認定を受け、昨年度から特別研究指導教員資格を有する教員が学内で学生の論文評価を行い、その結果を大学評価・学位授与機構に報告することで学位が授与されることになりました。

・年間計画について

これまで以上に教員の資質や学生の研究への取組みを向上させるために、27年度から特別研究に関するスケジュールを作成し、研究指導にあたっております。今年度実施した主な取組みと今後の予定は以下の通りです(12月末現在)。

○専攻科1年生での主な取組み

①専攻科特別研究の1,000字概要提出と研究概要説明会(プロポーザルディフェンス)の実施(4～6月)

時には大学教員の指導も仰ぎながら、より中味の濃い研究内容となるように実験や分析その他の必要な活動について意見交換を行いました。

②ポスターを用いた研究進捗状況発表会(12月)

各自の研究内容について、専門以外の学生、教職員にもわかるようにパワーポイントを用いて、口頭発表してもらい、その後、ポスターによる討議を行いました。

③特別研究Ⅰ研究発表会(2月)

1年生で実施した研究内容をもとに2ページの研究概要を作成してもらいます。また、パワーポイントを用いた口頭発表と専門教員との質疑応答を行います。

○専攻科2年生での主な取組み

①ポスターを用いた研究進捗状況発表会(6月)

1年生と同様な方法で、ポスターを用いた研究進捗状況発表会を開催し、プレゼンテーション能力の向上と多くの参加者との情報交換を通して、研究活動の加速化を図りました。また、参加教員の投票で最優秀ポスター発表賞、優秀発表賞を決定し、下記3名の学生を表彰しました。

- 最優秀賞 AMS 鶴永 隆太 君
- 優秀賞 AMS 内之丸 一登 君
- 優秀賞 AEI 濱田 昌也 君

②特別研究Ⅱ研究発表会(審査会)(2月)

特別研究Ⅱ研究発表会(審査会)では、特別研究論文と大学評価・学位授与機構に提出する「成果の要旨」を発表会(審査会)までに提出してもらいます。また、パワーポイントを用いた口頭発表と特別研究指導教員資格を有する教員により、研究内容、質疑応答を通しての理解度などを評価します。



ポスター発表風景

・学外発表について

専攻科では、学外の研究発表も特別研究の単位取得要件の一つであり、専攻科修了にも関係しています。近年、専門性の高い全国規模の学会等で「優秀講演者賞」を受賞する学生も増えています。専攻科生の研究レベルは年々アップしており、大学、大学院生に負けない研究活動を行っています。中には本科5年生から毎年、学外発表を続け、大学院生が博士の学位を取得するために作成する審査付き論文に投稿する学生や国際会議に参加し、発表する学生もおります。学外での研究活動も活発になり、学生のスキルアップに繋がっています。

学会における専攻科生の表彰状況

| 氏名 | タイトル | 賞 | 主催・学会 |
|------------------|--|---------------|--|
| 内之丸 一登 (2AMS) | 画像撮影システムを用いた工具 摩耗のインプロセス計測 | 優秀ポスター 発表賞 | 精密工学会九州 支部 第17回学 生研究発表会 |
| 川原 和也 (2AMS) | インクジェット法を用いて作成し た有機透明導電膜のインクと塗 布表面の改善 | 連合大会講演 奨励賞 | 第69回電気・情報 関係学会九州支 部連合大会 第24回 電子情 報通信学会九州 支部学生会講演会 |
| 古市 顕則 (2AMS) | リモートセンシングを用いた地形 観測に関する研究 | 学生会講演奨 励賞 | 第24回 電子情 報通信学会九州 支部学生会講演会 |
| 宮崎 達 (2AMS) | 酸化亜鉛を用いたフレキシブル な透明導電膜の作製 | 学生会講演奨 励賞 | 第24回 電子情 報通信学会九州 支部学生会講演会 |
| 山崎 寛登 (1ACC) | 下水汚泥を用いたきのこ栽培技 術の開発 | 優秀講演者賞 | 第71回 土木学会 全国大会 |
| 池田 匠匠 (2ACC) | ヨシを用いた食用きのこ栽培技 術の開発 | 優秀講演者賞 | 日本水環境学会 九州沖繩支部 |
| 高見 誠也 (2ACC) | 高濃度フェノール含有廃水に対 象とした中温UASB-無加温DHS システムの連続処理特性 | 優秀講演者賞 | 日本水環境学会 九州沖繩支部 |

・進路について

過去3年間(25～27年度)の就職者は41名、平均求人倍率は専攻によってバラツキはありますが60-80倍程度でした。本科と比較して求人倍率は高く、大手企業、準大手企業へ就職している学生が多いことが特徴です。また、過去3年間の進学者は29名で進学率は41%でした。しかし、今年度は進学率が50%まで増加しました。多くの学生が推薦で大学院へ進学しています。また大学院によっては、専攻科での研究活動(学外発表、審査付き論文の投稿、表彰など)を評価し、大学院への入学金、授業料の全額免除、さらに学位(修士、博士)取得までの年数の短縮などを掲げているところもあります。

・海外での活動について

本校では、海外で活躍できるグローバルな視野を備えた研究者を育成すべく、国際交流活動を積極的に行っています。今年9月、マレーシアの研究大学の一つである、マレーシア工科大学(UTM)と研究交流を加速させるためにMOU(Memorandum of Understanding)を締結しました。これにより、本校の専攻科生をUTMに派遣し、新たな国際交流を進めることが可能になりました。また、IHIプラント建設(株)(IPC)のご厚意により、機械系、電気系の学生を対象に、シンガポールの受入企業であるJEL(Jurong Engineering Ltd.)で海外インターンシップが8月27日～9月10日までの期間で行われました。インターンシップを終えた学生2名((佐藤真太郎君)、電気系(伊東拓真君))はパワーポイントを用いて各15分程度報告を行い、その後、IPCの方々も交えて意見交換を実施しました。両名ともしっかり発言し、充実したインターンシップであったことがうかがえました。

このように、海外でも治安の安定した地域の、信頼のおける機関や企業に学生を派遣し活動させることで、語学力のみならずコミュニケーション能力、異文化理解力、包括的視野を持った技術者を育成したいと考えています。

専攻科では、多様な経験を通して問題解決能力を養い、創造力を備えた開発型技術者の育成を目指しております。是非、本科のみなさんも専攻科への進学を検討してもらいたいと思います。



JSTT・ISTS2016に参加して

機械・電子システム工学専攻1年 東 雅人

私は、高専機構が主催する7月の国内セミナー（JSTS）を経て、10月にインドネシアでのシンポジウム（ISTS）に参加し、貴重な経験をさせていただきました。日本を含む7か国から大学生が集まり、参加者の7割が日本語の通じない外国人という環境での意見交換などはそれまで未経験で、英語力の低い私にとって、苦しいことが多々ありましたが、今後の私にとって価値あるものになったと思います。7月では、英語が聞き取れず、自信を無くし、ただ相手にうなづくことしかできず、かなり悔しい思いをしました。それ以来、このままではまずいと思い、私は英語に対する意識を変えるようにし、本校に来る交換留学生やインターンシップ先の外国人の方々に、主体的に会話を仕掛けたり、時々ですが英語のニュースを聞いたりしました。外国人の方と会話をしたことで、同じことを聞き返されることに外国人はそこまで不快感を覚えないのかなと感じました（おそらく、相手は、私が英語をできないことを分かっているから許容してくれたのかもしれません）。

以上の経験を踏まえて10月のISTSでは、分かっているふりをやめ、話についていけなくなった際、相手の発言を聞き直す、または私に分かりやすいよう簡単に言い直してもらうように要求するなどして、必ず相手の意味を理解するようにしました。聞き取りに時間はかかりましたが、英語が苦手な私が自分の意見を積極的に発信できるようになり、手応えを感じました。また、自分が提案したアイデアを海外の学生が「Wow、amazing!」と驚き関心を持ってくれたのも印象的で、出身である機械工学科で学んだことが活かされているのを感じ、嬉しかったです。また、私が本科生の頃、すべての授業を受講し、知識の引き出しを作っておいたことが功を奏したと思います。私の意見ですが、高専生は大学生と比べ、英語力や数学力が劣りますが、一方、それぞれの学科に関連した幅広く高度な専門知識を身に着けられることは大きな武器になると思います。本科在学中の後輩には、可能な限りすべての授業を受講して欲しいと思います。

最後にこの1年間を振り返って、専攻科に進学したことはいい選択だったと思っています。本校の専攻科は少人数制で、本科のときと環境が変わらないため、新たな刺激が少ないという点もありますが、「国内・外を問わず企業や大学院のインターンシップに参加して新たな技術・情報を身につける」「研究に打ち込み、学会に参加する」「将来必要になる英語の勉強をする」「自分の目指

す道を見つめなおす」など、専攻科には自分自身のスキルを高めるための時間とチャンスがたくさんあると思います。また、本科を卒業して就職をした同級生に「勉強したいけど時間がない」という人もいますし、大学編入をした同級生には「経済的な負担が厳しい」という人も多いため、時間的にも経済的にも余裕のあることは専攻科の利点だといえるのかもしれませんが、終盤専攻科の宣伝みたいな形になってしまいましたが、別に私は宣伝がしたいわけではなく、後輩の皆さんには、早めに将来を見据え、それぞれが納得のいく進路を歩んでもらいたいと思っていますので、これからより一層頑張ってみてください。

以上私が JSTS・ISTS2016 に参加して感じたことでした。

This travel and Indonesian dishes were so spicy, thank you!!

中国におけるインターンシップに参加して

機械・電子システム工学専攻1年 天磨 智

私はこの夏、株式会社安川電機の海外インターンシップに参加しました。本社にて事前研修を行った後、中国の常州と上海にて研修を行いました。ここでは中国で体感したことの一部を工業と絡めて紹介しようと思います。

中国に身を置いて、私が感じた中国産業の武器は“土地の広大さ”と“国ぐるみの開発力”です。中国では“貸し工場エリア”というものが用意されていました。これは海外企業に一定期間、工場と土地を無償で提供するというものです。工場が無償で国から提供されるため、海外企業は施設を運び込み、仮の工場を作って製造の試運転や流通などを直に確かめることができます。中国に進出するか撤退するかを本工場を建てる前に判断できるため、海外企業は低リスクで投資を行えます。土地が広く、政府が土地を管理しているからこそできる誘致方法ではないかと思えます。

次に、環境への配慮についてです。私は、中国は空気が汚く、環境配慮を全然していないイメージを持っていました。しかし、最近作られたと思われる建物のほとんどは自然と共存したデザインとなっていました。現地の方によると、建物によっては、確保しなければならない緑地面積が政府によって決められているとのことでした。そのため、屋根を芝生にしたり、壁に植物を生やしたりと様々な方法で、建築物に自然が取り込まれていました。イメージと偏見だけで、その国を判断せずに、実際に行ってみることも大事だなと感じました。

最後に、私が中国で面白いと思った“転職文化”についてです。中国ではとても簡単に転職ができます。そのため、1人1人が様々なスキルを持っています。工場にいた日本の方は、「中国人に設計図を渡して加工をさせたら、完璧に近い物を作ってくる。しかし、同じものを何個も作らせようとすると、3つ目くらいからどんどん品質が落ちていく。」と仰っていました。また、「仕事ができるようになると、違うスキルを求めて転職していくため経営が難しい。」とも仰っていました。

ここで紹介したことは、私が学んだほんの一部に過ぎません。海外に出ると、自分の持っていた常識や価値観がガラリと変わっていきます。日本にいては得ることのできない経験や知識を手に入れることができます。ぜひ、皆さんも海外進出にチャレンジしてみてください！

インターンシップを通して

電気情報システム工学専攻1年 車 張誠

今年の夏、株式会社オークマにおけるインターンシップに参加した。株式会社オークマは、名古屋県に本社を構える工作機械の大手メーカーで、工作機械市場のシェア率は世界一を誇る企業である。オークマにした理由は、単にインターンシップの受け入れ先を探した時期に募集していた企業だったからというだけで、工作機械に興味があったわけではなくむしろ機械系に関する専門知識は皆無であった。自分の専門である情報系の募集も行っていたためインターンシップは受け入れていただいたが、知識のない自分はまともに実習を行うことができると不安だった。

インターンシップ当日になり、他の大学や大学院から来たインターンシップ生と話してみると、やはり皆機械系や制御系であり、知識もなしに来てよかったのだろうか不安になった。

実習がはじまり、自分はソフトウェア技術部に配属された。ソフトウェア技術部とは、工作機械にインストールして切削を行わせるソフトウェアを開発する部署である。そこで自分が行った実習テーマは、「曲面加工における直線近似加工プログラムの平滑化の評価」というもので、これは工作機械が曲面を加工する際に、直線で近似して加工することで生じる問題を、平滑化によって解決するプログラムの評価を行うといったものであった。そこでまずは工作機械についての知識を深めるためにncプログラムやnc装置の使い方などを社員の方から教えていただいた。ncプログラムとは、対象物を加工する際の工具の動きを記したもので、コードや座標データによって記述されており、nc装置はそれを実行しシミュレーションを行う機械である。自分は情報系としてプログラムにはある程度慣れていたので、ncプログラムやnc装置の使い方はすぐに理解することができた。その上で自分が行った作業は、nc装置の出力から、平滑化を行うことで問題が解消されているかの評価を行った。また、その評価を楽にするためのツールの作成も試みた。

平滑化の評価というテーマで実習を行っていたが、実際は実習期間の大半を評価ツールの作成に費やした。評価ツールといっても、シェルスクリプトを利用してファイル操作やグラフ表示を行うといった作業を自動化し、作業時間の短縮を図っただけのものであるが、自分はシェルスクリプトを組んだことがなかったので、参考書をもとに1から勉強しながら組んでいった。実際に2週間かけて出来上がったものは、1日はかかってしまいそ

うな作業を4分ほどに短縮しなおかつユーザーの入力はスクリプトを実行するだけというツールに仕上がりと、作業の大幅な効率化を実現することができた。

これは自分が情報系としてプログラムになじんでいたために実現できたのではないかと思う。社員の方の中には、機械系でずっとやってきたためにプログラムなどの知識がなくコーディングができないという方もいて、自分は情報系として実習に来て、この方々の役にたったのだと実感した。実習中にある社員の方にあと半年はいてほしいと仰っていただいたときには、自分の存在意義を感じ、必要とされていることを実感することができ、将来の技術者としてこの上ない喜びであった。

今の世の中はIT化が進んでおり、インターネットの普及やユビキタスの概念の出現など、情報技術が欠かせない社会となっている。株式会社オークマは、工作機械の大手メーカーとはいえ機械系のみを集めているのではなく、ソフトウェア開発や情報通信の管理などを行うことのできる情報技術者も大事にされていた。このように情報系の技術者というのはどの業界でも必要とされる存在であると感じ、その中で自分が情報工学を専攻していることを誇りに感じた。

情報系に限らず、日本は工業大国であるため様々な分野での工業技術者が求められている。社会にでたときに産業の第一線で活躍できるよう、さらに自分の技術力を高めていこうと思った。

研修で産総研へ

建設工学専攻1年 當房 陸

私は、2015年の3月1日から11日まで茨城県つくば市にある産業技術総合研究所（産総研）に研修に行ってきました。本科5年生次より微生物廃水処理の研究を行っておりましたが、産総研の方との共同研究を行うに当たり新たな実験を学ぶ必要が出てきたから、というのが理由です。まだ研究を始めて1年にも満たなかった私にとって、このことは非常に大きな重圧であり、少しでも不安を取り除こうと、関係する参考書で勉強し準備に努めました。

出発日が訪れました。前日に産総研の方が鹿児島に来て下さっていたので、移動はスムーズに行うことができました。宿泊は産総研の敷地内の宿泊所を利用し、初日はそれで終了。2日目、事務手続きや安全講習の後、研修先の研究グループの方々に挨拶回りを行いました。研究員の方々は皆気さくな方ばかりで、私を快く受け入れて下さりました。また、関東圏のためか鹿児島出身の私は珍しかったらしく、特に言葉の訛りについて突っ込まれ少々恥ずかしい思いをしました。

本格的に研修が始まったのは3日目からです。実験内容は、微生物から遺伝子を抽出することです。当然、他の生物のDNA（唾液や手の垢など）や不純物が混ざってはいけないので、実験は清潔さと精密さが求められました。研究員方の指導のもと実験を行い、はじめの内は慣れない精密な作業に苦戦し、研究員の方に比べ倍程度の時間を要しました。それから、時折アドバイスを受けながらひたすら同様の作業を行い、最終日間際にはかなりの速度と精度で実験を行うことができました。

これらの作業を通して、実験のテクニックや研究に関する知識を産総研という最高の環境で学ぶことができました。また、新しいことに挑戦することの「面白さ」と「難しさ」を実感しました。鹿児島高専で研究を行っているだけの毎日では中々経験できないことであり、これらは、現在の私の専攻科での研究生生活においてプラスになっていると感じます。

最後に、10日という長期間受け入れて下さった生物資源情報基盤研究グループの皆様、また今回の研修が実現するにあたって尽力して下さった方々に感謝申し上げます。

平成28年度の地域共同 テクノセンターの活動について

副校長(総務・企画、国際交流、地域連携担当)
地域共同テクノセンター長 大竹 孝明

今年度10年ぶりに、地域連携担当副校長として、総務・企画及び国際交流担当と兼務で地域共同テクノセンター長を担当することになりました。前任の植村先生が平成28年3月末で定年退職されたのに伴い、引き継ぎ形で私の副校長の任期の平成29年3月までの1年のみの担当です。

久しぶりのセンター長でしたが、すっかり様子が変わり、鹿児島県内の大学との連携事業である「地(知)の拠点大学による地域創生推進事業(COC+)」等の取り組みや「鹿児島高専テクノクラブ(KTC、錦江湾テクノパーククラブより名称変更、会長賞の創設等)」等の活性化が進み、これまでの関係者のご尽力に敬意を表します。

高専も大学と同じ高等教育機関として、教育、研究と共に地域への貢献、産学官連携の重要性が益々大きくなってきております。地域及び産学官連携等につきましては、学内の多くの部署に関係し、皆様方のご協力が不可欠ですので、本校及び地域の活性化のため今後ともよろしくお願い致します。

今年度の地域共同テクノセンターは、地域創生推進事業(COC+)、鹿児島高専テクノクラブ、企業説明会(研究会)、IoTとドローン活用技術研究会や再生可能エネルギー技術セミナー等の多くの事業で多忙な一年でした。総務・企画及び国際交流担当との兼務でセンター長としての責任を十分果たせたかどうかは疑問ですが、センター関係の皆様方のご協力に対しまして深く感謝を申し上げます。

今年度の地域共同テクノセンターのスタッフについては、昨年度副センター長でした楠原先生が定年退職となり、地域連携特任教授としてマネージャーに就任頂き積極的に取り組んでもらっています。副センター長は、元センター長の宮田先生、地域交流部門長には濱川先生、共同研究部門長には小田原先生にそれぞれご担当頂きました。事務部門につきましては、今年度新たに徳田企画室長が就任され、企画係の田尻係長、塩盛係員及び和田事務補佐員と共にご協力を頂いております。

今年度(平成28年度)の行事等の活動(予定を含む)の主なものについてご報告致します。

平成28年度の主な活動内容

- ①第1回「知(地)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」協働機関連絡会出席(鹿児島大学)4月27日
- ②錦江湾テクノパーククラブ臨時役員会開催(本校会議室)4月28日
- ③第1回鹿児島高専テクノクラブ(KTC)総会開催(ホテル京セラ)5月24日
- ④第1回「COC+高専」地方創生推進会議開催(本校会議室)5月27日
- ⑤保護者向け校内合同企業セミナー開催(本校第2体育館)5月28日
- ⑥平成28年度第2回COC+事業協働機関連絡会
【日時】平成28年6月23日(木)15:00~17:00
【場所】鹿児島大学学習交流プラザ2F 学習交流ホール
【目的】平成28年度のCOC+事業進捗に向けて、現状と課題についての意見交換会
- ⑦第5回かごしま小水力発電セミナー開催(かごしま県民交流センター)6月25日
- ⑧ミニ企業説明会開催(本校大講義室)7月11日
- ⑨KTC臨時役員会開催(本校会議室)8月2日
- ⑩平成28年度第3回COC+事業協働機関連絡会
【日時】平成28年8月23日(火)15:00~17:00
【場所】鹿児島大学産学官連携推進センター セミナー室1(2F)
【内容】・COC+参加大学間との共同授業の開講について
・企業人やOB/OGによる授業参観・参加について
- ⑪KTC第2回役員会・技術研修会「地方創生と産学官連携フォーラムin2016」開催(霧島市国分シビックセンター)9月2日
- ⑫平成28年度第1回COC+教育プログラム開発委員会
【日時】平成28年9月9日(金)15時00分~16時30分
【場所】鹿児島大学事務局第3会議室
【内容】・「COC+参加大学間との共同授業開講」について
・「企業人やOB/OGによる授業参観・参加」について
- ⑬IoTとドローン活用技術研究会(ソフトプラザかごしま、3月14日まで8回開催)9月13日
- ⑭KTC 会員企業及び本校教職員による研究施設等見学(薩摩川内市)9月16日
- ⑮第2回「COC+高専」地方創生推進会議開催(本校会議室)9月27日
- ⑯再生可能エネルギー技術セミナー(かごしま県民交流センター)9月30日
- ⑰再生可能エネルギーフェア(霧島市国分シビックセンター)11月5、6日
- ⑱11月12日:都城高専主催企業合同説明会参加(於:都城高専)
- ⑲11月24日:地域産業高度化産学官連携協議会課題設定会議(於:県庁)

- ⑳12月1日：九州沖縄地区高専テクノセンター長会議（於：沖縄高専）
12月2日：九州沖縄地区国立大学地域共同研究センター長会議（於：沖縄高専）
- ㉑平成28年度 鹿児島高専テクノクラブ3役会議
【日時】平成28年12月7日（水）10:30～12:00
【場所】鹿児島高専地域共同テクノセンター2F 相談室
【内容】KTC会長賞について／鹿児島高専シンポジウム(5月9日-11日)／第3回技術研修会（H29年3月3日）について／地域企業見学会・研究会(1月12日)について
- ㉒第3回「COC+ 高専」地方創生推進会議開催
（本校会議室）12月20日
- ㉓12月21日：産業支援コーディネーター会議（於：鹿児島大学）
- ㉔地域企業研究会（県内KTC 会員企業36社）
（本校第1体育館）1月12日
- ㉕地域企業見学会（県内KTC 会員企業10社）1月12日
- ㉖情報工学科卒業研究審査会（霧島市民会館）
2月23日
- ㉗KTC 第3回技術研修会開催（本校大講義室）
3月3日
- ㉘第4回「COC+ 高専」地方創生推進会議開催
（本校会議室）3月21日

保護者向け校内合同企業セミナー

副センター長 電子制御工学科 宮田 千加良

地域共同テクノセンターと鹿児島高専テクノクラブとの共催による校内合同企業セミナーを、本科4年生、及び専攻科1年生に対して従来行ってきました。今年度はさらに、保護者向けの校内合同企業セミナーを、平成28年5月28日（土）、保護者懇談会の日の午後、本校第二体育館において、鹿児島高専テクノクラブとの共催により開催いたしました。

本セミナーは、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環として、保護者に地元企業を知ってもらうために企画したもので、鹿児島高専テクノクラブ会員企業17社がブースを開設、保護者199名、学生24名が来場し、各企業の担当者が自社をアピールしました。

当日は南日本新聞社と南九州ケーブルテレビネット（株）、霧島市による取材もありました。

保護者からは「県内企業を知ることができて良かった」「実際に会社の人と話せて親近感が沸いた」などの意見が、また、参加企業からは「保護者に企業を知ってもらう良い機会となった」「保護者の気持ちが十分に伝わってきた」などの意見が寄せられ、企業セミナーへの関心の高さを感じることができました。

平成29年1月には、従来開催している4年生、及び専攻科1年生へ向けた企業セミナーを開催する予定です。こちらも保護者の参観も可能な形で開催しようと考えています。



IoT&ドローン活用技術 研究会について

共同研究部門長 機械工学科 小田原 悟

産業・経済・社会構造を変革していく先端的技术であり、将来において先導的・複合的な技術要素を有するIoT (Internet of Things) とドローン (Drone (UAS: Unmanned Aircraft Systems)) が、どのようなビジネスや研究に活用できるかの観点から調査・研究を行い、研究モデル・ビジネスモデルに取り込むことができるかを模索することが本研究会の目的である。これを基本にIoTとドローンの技術及び鳥獣の調査・研究を目的として鹿児島高専と県内の企業・自治体での産学官で構成される研究会(県内企業32社・40名登録)を開催している。研究会の活動内容としては、

- ① IoT技術⇒コア技術、活用技術、画像処理技術、IoTとドローン通信技術の調査研究
- ② ドローン⇒コア技術、自律運転、活用事例、航行的法的規制の調査研究
- ③ 鳥獣対策⇒鳥獣の生態と実情、実態把握と対策状況、防除策の調査研究
- ④ システム開発⇒IoTとドローンによる鳥獣害対策システム開発と研究テーマ模索
- ⑤ 鳥獣対策助成金⇒各省庁や県などの助成金を調査し、研究開発事業の推進を模索
- ⑥ 地方創生⇒地域の抱える課題を解決する技術的手段とビジネスモデルを調査研究

産学官から専門分野の講師を招き、鹿児島市名山町にあるソフトプラザがごしま鹿児島 高専産学官連携推進室及び2階会議室において、8回シリーズで講演60分&ディスカッション60分の形式で実施している。

各講師の講演内容を以下に示す。

第1回 9月13日

講師：㈱クラウドソリューション 代表取締役 深見 大輔 氏
講演テーマ：「ドローン (UAS) とはUASの“いろは”」

第2回 9月27日

講師：㈱コムツァイト 代表取締役 岩倉 路和 氏
講演テーマ：「IoT技術の研究開発と応用」

第3回 10月11日

講師：九州工業大学非常勤講師 桑水 悠治 氏
講演テーマ：「ドローンによるビジネスモデル」

第4回 11月8日

講師：九州大学工学研究院准教授 東野 伸一郎 氏
講演テーマ：「自律無人飛行機 (UAS) の応用研究と自律化について」

第5回 12月13日

講師：鹿児島大学農学部准教授 高山 耕二 氏
講演テーマ：「鳥獣の防除と鳥獣害対策の事例」

第6回 1月17日

講師：鹿児島県農村振興課 中山間鳥獣対策係 有馬 武統 氏
講演テーマ：「鳥獣対策の実情について」

第7回 2月7日

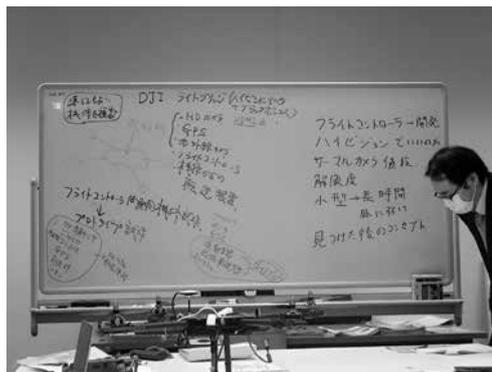
講師：(社)鹿児島県猟友会横川長瀬友会会長 元吉則夫 氏
講演テーマ：「鳥獣の特性とその対策」

第8回 3月14日

講師：鹿児島高専 講師 前菌 正宜 氏
講演テーマ：「画像処理技術の実際」

なお、毎回県内から30名以上の技術者や行政関係者に受講いただいている。活発な意見交換がなされ、ドローン技術をいかに活用して鳥獣害対策を進めていくかを真剣に議論している。

現在、ドローンの機構部品、電気部品、電子部品などを確保して、機体設計を行っており、高専教員の持つ画像処理技術と参加企業の持つドローン制御技術、通信技術などを搭載するシングルボードコンピュータに組み込み試作する準備を行っている。



今年度は、毎週火曜日に来ていただいているカウンセラーの森岡先生に執筆していただきました。森岡先生には長年にわたり、本校に来ていただいています。学生だけでなく、保護者、本校職員もお世話になっており、いつも心強いアドバイスをいただいています。

学生何でも相談室長 三原 めぐみ

相談室から

カウンセラー 森岡 玲子

私事であるが、先日臨床心理士の資格認定協会から資格更新手続きの連絡が来た。臨床心理士の資格は5年ごとに資格更新がなされる。3回目の更新が来たのである。

鹿児島高専の学生相談室に携わるようになったのは、臨床心理士の資格を取得してまもなくであった。つまり15年間、学生たちが成長していく姿に寄り添う機会を得ていたのだと感慨を覚えた。

15年間に会った学生たちから気づかされ、教えられてきたことを少し振り返ってみたい。

ある学生は周囲の勧めで定期的に相談室にやって来た。自発的な表現はほとんど見られず、こちらからの問いかけには小さな声で手短かに応えるものの、会話はなかなかつながらず、深まらなかった。ただ学生本人が大好きなアニメの話題になると別人のように自ら語った。話の中でアニメのイラストを描くことも好きで、自分で書いた作品を机に貼っているということもわかった。ある時には「作品を見てみたい」というカウンセラーのつぶやきを覚えていて、次のカウンセリングの際に持参してくれたこともあった。その後もアニメの話題以外は相変わらずほぼ無言であり、「来室が負担なのでは？」と感ずるような表情で過ごすことが続いた。関係がなかなか深まらない感じを抱いていた。

ある時、その日は一段と表情が硬く、重苦しい雰囲気であった。ふと「最近は何を描いているの？」と問いかけると、学生がおもむろにカバンから筒状に丸めた紙を取り出し、見せてくれた。それは新しい作品であり、紙の四隅には画鋸の跡と思われる小さな穴が開いていた。相変わらず、必要最小限しか語らなかったが、この出来事は私の心に強く印象に残る出来事であった。

貼ってあった絵をわざわざ外し、「持っていく」と自己決定しつつ、持ってきていることを伝えられず、そとカバンの中にしまっていた姿は、その学生の他者との

関係のありようを教えてくれたように感じた。

「心の世界を洞察する眼をもっともっと磨きなさい」この日の出来事に自分の未熟さを気づかされ、教えられた。カウンセリングはカウンセラーが相談者に何かをするという一方の関わりではない。相談者とカウンセラーが相互に影響しあい、より良い方向への変化変容を目指す営みである。出会った学生たちに感謝しつつ、これから出会うであろう学生たちともより良い変化変容を目指していけたらと思っている。



ジルコニウム—銅系合金の 形状記憶特性

機械工学科 徳永 仁夫

環境（温度、光、磁場など）の変化を感知して特性を変化させる材料をスマート材料（知的材料）と呼びます。私はこのスマート材料の中でも形状記憶合金に関する研究を行っています。

形状記憶合金はその名の通り形を覚えている金属で、見かけ上の塑性変形を生じてもある温度まで加熱することで元の形状に戻るといった特性（形状記憶特性）を有しています。代表的な形状記憶合金はチタン（Ti）とニッケル（Ni）を原子比 1 : 1 近傍で合金化させたものです。

Ti-Ni 合金は機械的性質や形状記憶特性、耐食性などの諸性質において優れるだけでなく、形状回復が生じる温度を比較的広範囲にコントロールできるという長所を持っており、温度センサーやアクチュエータなどとして家電製品から航空宇宙産業まで幅広い分野で応用されています。一方で、Ti-Ni 合金では形状回復が生じる温度が 100℃未満の温度域に限られ、その機能を 100℃超の高温度域では活用できないという課題があります。したがって 100℃を超える温度域で駆動する形状記憶合金を開発することができれば、この材料の優れた機能を活用できる範囲を拡大し、新しい科学技術が創成されると期待されています。

私が注目しているのは、ジルコニウム（Zr）と銅（Cu）の合金です。この材料も形状記憶効果を発現すること、さらにその温度は 200℃以上と Ti-Ni 合金のそれよりも高温であることが知られておりますが、形状回復が生じる温度のコントロール方法、強度や変形能力、形状回復を繰り返した場合の挙動など不明な点も多く存在しています。これまでの研究で、Zr-Cu 合金中の Cu の一部をアルミニウム（Al）に置換することで形状回復温度を制御できることを明らかにしました。現在は、この材料の形状記憶特性や材料強度、微細組織におよぼす Al 濃度の影響に関する研究を進めています。また、Al 以外の第 3 元素（添加元素）の影響に関する検討や熱処理が材料組織・特性に及ぼす影響の調査検討、さらには素材を溶かさずに合金を作製する焼結法に関する検討などを通して Zr-Cu 系形状記憶合金の材料組織制御プロセスや形状記憶特性制御手法の確立を目指します。

学校教育のための成長型気象観測 ネットワークシステムの開発

情報工学科 武田 和夫

私は「分散並列処理」や「進化計算」、「ネットワーク応用」などの分野で主に活動しています。最近では小中学校教育向けの教材としてのセンサネットワークシステムを、「即時構築可能な気象環境モニタリングネットワークシステム」として開発に取り組んでいます。

教育現場で気象データは、校庭など特定箇所の気温と湿度の変化や時間帯による風向の変化をみて物理的な規則性を気づかせたり、札幌と鹿児島といった広域な地点間の比較で気候と地理の関係を学んだり、市内や校区内といった狭域の複数地点の比較によって地形や表面被覆、土地利用の影響を知ったりと、様々な観点から学校や学年に応じて、理科、社会科、郷土、環境に関する教育に利用されています。アメダスなど気象庁の観測点は多数ありますが、気温や湿度など基本的な 4 要素以上を測定しているのは約 21km 四方に 1 点の割合です。平均 10km も離れると地理的違いから気温をはじめとする測定値は大きく異なります。例えば鹿児島市の吉野小学校に最も近い気象庁の観測点は鹿児島地方気象台（東郡元）で距離約 10km ですが、気温が同じであると見なせないのは明らかです。そのため単純に近隣の気象庁観測地点の値を使用しても児童らの生活地域の気候を直接表すことはできません。ですから児童らが身近な地域の気候や校内の様々な場所の環境について知り、学ぶためには実際に気温や湿度などを観測した値が必要です。しかし児童らが測定を実施するには、時間や技術的な制約から、多地点・多要素・長期間の測定は困難で、そのため、興味を持って取り組むほどに測定に大きな労力を伴ってしまうこととなります。

そこでこの開発では、専門知識や設定が一切不要で、思いついた時に小型の測定ユニットを単に置くだけで「誰でも」「即座に」任意の場所・要素の測定を開始でき、サーバに蓄積された測定値は観測者の手で得られる「置くだけ」のシステムを構築して自由な環境測定への障壁をなくすことを目的としています。そうすることで児童らは校庭や公園の気象要素だけでなく廊下や教室、体育館の空間上下など屋内環境も屋外と区別せず扱えます。また通常、使用するにあたっては外部電源の用意や充電、ネットワークの確保は不要です。置くだけで自動で移動通信網等につながり、システムを利用している全国のあらゆる学校とデータが共有され、理科教材として見やすい形で児童らは自由に相互に参照できます。

全国の児童らの測定がアメダスよりも細かい距離感でリンクし、センサネットワークを拡張し成長させ、成長に伴い教材として応用範囲が増していきます。また将来的には教育だけでなく、農業分野、工業分野での利用も可能です。またセンサを変更するだけで気象要素以外の測定も可能で、カメラの接続もできます。

開発は、気温センサ1つみても、センサ自体の精度やちょっとした取付位置の違いによって真値とのズレがでます。準器となる機器の値と比較して統計的に補正方法を考えたり、ネットワークが不安定時の動作を選択したり、突然の電源断や復旧にもびくともしないプログラムを考えたり、児童らが扱いやすい形状を考えたりと、開発に伴ってやるべきことはたくさんできます。

今はまだ最低限の機能を持ったものが稼働し始めたところですが、理科や環境に興味を持つ児童らが気象・気候に関する現象や知恵、風土に新たな発見・気づきを持つようなものとしたしたいと思います。加えて他の分野への応用や相互利用もしていきたいと考えています。

気象データの開発と活用

都市環境デザイン工学科 窪田 真樹

私は主に「気象データの開発」と「気象データの活用」について研究しています。都市環境デザイン工学科所属なので、気象が建設にどのように関係しているのかと聞かれることがよくあります。でも実は、気象と建設は密接な関係がある分野なのです。

「気象」という言葉を聞いて何をイメージしますか？天気予報や明日の天気は晴れ・雨など頭に浮かんだのではないのでしょうか。これら天気と呼ばれるものは総合的なものです。気象を細かく分解していくと、気温や湿度、日照、風、雨など様々な事象の変化に分けることができます。一般的に、この様々な事象の変化を総合して天気と表現しています。私が研究対象としている気象は、天気ではなくそれを構成する要素である気温や湿度などです。これは自然環境と言い換えることができると思っています。

自然環境を知らなければ、皆さんが屋内で快適に過ごすことができる建物を造ることもできませんし、風雨災害に強い街を造ることもできません。そのため、私の研究している気象を深く知っておくことは、建設分野の根幹をなす大切なことだと考えています。

それでは次に、どのような気象データを開発しているのかを紹介します。気象データとは気温や湿度などをデータベース化したものです。主に過去の気象観測結果を整理することでデータベース化を図ります。しかし、長期間の観測ではどうしても観測が上手く行えず、欠測となってしまうことがあります。また、建設分野で必要だけど、過去に観測が行われていない気象の要素もあります。そこで、これら欠測や未観測気象要素を補間補充することで気象データを開発しています。

現在では、アメダス観測所が日本全国に設置されており、その観測結果を利用することで、図1に示すような地点の気象データが得られるように整備できています。地域によっては10kmも離れれば気象状態が異なることもあるので、広域かつ多地点での気象データを整備できていることは非常に有用性があります。

ここまで日本全国の気象データが整備できたのでこの研究は完結しました、と言いたいところですが、そんなことはありません。扱っているものが気象なので、未来永劫同じということはないからです。昨今よく話題になる地球温暖化などによって、これまでの気象データが通用しなくなることが近い将来必ず起こるでしょう。これに備えて、地球規模での気象の変化に対応する新たな気

象データを提供し続けることが私の使命だと思っています。この点で終わりなき研究と言えるでしょう。

最後に、開発した気象データをどのように活用していくかについても研究していますので一例を紹介します。図2では、航空写真から地表面の状態を読み取り、標高と気象データの一つ降雨量を入力値とした水害危険地域の予測シミュレーションを行っています。災害に強い街造りに繋がる研究に発展できるとと思っています。

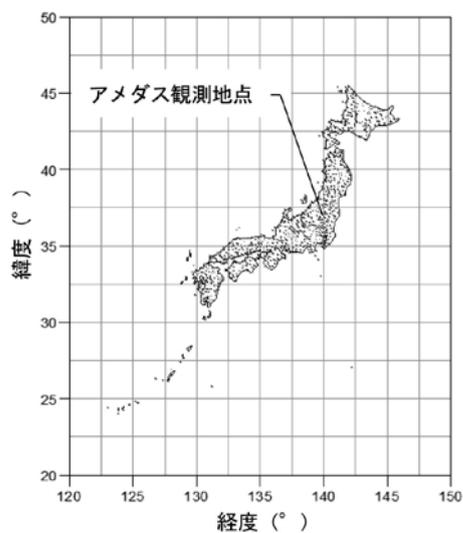


図1. アメダス観測地点の全国分布

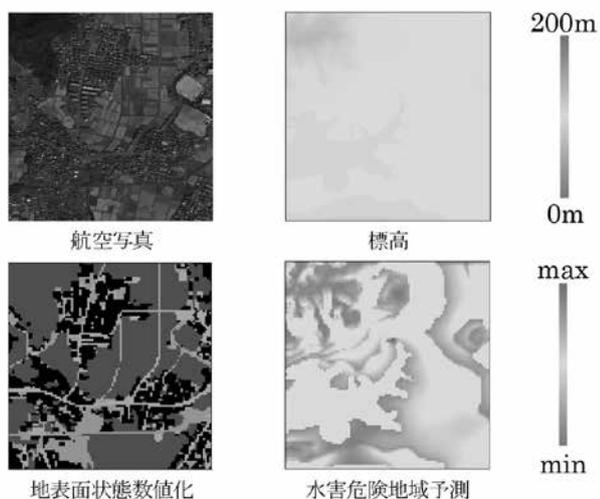


図2. 水害危険地域予測シミュレーション



贈る言葉

機械工学科5年 担任 椎 保幸

卒業生および保護者のみなさまご卒業おめでとうございます。

5年前に入学してきた時の初々しい姿を思い返しなが
ら、卒業生の顔をあらためて一人一人眺めてみると、こ
の5年間で培ってきた知識と教養により皆顔つきが精悍
になり、精神的にも肉体的にも大人になったんだと成
長をうれしく思うと同時に、巣立っていく姿にほんの少
し寂しさも感じます。これから、みなさんそれぞれ新し
い道へ踏み出して行くこととなりますが、高専時代に得
た知見と知恵を武器に自分の進むべき道を切り開いて
いってください。

みなさんへ贈る言葉というか心に留めておいて頂きたい
言葉として「一期一会」があります。私がこの言葉が
特に好きだということではないのですが、何故かいつの
頃からか事あるごとに心に浮かぶようになった言葉で
す。私はこの言葉をごく最近まで、その時その時の出会
いを大切にしましょう、という程度の軽いものとして勝
手に解釈していましたが、実はもっと深い意味を持って
いることをあらためて知りました。一期一会は茶道に由
来することわざであり、「一期」は一生、「一会」は二
度とない機会を意味しています。人は人生の中でいろん
な人と出会いますが、その数は限られています。人との
出会いを単なる通り過ぎのものとして捉えるか、それと
も一生に一度しかない出会いと捉えるかでまったくその
後の付き合い方が変わってきます。人は周りの環境が変
わるたびにそこで新しい出会いがありますが、それとは
違って普段から自分の近くにいながら真の意味での出会
いをしていない場合もあります。私はこれまでどちらか
と言うと、通り過ぎ的に人と接することが多く、もっと
深く相手の事を知り、繋がっていく努力をしなければな
らなかつたと後悔することがありました。仕事上あるいは私生活のどちらにしろ、出会った人とは何かしらの縁
で繋がっており、一生に一度というよりその後もどこか
で再会し、お互いにより重要な存在になることも多々あ
るのが人の世です。人は誰かの力を借りることもあれば、誰かの支えになることもあり、誰もかが決して一人
で生きているわけではないことを、みなさんにもあらた
めて考えて欲しいと思います。

卒業生のみなさんは、高専時代に出会った仲間や先輩
後輩を大切に、また、それぞれ進む道で新しい出会いを
楽しみながら、これからの人生をより豊かなものにして
ください。

五年間を振り返って

機械工学科5年 二渡 一昇

小学5年生の頃、サッカー少年団の試合でこの学校を
訪れた私は高専に興味を持ち、それをきっかけに5年後
には高専へ入学、気づけば10年が過ぎて本科の卒業を迎
えることとなりました。高専での5年間はあっという間
でしたが、辛かった定期試験や実験レポート、部活動、
寮生活、高専祭、インターンシップに工場見学など、こ
こでは到底書ききれないような充実した日々を過ごすこ
とができました。

さて、私が5年間を振り返るにあたって、まず学生生
活で思い出深い応援団と部活動についてお話ししたいと思
います。

1年生の頃、突然教室に現れた当時の4年生に応援団
への参加を呼び掛けられ始まった約1か月間の応援団。
放課後と休日を全て捧げて先輩方から動きを教わり、何
度も何度も同じ練習を繰り返す中で、参加したのを後悔
することもありました。しかし、その1か月を通してそれ
まで交流のなかった先輩たちとも知り合うことができ、
その後の学生生活では知り合った多くの先輩方にお世
話になりました。4年生ではついに自分たちがまとめ
る立場となり、いろいろな不安や思いを背負う中で時
には感情的な意見の衝突もありましたが、1年間かけて自
分たちの演舞を完成させました。私は副団長を任されま
したが、本番で先頭に立って見た光景と今までにない緊
張、やり切った後の感動は忘れられません。副団長とし
てしっかり務められていたかは分かりませんが、二度と
できない貴重な体験ができました。

次に、私の青春ともいえるバドミントン部での5年間
についてお話します。私は高専からバドを始めました。
学年が上がるにつれ主力メンバーにも選ばれるようにな
りましたが、団体戦の選手として出場することは叶わ
ず、挫折感を何度か経験しました。ですが、4回目の高
専大会では12年ぶりの全国大会出場と1回戦突破を果た
し、最高の感動を味わいました。そして、最後の高専大
会。結果は悔しさを残すものとなりましたが、日本一と
なる夢を叶えるためにチーム一丸となって戦うことがで
き、込み上げてきた5年間の思いとチームメイトの勇士
への感動から、応援しながら自然と涙が流れました。私
は最後の1年間副キャプテンを任されましたが、未熟な
自分を導き、常にチームのことを考え指導して下さった
堂園先生には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、こ
れまでバドミントン部にお力添えいただいた多くの皆様
にこの場を借りて心より感謝申し上げます。最後になり
ますが、5年間で学んだことを胸に、普段支えてくれる
多くの人に感謝しながらこの先の人生を歩んでいきたい
と思います。

5年間ありがとう

電気電子工学科5年 前 蘭 颯

高専に入学してから早いもので5年が経ちました。この高専生活は実に充実したものでした。この5年間を充実したものに出来た要因として、部活動、寮生活など様々なものが挙げられますが、一番大きく影響しているのはやはり、クラスメイトとの関わりだと思います。5年間のうちにクラスメイトと様々な思い出を築きました。

入学当初、教室内は重い沈黙に包まれていました。誰一人として話そうとしないのです。私はそんなクラスの総務をやることになり正直不安しかありませんでした。しかし、それは無駄な心配でした。すぐに打ち解けて、少し騒がしいくらいになってしまいました。私はクラスが明るくなったことに嬉しく感じていました。2年生の終わりには担任だった村上先生にサプライズでプレゼントを贈りました。このころにはクラスの団結力は、なかなか強いものになったと思います。3年生の時は、やたらパーベキューをして、クラスみんなで楽しんだ記憶があります。そして、多くのクラスメイトが留年しました。「楽しいだけではダメだ」、「もう少し勉強しろ」と友達に言うべきだったと後悔しています。4年生では応援団と工場見学という高専生活の2大イベントがありました。さすがに内容が多すぎてここには書けないです。しかし、みんなレポートなどに追われて、忙しそうにしているながらも、なんだか楽しそうに過ごしているように私の目には映っていました。そんなみんなを見て私も頑張れました。

そして、5年生になり、クラスメイトと顔を合わせる機会が少し減ってしまいましたが、たまに思い出話をしたりして楽しく過ごしながら、近づく卒業の時を待っています。明るい雰囲気の中で5年間過ごせたことは、凄く幸せでした。私はこのクラスの総務をしていたことを誇りに思います。とっても楽しい高専生活をどうもありがとうございます！！最後の総務の仕事として、クラスの皆に少しお話をというつもりでしたが、うちのクラスの性格上、この文章を読んでくれる人は少ないような気がします・・・。進学、就職と進む道は、皆、違います。しかし、どっちにしてもしっかり勉強して下さい。きっと将来、役に立つはずです。そして、各々の進む道で頑張ってください！

本来なら、ここには、高専生活で自分はどれだけ成長できたかを書くべきなのですが、私は卒業にあたって、クラスメイトへの感謝を一番伝えなかったのがそれを書きました。ただ、最初に書いたように、クラスメイ

ト以外にも電気科の先生方をはじめとする高専の先生方や部活動の先輩・後輩など、多くの人の支えのもと、私は充実した5年間を終えようとしています。支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

高専のおもいで

電子制御工学科5年 福元 俊平

長いようで短かった高専生活も終わりが近づいています。そこで、僕の高専生活を少し振り返ろうと思います。

高専で強く思い出に残っていることは3つあります。まずは、部活動です。僕は水泳部と英語部に入っています。英語部は入学時に、水泳部は2年になってから入部しました。

英語部では、英語暗唱大会に出場したことがあります。先生や先輩の指導の下、日々の練習に取り組みましたが入賞することはできませんでした。しかし現在、そのリベンジとして、英語プレゼンテーションコンテスト出場に向けてメンバーと3人で練習をしています。

水泳部では心身共にかかなり鍛えられました。中学から文化部に所属していた僕にとっては地獄の日々でした。きつすぎて泳ぎながら涙がでることも多々ありました。しかし、友達や先輩、後輩に支えられここまでやってくることができました。今では、みんなの練習についてくれるくらいになり、大会でもいいタイムが出せるようになりました。

運動部と文化部では活動は全然違いますが、友達、先輩、後輩とコミュニケーションを取り、多くのことを学ぶことができるという点では同じだと思います。特に高専では、高校1年生から大学2年生までの幅広い年齢の学生がいます。こんなに年の離れた学生とコミュニケーションを取る機会は他の学校では得られないでしょう。

次に、応援団です。鹿児島高専の応援団は見ていて分かると思いますが、応援団はとても熱いです。普段関わることのない学生が集まって同じ目標に向かって練習します。きついし、外は暑いし、覚えること多いしほんと大変だけど、乗り越えたらいい思い出です。まだやってない学生は、来年参加することを勧めます。

最後は遊んだことです。部活や応援団などで仲良くなった友達、先輩、後輩とたくさん遊びました。先輩には近場や遠いところまで、いろんな場所に連れて行ってもらいました。今でも、その先輩が鹿児島に帰ってきた

ときには遊びます。友達や後輩ともたくさん遊びました。このようなことも意外と大事だと思います。とてもいい思い出になるし、自分が知らないことを知ることもできます。

この他にも、思い出はたくさんあります。勉強はもちろん大事ですが、このように勉強以外で大事なこともたくさんあると思います。高専にいる内にできることはたくさんあります。4年以下の皆さんはその機会を大事に残りの高専生活を送ってほしいと思います。

でも、一番大事なものは勉強です。

5年間の高専生活

情報工学科 豊留 龍也

鹿児島高専に入学した当初の印象は自由だな…というものでした。学校生活はもとより、学寮生活においても想像していたような厳しい規則はなく、先輩方が優しく指導してくださいました。また、同級生と相部屋になった際に、夜遅くまで遊んだり、一緒になってレポートを仕上げたりといったことも今となっては良い思い出です。

私が高専生活で最も力を入れて取り組んだことは、部活動です。5年間弓道部に所属し、4年次には部長を務めました。初めは中学校の時もやっていたからという軽い気持ちで入部しました。しかし、大会で活躍する先輩方を見て、自分も先輩のようになりたいと思い、熱心に練習に取り組むようになりました。その結果として、高専大会では団体・個人ともに入賞することができ、市民表彰などもいただくことができました。部活動に精力的に取り組むことができる環境があったからこそ、私の高専生活はより充実したものになったのだと思っています。

学業面においては、2年次から始まった毎週のレポートに悩まされながらも楽しく学ぶことができました。特に4年次の授業は国家資格の問題範囲と重なるような授業が多く、大変ためになりました。そういった授業や空き時間を使った勉強の甲斐あって、無事国家資格にも合格することができました。

入学する前には長いと思っていた5年間の学校生活は、いろんなことに挑戦するにはあまりに短く、あっという間に過ぎ去って行ってしまいました。部活動に学業に、一生懸命取り組んだことが今では懐かしく、卒業していくことをさびしく思います。私は来年度、大学へ編入学

します。新しい環境でも、高専で学んだことを生かして、高専を卒業したことに誇りを持って、学業に取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、5年間ご指導いただいた先生方、職員の皆様、一緒に過ごした学友へこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

これから

都市環境デザイン工学科 上 園 亮達

充実していたからでしょうか？入学当初の記憶は薄れ、遠い昔のことに感じます。波のように押し寄せてくる毎日を過ごしながら、自らの目標に向かい着実に一歩ずつ踏み出せたと実感しています。

そんな充実に満ちた高専生活は、挑戦の日々でした。その中で、私には2つの大きな挑戦がありました。

1つ目は、海外でのポスター発表です。これは私にとって困難を極めたものでした。会場はベトナムということもあり、使用言語は英語のみ。英語はあまり得意ではなく、準備期間も少なかったことから、片言の英語で発表してしまうという失態を犯してしまいました。今では笑い話ですが、当時は自分が情けなく、涙が出てしまうほどでした。しかし、その経験は私を変えてくれました。自分の無知を認識し、無知は恥であるということを知りました。また、試験だけでなく、実際的な能力も向上させる必要があると身に染みしました。

もう1つの挑戦は、大学受験です。1年次から高専時代の目標に受験を据え、定期試験などの勉学に励んできました。高専の進学率は依然低く、また塾などありません。そのため、編入の恐ろしく少ない情報をかき集め、誰もわからない見えない敵と戦う必要があります。普通高校からの受験であれば、同じ志望校の仲間どうし励まし合い、切磋琢磨できたかと思います。しかし、高専ではそれはできず、まさに自分との闘いでした。世界にはもっと凄い人がいる、そう言い聞かせながらペンを握る日々でした。そのような毎日を積み重ね、第一志望の大学に合格をいただくことができました。しかし、驚いたことに合格しても喜ぶことができなかったのです。受験期にはあれほどまで遊びたがっていた自分は消え、また将来のことを考えて不安に駆られていました。喜んでいる暇はない、また一からやり直しだ。おそらく自分は常に「これから」を考え、何かを実行しないと落ち着かない性格なのでしょう。人生の目標を果たすために挑

戦に挑戦を重ね、時が進んでいくのでしょう。

私には大きな夢があります。それは、「人の役に立つ」というものです。発展途上国での支援や国家に寄与することなど達成しなければならない目標は多くあります。その目標を1つ1つ成し遂げるために、高専は「これから」の通過点に他ならないことを自覚し、また挑戦し日々成長しなければならないのです。そして人生の最期には、ただ自分の「これから」だけではなく、人々の「これから」を考える人でありたいと思います。

最後になりますがここまで支えてくださった先生方、家族、そして多くの友人に厚く御礼申し上げます。

専攻科修了にあたって

機械・電子システム工学専攻2年 川野 良太

鹿児島高専に入学して7年目、通い慣れた校舎との別れが近付いてきました。高専への入学を決意したのは、両親や中学校の先生方の勧めと、就職率が良いという点からでした。当時、寮とはいえ、15歳にして親元を離れ、見知らぬ土地で生活することに、大きな期待と少しの不安を抱いていたことを今でも覚えています。7年経った今では、新たな社会人生活への希望を胸に卒業までの日々を過ごしています。

私は、入学当初から本科5年時の就職活動直前まで、専攻科への進学は全く考えておらず、5年間で卒業して就職しようと考えていました。しかし、いざ就職活動が近づくに連れて、行きたい企業・やりたい仕事が決まっていない中、惰性で就職先を決めることへの不安を感じていました。そこで、選択肢として、もう2年勉強しながら、自分の将来を考えるためにも、専攻科への進学を考え始めました。両親にも常々、5年間で卒業して就職すると話していたため、専攻科へ進学しようか悩んでいることを伝えたときには、初めは驚かれました。それでも両親は、「社会に出ても勉強することばかりだが、勉強だけに集中して取り組めるのは学生時代の今しかない」と自分の背中を後押ししてくれました。

専攻科進学後は本科と違い、研究がメインになり、講義に関しても、必修科目以外は選択科目が増えるため、自分が勉強したい分野についての知識をより深めることができました。自由に使える時間が増える反面、本科生の時よりさらに自主性が求められ、時間の使い方でも苦労することもありました。また、専攻科修了要件の一つとして、学会での発表が定められていて、専攻科で行ってきた研究を学外で発表する機会がありました。それ以外にも、講義や学内での研究発表などでプレゼンテーションを行う機会が何度もあり、プレゼンスキルを向上させることができました。各先生方のご指導のおかげで、参加した学会では賞を頂き、就職活動の際にもそのことが強みとなりました。

さらに、就職先では、100人以上の同期がいる中でも、全国の高専から集まった「高専生」のグループで内定式翌日にも食事を共にしたりするなど、大学生や院生には無い特殊な仲間意識が芽生え、この点は大学には無い強みだと身を以て感じました。

最後になりますが、これまで指導して下さった先生方、何でも話せる友人、そして、22年間支えてくれた家族には感謝してもしきれません。この場を借りて、お礼申し上げます。たくさんの人たちに支えられた鹿児島高専での7年間を無駄にしないために、これからもより一層勉学に励み、少しでも恩返しができたらと思います。



専攻科修了にあたって

電気情報システム工学専攻2年 濱田 昌也

私は、7年間の月日を高専で過ごしましたが、専攻科での2年間は特に充実した日々を送ることが出来ました。専攻科は本科と同じように一般や専門の科目を履修することになりますが、特に重要視されるのは特別研究です。専攻科生は、多くの時間を研究のために捧げることになりますが、それと同時に修了後の進路についても考えなければなりません。今回は、この進路に関して、進学を選んだ私が経験したことをお話ししようと思います。

専攻科からの進学先としては、主に他大学の大学院を目指すことになりますが、進学者のほとんどは同じ大学の学部生であり、外部入学者の定員は非常に少ないです。そのため入学試験では学部生たちに負けない成績を示す必要があります。進学を決めていた私は、専攻科1年の4月には、試験勉強を始めました。そのころの私は、本科で学んだことをよく復習すれば大丈夫であろうと、簡単に考えていたのですが、その考えはすぐに打ち壊されました。というのも、試験勉強を進めるうちに、これまで講義で学んだ内容は非常に初歩的な部分でしかないこと、他大学の学部生はより高度な内容を学んでいることを知り、いかに自分が浅学だったのかを思い知らされたからです。考えを改めてからは、参考書などを探し、空いた時間のほぼすべてを勉強のためにあてました。幸運にも、私の周りには、同じように進学を目指す友人たちがいたため、お互いに情報を交換しあい、時には息抜きなどして、意識を高めた状態のまま試験日を迎えることが出来ました。試験結果はそれまでの努力が実を結び、無事、合格をいただくことができました。私はこの受験生活の中で、常に向上心を持ち、目標に向かって努力し続けることの重要さと、協力して助け合うことのできる友人の大切さを、実感を持って学ぶことが出来ました。ここまで私事を述べさせていただきましたが、現在、高専に在学する学生の皆さんには、専攻科は大学院へ進学する進路があり、過去の卒業生も難関な大学院への進学をしていることを知ってほしいと思います。より専門的な知識を身に付けたいと考えている方がいたら、ぜひ大学院への進学を考えてみてはどうでしょうか。大学院ではより多くのことを学ぶことができますが、それだけでなく、進学するまでの過程においても現在の自分を見つめなおす良いきっかけになると思います。自分自身に足りないものを自覚し、それを補うために努力する経験は、これから技術者として社会で活躍するための基礎になると私は考えます。

最後になりますが、これまでお世話になった多くの方々々に感謝の気持ちを述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

修了にあたって

建設工学専攻2年 高見 誠也

私たちは、都市環境デザイン工学科の1期生として入学・卒業しました。専攻科においても、土木工学専攻から建設工学専攻に名称を変更した最初の入学生であり最初の修了生となります。本専攻2年生は私と池田君の2名で、研究・勉学に励んできました。専攻科入学当初は、5年間学生生活を共にした仲間たちが卒業して、研究室や教室で仲間と過ごしていた日常が無いことに改めて気づき、若干寂しい気持ちになったことを覚えています。しかしながら専攻科では、他専攻の学生と講義を行うことが多く、講義での他専攻の学生の熱意や実力の高さに衝撃を受けたほか、様々な学生と交流を持てたことから、専攻科での学生生活は充実していました。特に刺激を受けた講義が、1年生時の「環境創造工学プロジェクト」です。これは他専攻の学生とグループを作り、与えられたものづくりプロジェクトを完成させるものですが、それぞれの専門分野から考えられる知見やアイデアを創出し、協力して最終成果物を提出しました。私たちは、竹酢液を電解液に用いた竹電池（ちくでんち）の製作を行いました。製作に当たっては、自分の専門を活かして、実際に部品を機械工場で自主製作したり、コンピュータでシミュレートしたり、複雑な回路を組んだり、他専攻の学生の熱意と実力の高さに感銘を受けました。

私は本科5年時から、嫌気性微生物による廃水処理の研究を行ってきました。生物を扱っている以上、毎日世話をしてやる必要があるほか、廃棄物等強烈な臭いを発するものを扱ったり、実験なども長時間に及んだりすることが多く非常に大変でした。しかしながら、環境衛生工学分野は人間生活にとって必要不可欠であると同時に地球環境諸問題を解決する糸口になると考えております。私は今後大学院で、ナノ粒子を用いた海洋環境水質改善の研究する予定です。本校で学んだことを大いに活かし、建設工学をベースとしながら地球環境保全の一端を担える人材となれるよう努力したいと考えております。

7年間鹿児島高専に在学し、建設工学を軸に様々な勉強をしてきました。この7年間で、自分なりに大きく成長できたと感じております。これも、御世話になった先生方や職員の方々の丁寧なご指導の御蔭と感謝申し上げます。また、今まで勉学を共にしてきた学生の皆さんと7年間サポートしていただいた家族に感謝申し上げます。

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《機械工学科》

| |
|---------------------------|
| 株式会社 A・R・P |
| ANA バースメンテナンステクニクス株式会社 |
| DMG 森精機株式会社 |
| JX エネルギー株式会社 |
| NOK 株式会社 |
| 旭化成株式会社 |
| 旭硝子株式会社 |
| キヤノン株式会社 |
| 株式会社クレオ |
| 独立行政法人国立印刷局 |
| 株式会社コスモテック |
| 有限会社シーキングベストウェイ |
| シチズン時計鹿児島株式会社 |
| ジャパンフーズ株式会社 |
| ソニーコーポレートサービス株式会社 |
| ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 |
| 第一三共プロファーマ株式会社 |
| 株式会社タマディック |
| 東海旅客鉄道株式会社 |
| 西日本プラント工業株式会社 |
| 富士重工業株式会社 |
| 本田技研工業株式会社 |
| 株式会社マツダ E&T |
| 株式会社マルマエ |
| 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 |
| 三菱重工業株式会社 |
| 三浦工業株式会社 |
| 安川エンジニアリング株式会社 |
| 雪印メグミルク株式会社 |
| (進学) 鹿児島高専専攻科 (6名) |
| (進学) 鹿児島医療工学専門学校 |
| (進学) 鹿児島大学 (2名) |
| (進学) 熊本大学 (3名) |
| (進学) 東京農工大学 |
| (進学) 豊橋技術科学大学 |
| (進学) 立命館大学 |

《電気電子工学科》

| |
|------------------------|
| CTC テクノロジー株式会社 |
| KDDI エンジニアリング株式会社 |
| 九州電力株式会社 |
| 株式会社九州タブチ |
| 京セラ株式会社 (2名) |
| ダイキン工業株式会社 |
| 株式会社筑水キャニコム |
| 株式会社千代田ビデオ |
| 東京ガス株式会社 |
| 東芝メディカルシステムズ株式会社 |
| 株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング |
| 西日本旅客鉄道株式会社 |
| 株式会社日本テクシード |
| 日本特殊陶業株式会社 |
| 丸善石油化学株式会社 |
| 三菱重工株式会社 |
| (進学) 鹿児島高専専攻科 (6名) |
| (進学) 大阪大学 |
| (進学) 九州工業大学 |
| (進学) 九州大学 |
| (進学) 熊本大学 (2名) |
| (進学) 豊橋技術科学大学 (2名) |
| (進学) 長岡技術科学大学 (2名) |

《電子制御工学科》

| |
|----------------------------------|
| IHI プラント建設株式会社 |
| NOK 株式会社 |
| 飛鳥電気株式会社 |
| 花王株式会社（3名） |
| 関西電力株式会社 |
| 株式会社キラコーポレーション |
| 株式会社クレオ |
| 独立行政法人国立印刷局 |
| ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社 |
| ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 |
| 東海旅客鉄道株式会社 |
| 東京電力ホールディングス株式会社 |
| 東芝メディカルシステムズ株式会社 |
| 本田技研工業株式会社 |
| 三菱重工業株式会社 |
| 株式会社牧野フライス製作所 |
| メタウォーター株式会社 |
| 株式会社ライト通信 |
| (進学) 鹿児島高専専攻科（7名） |
| (進学) 大阪電気通信大学 |
| (進学) 九州工業大学（2名） |
| (進学) 熊本大学 |
| (進学) 信州大学 |
| (進学) 千葉大学 |
| (進学) 豊橋技術科学大学（2名） |
| (進学) 長岡技術科学大学（2名） |

《情報工学科》

| |
|--------------------------|
| NEC ネットエスアイ株式会社 |
| 株式会社NTT フィールドテクノ |
| アルバック九州株式会社 |
| 株式会社エイチ・アイ・デー |
| キャノンマーケティングジャパン株式会社 |
| 株式会社九州タブチ |
| 京セラコミュニケーションシステム株式会社（2名） |
| コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社 |
| セイコーエプソン株式会社 |
| 南国システムサービス株式会社 |
| 株式会社富士通九州システムサービス |
| 株式会社ペルテ |
| 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 |
| 株式会社メイテックフィルダーズ |
| 株式会社メンバーズ |
| 株式会社ユピテル鹿児島 |
| (進学) 鹿児島高専専攻科（5名） |
| (進学) 大阪大学（2名） |
| (進学) 鹿児島大学（2名） |
| (進学) 九州工業大学（5名） |
| (進学) 豊橋技術科学大学（2名） |

《都市環境デザイン工学科》

| |
|------------------|
| 株式会社NTT ファシリティーズ |
| 関西電力株式会社 |
| コーアツ工業株式会社（2名） |
| 国土交通省 |
| 独立行政法人国立印刷局 |
| 株式会社鴻池組 |
| 三協技術開発株式会社 |
| サンコーコンサルタント株式会社 |
| 株式会社大気社 |
| 電源開発株式会社 |
| 東急建設株式会社（2名） |
| 飛島建設株式会社 |
| 西日本高速道路株式会社 |
| パソコン技術管理株式会社 |
| 日置市 |
| 株式会社ピーエス三菱 |
| 松尾建設株式会社 |
| ライト工業株式会社 |
| （進学）鹿児島高専専攻科（7名） |
| （進学）鹿児島大学 |
| （進学）熊本大学 |
| （進学）佐賀大学 |
| （進学）北海道大学 |

《機械・電子システム工学専攻》

| |
|---------------------------|
| IHI プラント建設株式会社 |
| JFE プラントエンジニアリング株式会社 |
| JX エンジニアリング株式会社 |
| ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 |
| 株式会社ディスコ |
| 株式会社東京アールアンドデー |
| 日本精工株式会社 |
| 株式会社ハマ製作所 |
| 富士通株式会社 |
| （進学）九州工業大学大学院 |
| （進学）九州大学大学院（2名） |
| （進学）電気通信大学大学院 |
| （進学）長岡技術科学大学大学院 |
| （進学）早稲田大学大学院（2名） |

《電気情報システム工学専攻》

| |
|-------------------------|
| 日本電子株式会社 |
| 株式会社日立ハイテクノロジーズ |
| 富士通株式会社 |
| 株式会社富士通ミッションクリティカルシステムズ |
| メタウォーター株式会社 |
| メルコ・パワー・システムズ株式会社 |
| （進学）九州大学大学院（2名） |
| （進学）電気通信大学大学院 |
| （進学）東京工業大学大学院（3名） |
| （進学）長岡技術科学大学大学院 |

《建設工学専攻》

| |
|-----------------|
| （進学）九州大学大学院 |
| （進学）長岡技術科学大学大学院 |



世界にはばたく技術者に *Rise to Globalized Engineer*

一般教育科 アニス・ウル・レーマン

私は、人間がどのように学ぶかをよりよく理解したいと思っています。学校が教育水準を満たしているかどうか、また他の国と競合しているかどうか、子供たちがどれくらいうまく学習しているかについても気を配っています。もちろん、行くみちははっきり分かっても、両親は子供が平均以上であり、より良いエンジニアになることを願っていると思います。しかし、私はエンジニアとしての知識だけでなく、グローバル力を持っているエンジニアが、現代では必要だとされています。

近年、教育分野におけるグローバリゼーションが急速に進展し、人々の思考やつながりがより複雑になり、コミュニケーションのための多様な方法が生まれています。同時に、世界中の人々がボーダーレスに色々なアイデアや情報を共有し、国際的な協力の必要性が高まっています。学生は、ますます力を着けて頑張りたいと思っています。エンジニアになり、外国の技術者と国際ネットワークを構築して、勉強と研究の成果だけでなく、私たちの生活の中での様々な出会いや貴重な経験を活かすことを願っています。これらの経験が学生たちの将来の糧になることを願っています。

Being human we want to understand better how we learn. Also, we always worry about how well our children are learning, and whether the institute is meeting the educational standards and competing with other countries. Of course, the future's signals are very visible in KOSEN. We know, parents wish to believe that children are above average level and destined to receive degrees to become better engineers. I think not only engineers but also globalized-engineers are the necessity of the current era.

In recent years, globalization in educational fields is developing rapidly, creating various methods for the way people think and connect, as well as communicate. At the same time, people around the world are going beyond borders to share ideas and topics, increasing the need for cooperation within regional communities. I believe that we require more power from students, who become better engineers and build an international network with foreign engineers. I hope that you and I will utilize not only studies and research but also the various encounters and valuable experiences during our lives in KOSEN. I wish that these experiences make you globalized-engineers in the future.

新任のご挨拶

機械工学科 徳永 仁夫

平成 28 年 4 月より鹿児島高専機械工学科、准教授としてお世話になることとなりました徳永仁夫（とくながひとお）と申します。出身は熊本県で、大学時代はお隣の宮崎県で過ごし、そして今年の 3 月までは山口県にある宇部高専機械工学科に勤務しておりました。宇部高専で教壇に立った期間はちょうど 10 年で、諸先輩方や同僚、学生にも恵まれて教育や研究だけでなく、高専のしくみや学生指導のあり方など様々なことを学ばせていただきました。10 年間の教育経験を経て、いよいよ中堅として学校や地域、社会のために活躍することを期待される立場となっていることを自覚しつつ、このたび強く望んで鹿児島高専に異動させていただきました。10 年ぶりに九州男児に戻ることができたことを嬉しく思うと同時に、自らのわがままを通した以上、それなりの活躍をしなければと決意を新たにしている次第です。

さて、最近巷では「歴史ブーム」がきているとも言われておりますが、このたび「明治維新」を語る上で重要な 2 大拠点、薩摩・長州間の引越しをしました。くしくも 2016 年は薩長同盟締結から 150 年という節目の年にあたり、自然な流れとしてそれぞれの地域・歴史のことを学ぶ多くの機会を得ました。偶然ではないのでしょうか、昨年（2015 年）の NHK 大河ドラマの主人公は吉田松陰先生の妹が主人公で、再来年（2018 年）のそれは、「西郷隆盛」さんです。ちなみに 2018 年は、明治維新から 150 年に当たるそうですね。薩摩や長州という中央から遠くはなれた地域の若人達を中心となって、江戸から明治へという時代の大きな転換を成し遂げたことに畏敬の念を抱かずにはられません。

ひるがえって現代、我々は環境・資源問題、頻発する自然災害、食糧問題、少子高齢化など様々な困難な状況に直面しております。これらに加えて グローバル化という名の抗えない激流が押し寄せており、「学ぶ」「教える」「育てる」といった活動も時代に即したやり方への転換も求められています。このように困難な時代であるからこそ、やはり教育に携わるものとしてこれからの日本、これからの世界を創る人材をどのように育てていくのか、そのことを念頭に教育に励みたいと考えております。未熟者ゆえ、様々なご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしく願いいたします。

新任のご挨拶

電子制御工学科 瀬戸山 康之

平成 28 年 4 月 1 日より電子制御工学科に着任いたしました。瀬戸山康之（せとやま やすゆき）と申します。よろしくお願いたします。

私の専門は制御工学で、制御対象を目標の位置・姿勢に制御することを目的として研究を行っています。学生時代は、リアクションホイールを用いたロボットアームの運動制御に関する研究をしていました。また、私は博士前期課程 1 年のときから NPO 法人鹿児島人工衛星開発協議会に参加し、鹿児島大学と地元企業が共同で行っている小型人工衛星 KSAT の開発に従事してきました。協議会では、衛星の姿勢制御系を担当し、磁気トルカを用いた小型人工衛星の姿勢制御の方法について検討してきました。鹿児島高専では、学生時代に培ったこれらの知識を生かして研究に励んでいく所存です。

私は普通高校を経て大学に進学し現在に至るため、鹿児島高専に着任する 1 年ほど前まで、高専という学校について何も知りませんでした。そのため当時は、高専の教員として働くということは頭の片隅にもありませんでした。そんな私が高専について知る機会を得たのは、昨年の 3 月に鹿児島大学で行われた就職関係のイベントで、鹿児島高専の学生や先生と話をしたことがきっかけでした。実は、数合わせでイベントに参加しただけだったのですが、私が高専という進路を意識する大きなきっかけとなりました。たまたま参加したイベントで自分の将来を決めるきっかけが見つかるなんて、世の中どこで何があるかなんてわからないものだなとつくづく感じております。

私は生まれも育ちも鹿児島で、今年の 3 月に鹿児島大学を卒業するまで、自分の家も通っていた学校も鹿児島市内にあり、変わらない景色を眺めながら過ごしていました。そのため、高専の学生の多くが県内外から親元を離れて寮に住んでいるということにはとても驚きました。今年度は校務軽減で寮の宿直をすることはありませんが、他の先生方からは『高専のことを知るには寮を見るのが一番』と聞いているので、来年度からの宿直では、学生の皆さんとコミュニケーションをとっていくことを楽しみにしています。

着任前は、自分のようにまともな教育経験のない人間が教育現場でやっていけるのかと不安に感じていましたが、多くの教職員の方々に助けをいただき、気づけば 8 ヶ月の時が過ぎました。まだまだ未熟であるため、ご迷惑をお掛けすることも多いと思いますが、精一杯頑張っていきたいと考えておりますので、どうかご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

総務課企画室 徳田 眞澄

平成 28 年 4 月 1 日付けで、鹿児島大学から総務課企画室に赴任して参りました徳田 眞澄と申します。これまで何度か鹿児島高専勤務を経験しているからか、今回の異動については、結構余裕を持っていました。しかし、今年 4 月 1 日に設置されたばかりの企画室での勤務ということを知った瞬間、一気に不安な気持ちと緊張感が高まったことはまだ記憶の中に残っています。お陰様で？半年以上経った今でも新入社員のようなドキドキを味わいながら業務に当たっております。

前回異動（平成 16・17 年度）後、久しぶりに訪れた鹿児島高専について感じた第一印象は管理棟を始めとする建物がとても綺麗になったということです。外見も綺麗になっておりましたが、事務組織も庶務課・会計課・学生課の 3 課体制から総務課・学生課の 2 課体制に変革していることも驚きでした。また、土木工学科がいつの間にか都市環境デザイン工学科に名称変更していました。自分のことは取って置くと、久しぶりにお会いした教職員の皆様がそれなりに年齢を重ねておられ、まさに 10 年一昔 改めて歳月の流れを感じた 4 月でした。

10 年間続いた電車通勤が自転車通勤に変わり、通勤時間が 1 時間 20 分から僅か 10 分足らずと劇的に短縮され、とても楽になりました。冬の時期、まだ真っ暗な道を駅まで通ったあの日々は既に遠い過去のものになってしまいました。

平成 27 年度、鹿児島大学を代表校として文部科学省に申請し採択された「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の参加校としての鹿児島高専の事業に携わせていただく事になったのも何かの縁なのかもしれません。

企画室の仕事は予想していた以上に幅広く奥深くまだ全容を掴むまでには至っておりませんが、当初感じた戸惑いは随分薄れたような気がします。赴任直後は影を潜めていた“時々パソコンに向かって話しかける”変な癖が最近仕事で、ひょこっと出るようになったのも余裕もどきの現れかもと前向きに解釈しているところです。

企画室は地方自治体や企業等の方々と接する機会がかなりありますので、鹿児島高専のイメージアップに繋がるよう、また、教職員の皆様の教育研究活動に少しでも貢献できるよう、努力してまいります。これからもご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

総務課施設係 若林 俊幸

平成 28 年 4 月 1 日付けで鹿児島大学附属病院管理課から赴任して参りました若林俊幸と申します。

出身は熊本市で、実家は旧陸軍第 6 師団の練兵所だった帯山と言う所にあります。地元大学を卒業し鹿児島大学施設部に新規採用されました。その後、鹿屋体育大学・長崎大学・有明高専・宇宙航空研究開発機構（内之浦宇宙空間観測所）・鹿児島大学附属病院と移動し、本高専は、7カ所目の職場となります。

中でも一番印象に残っているのは、やはり JAXA に居た時で観測用ロケット打ち上げにも携わって来ました。HⅡ-A や HⅡ-B ロケットの打ち上げ時は、種子島まで手伝いに行き宇宙センター敷地内で打ち上げを間近で見れた等、経験したことがない事ばかりでした。ちなみに、飛行機の離陸は「テイク・オフ」と言いますがロケットの場合は「レッツ・ゴー」です。また、ニュース等で種子島での打ち上げをご覧になった事があると思いますが、バックで流れているカウントダウンの女性の声、あれはコンピューターの声です。

有明高専に居た時、ロボコン九州大会の当番校になったときがありました。トラックに乗って高専と会場を行き来したり、警備をしたりしました。懐かしいです。

ところで、この“若林”と言う姓は、元々山城国・丹波国、つまり今の京都あたりの姓らしいです。現に、ご先祖様は細川藩の（下級）武士で、加藤清正に変わり肥後を納めるため小倉城にいた細川氏のお供でお国入りしたそうです。ですので、小倉に来る前は当時の都にいたのでそれがルーツみたいです。死去したお殿様と一緒に殉職（切腹）したと言う話しも聞いたことがあります。

赴任当時（昭和です）若林と言う姓は、鹿児島では珍しく「若松君」とよく間違われました。「いえ、若林です！」と、しょっちゅう訂正をしていた次第です。また、当時は戦前や昭和一桁生まれの方々もおられ、私にとって“薩摩弁”との闘いでもありました。ともかく、なんと言っているのか、なんて喋っているのかまったくチンプンカンプンでどうしたら良いか悩みました。「地方に行ったらまた違う」と言われましたが、私にとっては同じです！今は当時みたいにそんなに激しく（？）はありませんが、でもたまに人生のベテランの方と話すとわからないです。薩摩弁の私的な感想は、「あいうえお、かきくけこ…」の話しが「あかさたなはまやらわん」としか聞けませんでした。それと鹿児島と言う所は、春と秋が殆ど無いのですね…。

そんな私ですが、皆様改めてよろしく願いいたします。

新任のご挨拶

学生課図書情報係 末吉 健一

平成 28 年 7 月 1 日付けで、都城高専総務課企画係から 3 年ぶりに鹿児島高専に戻ってまいりました、学生課図書情報係の末吉健一と申します。

前職の都城高専へは、自宅のある霧島市から、自家用車で 1 時間かけて通勤しておりました。通勤時間が短くなった分、その時間や図書館勤務の利を生かし、読書に勤しんでまいりたいと思います。最近読んでいる本は、図書館閉架書庫 3 階にある古くなって学生さんが借りなくなった本です。図書館の閉架書庫に興味がある方は、ご案内いたしますので、声をかけてください（パソコン等で蔵書検索できます。）。また、学生さんが読みたい本が図書館にない場合には、「学生希望図書」で申請してください。できるだけ、希望に添えるようにしたいと思います。

さて、鹿児島高専と都城高専は、比較的近くにあり、両高専から霧島連山が眺められるなど、どちらの高専も素晴らしい環境の下に設置された素晴らしい高専だと思っております。

私事ですが、運動不足のため、この 9 月からトレーニングジムに通い始めました。1 週間に 3 回ジムに通うことを目標としており、霧島連山をトレッキングしたいと思っておりますが、いつのことになるやらと思っているこのごろです。

私の目下の問題は、都城高専（勤務歴 19 年）と鹿児島高専（勤務歴 13 年目）が高専大会等で対戦した場合にどちらを応援するかです。今年度のロボコン大会は、対戦はありませんでしたので残念でした。

図書館での勤務にもようやく慣れ、楽しく仕事をさせていただいております。鹿児島高専の発展のために全力を尽くす所存でございますので、なにとぞ、ご指導ご鞭撻をよろしく願いいたします。

新任のご挨拶

学生課寮務 係長 久保田 雅也

平成 28 年 11 月 1 日付で鹿児島大学総務部人事課から赴任して参りました久保田 雅也と申します。

私は平成 17 年に鹿児島大学に採用された後、財務系の仕事を中心に従事してきました。そして 4 年前に文部科学省行政実務研修生として東京に赴任し、日本芸術院を経て、平成 28 年 4 月に鹿児島大学に戻り、この度、鹿児島高専に赴任することとなりました。

当初、異動の話聞いたときは大変驚いたのですが、私は元々伊佐市出身で、子どもの頃にはよくこの隼人・国分地区には買い物や遊びに来ていたり、英検の試験を受けに鹿児島高専に来ていたので、何かの縁を感じています。

寮務係の仕事は、朝の巡回から始まり、寮生が戻ってくるまでに、電球の交換や壊れている箇所の補修など様々な業務で動き回ることが多く、今までのデスクワーク中心の生活から一変し、一度、万歩計で計測した時には、1 万歩以上歩いたので、日頃の運動不足解消にもなって一石二鳥かなと実感しています。

赴任当日の着任式の際にもお話をさせていただきましたが、私は、身長も体重も大きいので、東京の両国国技館に初場所の見物に行った際、引退した”親方”と間違われ、それ以降”親方”と呼ばれることが多くなりました。校内で見かけると、遠くから壁のような男が歩いてきたと思われるかもしれませんが、決して怖くはありませんので、気軽に”親方”と声をかけていただくと嬉しいです。また寮生に対しても、時には優しく、時には厳しく接する、真の意味での”親方”になれるよう努力していこうと思います。

赴任してからの 1 か月は、ただただ鹿児島高専と志学寮の雰囲気と業務に慣れるのに精いっぱいいろいろな空回りすることが多々ありました。今後もいろいろとご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、鹿児島高専の職員として、鹿児島高専のため、また寮生のために貢献することができるよう頑張っまいりますので、ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

就任のご挨拶

学生課寮務係 鹿子木 いずみ

平成 28 年 7 月 1 日付けで、鹿児島大学から学生課寮務係へ赴任させていただきました、鹿子木 いずみと申します。「学生寮の係」という慣れない業務で不安な部分もありますが、自分にできることを精一杯やってみようと思っております。よろしくお願いいたします。

私は学生時代と社会人になってからの数年間を名古屋で過ごしました。高校と大学は実家から通っており、学生寮での「寮生活」を経験したことはありません。しかしながら、私は大学生の頃、夏休み時に長野県のリゾートホテルへ語学留学するための資金を貯めるために泊まり込みでアルバイトをしたことがあります。その時に初めて寮での生活を経験しました。1 ヶ月間という短い間でしたが、朝から晩まで働き詰めの毎日でした。古くなったホテルの別館を「社員寮」として開放し、ホテルの従業員が生活していました。その時に会った方々や寮母さんは今でもしっかりと心に残っています。また、寮母さんがいつも明るく声をかけて下さり、うれしく感じていたことを覚えています。寮母さんは最後、寮を出る際に餞別まで下さいました。一人で大変な生活でしたが、人の温かさや優しさをより感じる事ができたように思います。

寮務係に配属となってからは、その頃を時々思い出します。社員寮と学生寮では異なりますが、その時にうれしいと感じたことを思い出しながら、今度は自分が寮生へ日々の生活の中でお返しできればよいと思っています。

私は鹿児島大学での職員歴も浅く、学生系の仕事は前任地で鹿児島大学歯学部にて教務係を 3 年 4 ヶ月経験した程度です。いろいろ至らないところも多々ありますが、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任のご挨拶

総務課用度係員 脇 亮輔

平成 28 年 4 月 1 日付けで総務課用度係に赴任いたしました脇 亮輔と申します。

鹿児島大学を卒業後、そのまま同大学の職員に採用されました。初任地として、鹿児島市の桜ヶ丘にあります医学部・歯学部附属病院の管理課調達係にて約 3 年間働き、最初の異動で鹿児島高専の総務課用度係に 3 年間の人事交流という形で訪れることとなりました。

私は生まれも育ちも鹿児島市で、霧島という土地にあまり縁がありません。なので、この 3 年間を通じて霧島を充分に感じる事が出来たらと考えています。主な環境の違いとしては、気温が市内と比べて低いことが一番に思い浮かびます。非常に寒がりです。市内でさえ凍えていた虚弱な私が、3 年後にどれだけ寒さへの耐性を手にしているのか今から楽しみでなりません。

以前までと異なる箇所といえば、職場の雰囲気も大きく変わります。附属病院では学生との接触はほぼなく、医師や看護師を相手取って仕事をしていたので、教育機関の事務職員としては少し寂しい思いをしていました。本校に赴任し、学生の活気に触れながら働ける環境を非常に心地よく感じています。いくつかの学校行事にも参加させて頂きましたが、学生のひたむきさ・若さが生み出すエネルギーを近くから見ていると、彼等が今後の社会を牽引していく存在となっていくことを期待せずにはいられません。大きな飛躍を控えたこの時期を支えることが出来る喜びを噛みしめると共に、学生に不便な思いをさせぬよう、鹿児島高専の一職員としてより強い自覚と自負を持ち日々を過ごしていかなければならないと襟を正される思いです。

私が本校にて与えられている業務は、主に学内全般の物品の購入及び役務などの契約になります。前任地の調達係でもほぼ同じ業務をしており、新天地ながらいくらかゆとりを持って働けていることが幸いです。とはいえ、いろんな種類の予算や病院とは全く異なる購入物品など、覚えることは数えきれないほどあり、力量不足を痛感する毎日を過ごしております。教職員の皆様には多大なご迷惑をおかけしているにも関わらず、優しく接して頂き、周囲の人々に恵まれていると強く感じる次第です。

微力ながら業務を通じて、鹿児島高専をより良くしていくお手伝いが少しでも出来たらと考えておりますので、若くまだ至らぬことばかりの私に、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

新任のご挨拶

学生課教務係 福元 千尋

平成 28 年 7 月 1 日付けで、鹿児島大学から学生課教務係に赴任して参りました福元千尋と申します。

鹿児島大学には、平成 26 年 4 月に採用され、農学部・共同獣医学部等学務課教務係に、2 年 3 ヶ月間、所属しておりました。

私は地元が隣の始良市なのですが、異動が決まるまでは高専がある場所さえ知らず、高専という学校自体に余り馴染みがありませんでした。

いざ赴任してみると、高専は学生さんの年齢も若く、それぞれのクラスや教室があって全体的には高校のような雰囲気であり、たまに大学のようなシステムが混ざっている、というのが最初の印象でした。学生さんたちが、すれ違うときちゃんと挨拶をし、部屋に入る際にはきちんと名乗る、という礼儀正しさには、大変驚き、好感が持てました。

大学に比べると規模は小さいですが、教職員の方々の雰囲気もアットホームな雰囲気で、大変居心地が良く感じています。

最初は心配していた通勤に関しても、駅から自転車を利用しているのですが、毎朝大勢の学生さんたちと連なって学校に向かう光景は、未だに面白さがあります。もう少し慣れたら、運動を兼ねて歩いて通勤してみるのも良いかな、と考えたりもしています。

仕事面では、以前と同じ教務係ではありますが、大学とは担当する業務も異なり、高専特有の業務もあることから、未だに戸惑うことも多々あります。

不慣れなことから、ご迷惑をお掛けすることが多々あるかと思いますが、少しずつ勉強させて頂き、慣れていきたいと思っております。

仕事面以外では、せっかく霧島市で働くことになったので、その間に霧島のおいしいお店を開拓していくことを、個人的には密かな（大きな！？）楽しみにしております。

これから、鹿児島高専の発展に少しでも貢献できるよう精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

新任のご挨拶

総務課国際交流室 上野 志織

平成 28 年度 4 月 1 日付で鹿児島高専の職員として採用され、総務課国際交流室に赴任して参りました上野志織と申します。

昨年度までは、鹿児島大学法文学部の学生でした。生まれてこのかた鹿児島県在住ですが、実家が転勤族だったため、離島を含む県内全域を転々として育ちました。

小さい頃からずっと音楽が好きで、吹奏楽に、アカペラに、ピアノに、編曲に、興味のあることは一通りトライしてきました。もう少し新生活に慣れたところで、久々にピアノを再開したいと考えているところです。

好きなことをある程度自由にすることができた学校には良い思い出が多く、これから先学生でなくなっても教育機関に携われたら楽しいだろう、という希望が叶ったことを嬉しく思います。

国際交流室へ配属となった当初は、正直これまで海外に特別の関心を持ったことが無かったために戸惑いが大きく、時間のある学生時代、英語と真剣に向き合っておくべきだったと後悔もしました。現在は私生活に英語表記を増やし、海外のニュースに目を向けることで、まずは生活の中にグローバルが自然に入ってくるよう意識して過ごしています。

この業務に半年間携わり、社会全体がグローバル化を志向している現代において、高専のグローバル化もまた、今後のために不可欠だろうと実感しております。手探りで進む部分に難しさを感じる一方で、気にかけてくださる方が多くいらっしゃることに有り難さを感じる日々です。

また、学生と年代が近いこともあり、廊下をすれ違えば先輩と間違えられ「お疲れ様です」、留学生の文化研修に同行すれば「Are you a staff!? Unbelievable!」なんて日常茶飯事です。ネームプレートが手離せないと思う一方で、学生にとって国際交流室も私も、身近に感じてもらえるのであれば嬉しいと考えているところです。

まだまだ不慣れな点ばかりで、皆様にはご迷惑をお掛けすることも多いかと思いますが、生まれたばかりの国際交流室とともに少しずつ成長し、鹿児島高専の発展に貢献していきたいと思っております。

ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

定年退職のご挨拶

総務課 高倉 澄宏

この度、平成 29 年 3 月 31 日付けをもちまして定年退職を迎えることになりました。昭和 56 年 6 月に本校の学生課に赴任して以来、人事交流で 3 年間鹿児島大学病院に転出しましたが、その期間を含めて 36 年がたちました。

私の高専での仕事は、学生課と会計課でしたが、振り返りますと、苦しかったこと楽しかったことが数多く思い出されます。

一番の思いでは、平成 16 年度から国立学校法人化に伴い会計システムも大きく変更となりました。「国立学校特別会計」から「財務会計（法人会計）」に変更になりましたので、日本銀行加治木代理店（鹿児島銀行加治木支店）への廃止の手続きがかなり複雑であり苦勞しました。また、変更の手続きをしながら「これからは独立行政法人になるのだな」と強く感じたのが思い出されます。

思い出は尽きませんが、これから皆様の仕事内容は益々多様化していくと考えます。皆様で協力し頑張っていたきたいと思います。

最後に鹿児島高専のますますのご発展と皆様方のご健勝を祈念して、退職の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

退職のご挨拶

学生課 有菌 俊子

昭和50年6月会計課出納係に採用され、桜の咲く入学式、金木犀の香る頃の文化祭・体育祭などの行事を繰り返しながら、年度末で定年退職を迎えることとなりました。鹿児島大学へ出向しました3年間を含めた41年10ヶ月の勤務の間、目の前の仕事に追われ、不器用に働き続けて、皆様にはご迷惑をおかけしたことも多々あったかと思いますが、温かい言葉をかけていただき職務に励むことができましたことを感謝いたします。

多くの係を経験しましたが、寮務係では、初めての女性の係長ということで寮務主事にはご心配をおかけしましたが、主事・主事補・寮務委員の先生方・寮生会の学生に助けられ仕事できましたことは楽しい思い出となっています。

寮生から「学校の職員」というよりは「近所のおばさん」のように接してもらい中間点呼までおしゃべりをしていました。初々しい姿の1年生が5年の間、成長する様子を見守ることができるのも楽しみでした。7年前から入試広報係長、教務係長、学生課長補佐として主に入試を担当し、入試のたびに眠れない夜も多々ありました。年々入試倍率は下がり、厳しい状況となりましたが、多くの中学生に魅力ある高専を広報して頂きますようお願いいたします。大学では、一緒に働いた女性から「有菌さんは自分のやりたいように仕事してきた人みたい」と言われ、長い年月を高専・大学で勤務できたことは、幸せな人生と心より感じています。

最後になりましたが、高専のさらなる発展と皆様のご活躍、ご健康をお祈りして、退職の挨拶に代えさせていただきます。

長い間、本当にお世話になり、ありがとうございました。

保健室より感謝を込めて

学生課学生係 南田 直子

平成6年4月1日私の高専勤務は始まり、平成29年3月31日定年退職で終わります。学生課の職員の方々、先生方、特に学生主事・学生何でも相談室長の先生方々、皆さまには、本当にお世話になり感謝しております。ありがとうございました。

厚生会館の2階の、訪れる学生を待つ仕事場は、学生と共に笑い、時には悲しみ、叱り、励まし等時間を共有した場所でした。保健室を卒業まで、1回も利用しなかったという学生も多いと感じています。ここ3年間の来室者状況を見ると、利用者は毎年約3割です。その一方で、毎日卒業まで1日1回は、保健室に顔を見せてくれる学生もいました。彼らは保健室で、私と話すだけでなく、先輩・後輩と、勉強の事、部活の事、寮の事、友人や親との人間関係など、いろいろな縦・横・学科を超えた語らいの場を作ってくれ、元気になった学生も多くいました。

長く勤務していると、在校生以外に卒業生達が、就職した、恋人ができた、結婚した、子供ができたと折に触れ、保健室を訪れてくれます。就職した卒業生が帰ったあと、在校生に、さもわが子の事のように、彼・彼女達が頑張っていることを、お土産のおすそ分けをしながら自慢し、学業や人間関係に悩んでいる在校生には、個人情報を守りながら、卒業生の経験を話すこともありました。

そんな卒業生達に、これまで15回結婚披露宴に呼んでいただき、うれしい反面、新郎新婦が、お相手の親御さんに保健室を利用する身体の弱い人だと思われなかと心配し、おせっかいにも説明したりしました。

私の在職中、交通事故で4人の学生が、命を落とし、病気で2人の学生が、卒業を待たずに亡くなりました。親御さんの悲しみはいかばかりかと胸が痛みます。元気で学業や部活もがんばり、はつらつとした日々を送る学生達の一方、思春期は、病気や事故、こころの葛藤とともにあることを再確認しました。交通事故で、5年生の時、車いす生活になられた学生が、いました。その学生の保護者から、「神様は、その人に背負えないものを与えない。きっと、がんばってくれる。」と気丈に教えていただいたことは、ずっと忘れません。このように保健室の先生と呼ばれながら、学生や教職員の方々にこの年齢になっても、教えていただくことの方が多かったように思います。

最後に健康は、人生の目標ではありません。しかし、なにをするでも、ベストな体調で臨めるように、みなさまご自愛ください。これから、地域の一住人として、鹿児島高専の更なるご活躍を応援してまいります。

本当に、これまでありがとうございました。

平成28年度の国際交流室の活動について

副校長(総務・企画、国際交流、地域連携担当)
国際交流室長 大竹 孝明

高専生活 26 年目にして初めて、国際交流担当副校長として、総務・企画及び地域連携担当と兼務で国際交流室長を担当することになりました。地域連携担当と同じく、前任の植村先生が平成 28 年 3 月末で定年退職されたのに伴い、引き継ぐ形で私の副校長の任期の平成 29 年 3 月までの 1 年のみの担当です。

初めての国際交流担当で戸惑うことばかりでしたが、国際交流もすっかり様子が変わり、今年度が 5 年目の最終年度でしたが、本校が拠点校の九州沖縄地区の 9 高専連携事業、本校の専攻科生や本科生の海外インターンシップや海外異文化研修(表 1 を参照)や、フランスやタイからの短期留学の受入等の多くの事業が行われており、これまでの関係者の取り組みに敬意を表します。

高専は、現在、世界を支える技術者育成のため様々な取り組みを展開しているところですが、教育や研究等のグローバル化が益々重要なものとなってきております。このグローバル化につきましては、学内の多くの皆様方のご協力が不可欠ですので、今後ともよろしくお願い致します。

今年度の国際交流関係につきましては、高専機構の「グローバル高専事業」の第 5 ブロック(九州沖縄地区高専)の拠点校としての指定を受け 3 年間取り組むことになりました。また、本校の専攻科生や本科生の海外インターンシップや海外異文化研修、フランスやタイからの短期留学の受入、スウェーデンとベトナムの高校及び大学からの訪問・交流、長期留学生の研修や国際交流事業への参加等の多くの事業を行いました。さらに、最終年度となりましたが九州沖縄地区の 9 高専連携事業の取り組みがあり、慌ただしく多くの課題が残った一年でした。総務・企画及び地域連携担当との兼務と言うこともあり、国際交流室長としての責任を十分に果たすことができず申し訳ありませんでしたが、国際交流関係の皆様方のご協力に対しまして深く感謝を申し上げます。

今年度の国際交流委員会(国際交流室)の関係者については、新たに担当副校長補佐として機械工学科の塚本先生に学科長としてお忙しい中担当頂きました。一般教育科(英語)の坂元先生には昨年度に引き続き副校長補佐をお願いしました。また、同じく一般教育科(物理)から篠原先生にも、学生主事補との兼務でしたがご協力を頂きました。昨年度の国際交流担当副校長でした植村

先生は定年退職となりましたが、9 高専連携事業につきましては総括責任者として担当頂き、国際交流関係事業につきましてもご協力、ご助言を頂きました。

今年度、高専機構の「グローバル高専事業」を担当することになったこともあり、国際交流委員会に新たに「国際交流室」が設けられ、総務課に担当職員が配置され、上野係員が新たに着任されました。また、9 高専連携事業担当の今西係員及び藤田係員にもご協力を頂きました。

最後に、今年度(平成 28 年度)の行事等の活動(予定を含む)の主なものについてご報告致します。

平成 28 年度の主な行事・活動内容

- ① 平成 28 年度機構本部「グローバル高専事業」の採択九州沖縄地区第 5 ブロックの拠点校、3 年間事業
- ② 海外異文化研修旅行(8 月～9 月)
ベトナム、タイ、スウェーデン、ハワイ、フランス、台湾
- ③ フランスからの短期留学生受け入れ
モンペリエ、トゥールーズ IUT、2 月 13 日～6 月 24 日
- ④ タイからの特別聴講学生について
KMUTNB KU(タイ(バンコク))、6 月 1 日～8 月 1 日
- ⑤ スウェーデンの高校の教員・学生の訪問、交流
ストックホルム NTI 高校、10 月 27 日～11 月 2 日
- ⑥ ダナン科学技術大学(ベトナム)教員・学生の訪問
さくらサイエンスプラン、10 月 5 日～10 月 13 日
- ⑦ 学内英語キャンプ(ECC)(平成 29 年 1 月予定)
- ⑧ 鹿児島高専門のカレッジアンバサダー規則制定
- ⑨ 国際交流基金の再検討・整備
- ⑩ マレーシア工科大学と包括的交流協定 UTM を締結
ジョホールバルキャンパスでの ISEED' 16、9 月 26 日
- ⑪ 長期留学生支援活動
文化祭展示、日本文化研修旅行、支援懇談会(2 月末)
- ⑫ 9 高専連携事業(最終年度(5 年目))
海外学生交流派遣、海外インターンシップ他多数
- ⑬ 平成 28 年度 9 高専連携事業国際シンポジウム
ペトロナス工科大学(マレーシア)、1 月 18 日
- ⑭ 国際交流に関する講演会の開催
・ペトロナス工科大学 上村芳三教授、11 月 22 日
・韓国海洋大学 金允海教授、1 月 5 日

表 1 平成 28 年度海外研修計画

国際交流委員会 国際交流室

● 1・2・3年生対象プログラム

研修内容は、以下の内容になります。

- 1) 語学研修
- 2) 学生交流

| 渡航先 | 日程 | 人数 | 訪問先 | 費用 | 備考 |
|---------------|----------------------------------|-----|--------------------------------|--------|----------------------|
| アメリカ (ハワイ) | 9月3日(土) ～ 17日(土) (15日間) | 20名 | ● ハワイ大学 (カウアイ・コミュニティー・カレッジ) | 約 35 万 | 1) パスポート有効期限残 90 日以上 |

● 2・3年生対象プログラム

研修内容は、いずれの国においても以下の内容になります。

- 1) 大学における学生との交流
- 2) 日系企業の工場見学
- 3) 異文化理解のための文化施設および名所観光

| 渡航先 | 日程 | 人数 | 訪問先 | 費用 | 備考 |
|---------------|----------------------------------|------------------------|----------------------------------|--------|---------------------------------------|
| タイ (バンコク) | 9月11日(日) ～16日(金) (6日間) | 約 15 名 | ● カセサート大学 ● タイ・ローム ● 寺院など | 約 16 万 | 1) パスポート有効期限残 6 ヶ月以上 |
| ベトナム (ハノイ) | 8月24日(水) ～ 28日(日) (5日間) | 約 15 名 (都城高専の学生も一緒) | ● ハノイ大学 ● ベトナム TOTO ● 史跡など | 約 11 万 | 1) パスポート有効期限残 6 ヶ月以上 2) ハノイ大学の寮に宿泊 |
| 台湾 (台北) | 9月25日(日) ～ 29日(木) (5日間) | 約 15 名 | ● 台北科技大学 ● 平田機工 ● 博物館など | 約 10 万 | 1) パスポート有効期限残 3 ヶ月以上 |

● 2・3年生対象プログラム

研修内容は、以下の内容になります。

- 1) IT 技術系高校における学生との交流
- 2) 大学見学と現地企業の工場見学
- 3) 異文化理解のための文化施設および名所観光

| 渡航先 | 日程 | 人数 | 訪問先 | 費用 | 備考 |
|---------------------|------------------------------------|--------|--------------------------------|--------|----------------------|
| スウェーデン (ストックホルム) | 8月30日(火) ～ 9月8日(木) (10日間) | 約 15 名 | ● NIT 高校 ● ウプサラ大学 ● 現地企業 | 約 30 万 | 1) パスポート有効期限残 3 ヶ月以上 |

● 3・4・5年生対象プログラム

研修内容は、以下の内容になります。

- 1) IUT 校 (技術短期大学) における学生との交流
- 2) エアバス社の工場見学
- 3) 異文化理解のための文化施設および名所観光

| 渡航先 | 日程 | 人数 | 訪問先 | 費用 | 備考 |
|------------------------------|-----------------------------------|--------|-----------------------------------|--------|----------------------|
| フランス (モペルジェ・トゥールーズ・マルセイユ) | 9月13日(火) ～ 22日(木) (10日間) | 約 15 名 | ● IUT 訪問 ● エアバス社 ● 市街地文化財視察 | 約 30 万 | 1) パスポート有効期限残 3 ヶ月以上 |

※ いずれの旅も、海外研修旅行保険加入は必須です。(旅費には含まれません)

※ パスポートの有効期限の残り期間に注意して下さい。

※ 本校の海外研修プログラムでは、支払いは8月末、12月末、2月末の3回の分割払いが可能です。

海外インターシップに挑戦して

電子制御工学科 4年 川野 啓太

今年の夏休み2週間単身でベトナムのTOTO(以下TVN)でインターシップに参加させていただきました。空港を出た途端に感じたのは日本ではなかなか味わうことのできない排気ガスの強烈な臭いでした。「ああ、ここは日本じゃないんだな」と感じる事ができました。

それから始まった2週間のベトナムでの生活は驚きの連続でした。まず交通マナーの違いです。ノーヘルや3人乗り、4人乗りまで見かけるバイク。歩行者は車両を避けながら渡らないといけないう差点。必ずどこかで鳴っているクラクション。日本と一番の違いを体感できたのは道路でした。次に食文化。ベトナムで有名な料理といえばフォーという麺料理ですが、それ以外にもヘルシーな食べやすい料理が多かったです。しかし水や食器など不衛生なものが多く、気を付けなければお腹を壊しそうでした。そして、物価です。日本と比べると何でも安価でした。普段使う生活用品からホテルの料金まで日本の2～5割ほど安く感じました。特にタクシーは、とても気軽に乗れる値段になっていました。2週間ホテルに一人で生活しましたが、お金に困るようなことはなかったです。

インターシップ先では、多くのことを学ばせていただきました。TVNのインターシップ内容は、工場の人事・総務部署の一員として業務に同行させていただき、様々な経験を積ませていただくというものでした。特に印象に残っているのは、各部署の部長たちが集まって行われたリーダー研修で自分の経験についてプレゼンを行ったことでした。テーマが「前向きな気持ちで成功したこと」というもので、私は、鹿児島高専で伝統的な行事となっている応援団についての紹介とそこでの経験についてのプレゼンを行いました。普段大勢の前で自分の話をする機会もなかなかありませんが、まして、それが、日本語の通じない方々だったのでとても緊張しました。

二週間の海外インターシップで、高専の中だけでは得ることのできなかった経験や、新しい価値観を知ることができました。言葉は違えど、志を一つに仕事に取り組むTVNのスタッフの皆さんは自分の将来の目標の一つとなりました。いつかベトナムにも恩返しができるような技術者を目指して更に成長していきたいです。

スウェーデン研修を終えて

情報工学科 3年 梶原 峻喜

1年の時にアメリカに行き、すごく貴重な体験ができたのでまた外国に行きたいと思い、本校の海外異文化研修に参加しました。

スウェーデン研修の1日目は、スウェーデンのNTI高校を訪問しました。NTI高校の生徒の大学生かと思うほどの容姿や身長の高さに驚きました。僕たちのプレゼンテーションは、NTIの学生たちが僕等の拙い英語を理解しようという意思が凄く感じられ、とてもやりやすかったです。そのおかげでプレゼンテーションは、上手くなりました。その後NTIの学生とストックホルムを散策した後に、遊園地に行きました。すごく楽しくその後の野外ライブも盛り上がりました。2日目は、NTI高校でNTIの学生と一緒に授業を受けました。学生達はとても優しく接してくれました。写真撮影の授業があることに驚きました。VR体験もできこの高校にこのまま入ろうかなと思うほど楽しかったです。3日目は、NTIの学生と一緒に美術館や博物館、ショッピングモールに行きました。だんだん英語も聞き取れるようになり会話が増えどんどん仲良くなりました。その日はショッピングモールに行った後解散だったのですがNTI高校の人と会えるのはその日が最後だったので夕食を一緒に行きませんか？と話しその後夕食に行きました。そこでみんなと連絡先を交換し合いとても充実した1日が送ることができました。4日目は、現代アートの美術館に行きました。その後は自主研修だったのでノーベル博物館に行きいろいろと散策をしました。4日目だったので道も大体把握してスムーズに散策できました。5日目は、会社見学をし、6日目はウプサラ市を見学しました。

今回の海外研修を通して、日本では経験でいない事をたくさん体験でき、参加して本当によかったです。また機会があれば外国に行きたいです。

今度はNTIの学生が鹿児島にやってくるので、鹿児島の良いところをしっかりと伝えられたらいいなと思っています。





在校生の皆様へ

機械工学科卒 木元 大輔

在校生および保護者の皆様、初めまして。2010年に機械工学科を卒業した木元と申します。

この度、大変お世話になりました塚本先生よりお話を頂き高専便りに寄稿することとなりました。

簡単に私の紹介をしますと、卒業後は熊本大学→熊本大学院へ進学し、現在は大分県にあるダイハツ九州株式会社で働いております。高専時代は、熱の研究を行っていましたが、熊本大学では、ロボット聴覚の研究、現在働いている会社では、部品発注システムのオペレーションや管理を行っています。

卒業して6年ほど経ちますが、その中で私が感じたことは、「何にでも興味を持つ」ことが大切だということです。高専の勉強の中では実際に何に使うことができるのか分からないような教科がたくさんあるように感じますが、実際には様々なところで役に立つことがあります。大学院では、ロボット聴覚の研究を行っていましたが、この分野では、プログラムはもちろんですが、統計学や微分積分など様々な知識を使うことで、音声認識や位置確認を行います。

また、就職してからも高専で学んだ知識が役に立ちました。私が働いているダイハツ九州では、軽自動車を生産していますが、機械科で学んだ材料力学や流体力学など様々な知識を必要とします。私は開発には携わっていませんが、車会社で働いている社員として最低限の知識を学ぶための座学研修が3か月程度あります。その中で、学生時代に見て触れたことがあるような知識がたくさん出てきます。

研修の中で、もっと学生時代に興味を持って取り組んでいればと後悔したことがたくさんあります。これらの経験から、学生の皆さんにはもっと興味を持って勉強に取り組んでほしいと思います。

何でも興味を持って学ぶことが大切だと書きましたが、興味を持つこと、勉強することは人から言われてもなかなか実践することは難しいと思います。実際に自分も学生時代にできていませんでした。しかし、自分が好きなことは別だと思えます。そういった分野（自分はロボットや車・バイクに関連するような知識でした）から徐々に自分のペースで学んでいくことが大切だと思います。そういった積み重ねが、将来、役立つときがきます。最後にですが、就職してからは何をやるにしてもなかなか時間を取ることができません。今思うと高専時代にもっと遊びも勉強もしておけばよかったと後悔しています。また、高専時代に5年間一緒に学んだ仲間は今後も相談や遊んだりできる大切な友人になります。一緒に遊び、遊んで後悔のない学生生活を過ごして下さい。

自分流で目指した宇宙

平成26年3月 電気電子工学科卒業
宇宙航空研究開発機構（JAXA） 杉菌 光太郎

皆様こんにちは。私は現在、種子島宇宙センターでロケットの打上げに使用する施設・設備の保全や開発の仕事をしています。先日のH2A・31号機、イブシロンロケット2号機の打上げでは、指令管制棟と国内外のロケット追尾局を結ぶ通信設備の運用を行い、H2A・32号機では飛行安全管理担当として、ロケットの飛行経路やエンジンの燃焼状況を監視する業務に従事しました。

JAXAで働いていると、「大学では宇宙関係の勉強をされていたんですか？やっぱり東大卒なんですか？」と、よく聞かれます。実際のところJAXA職員が皆、東大の宇宙工学出身という訳ではありません。学生時代に電気電子、機械、情報などを専攻していた方々もいれば、建築士、気象予報士、司法試験合格者やお医者さんなどもあります。

私が専攻していた電気電子系で、宇宙業界を目指す学生は極少数です。しかし、ロケットや衛星にも電源や配線はあります。通信機器もあります。電子部品も数えきれないほど搭載されています。宇宙ステーションや地上設備の電気系統を研究開発する人も必要です。少し想像すれば、宇宙業界においても活躍の場がいくらかでもあると分かります。

電気電子に限った話ではありません。大型試験設備や、ロケットの発射台の開発には建築の知識が必要です。衛星に使用する材料の研究をしている化学系の方もいます。宇宙飛行士の体調管理や訓練内容を研究する生体・医学系の方もいます。また、大卒や修士・博士だけでなく、年齢が若くフットワークが軽い高専卒も重要な存在で、試験設備の保全から衛星の運用といった現場よりな仕事をメインに、JAXAで活躍されている方は大勢います。

宇宙関係に就職するためには宇宙工学を専攻する。というのが普通の考え方だと思います。しかし、将来的には電気電子系の方が研究の余地が広いのでは？という思いがあり、私はあえて、電気電子という道を選びました。正直、需要の割に供給（希望する学生）が少ないからJAXAに入りやすそうだな、という考えもありました。それも一つの戦略だと私は思います。また、工学部では大学院修士課程への進学が一般的ですが、私は研究だけでなく現場を深く知れる保全や運用業務も経験したいと考えていたため、大学院へ進学せず学部卒で就職しました。私はあくまで自分流で宇宙を目指したわけです。

自分の専門はこれだからこの業界に就職する、と決め

つける必要はありません。皆が大学院に行くから自分も行かなきゃ！と流される必要もありません。あくまで、自分流でいいのです。

高専入学式の日、クラスの自己紹介で「僕は将来 JAXA 職員になって宇宙開発に携わりたいです！」と宣言したのを覚えています。周りに宣言できるぐらいの目標があれば、人間はいくらでも努力できます。今現在、ただ漠然と学生生活を送っているのなら、まずは本気で達成したい目標を探してみてもどうでしょうか？そして周りの意見を取り入れつつ、目標達成に向けた自分のスタイルを確立してみてください。



私が伝えたいこと

平成 24 年電子制御工学科卒 中村 健人

在校生及び保護者の皆様、はじめまして。平成 24 年 3 月に電子制御工学科を卒業しました中村健人と申します。現在私は、機械技師として鹿児島市役所に勤務しております。

今回本稿を執筆するにあたり、現在 25 歳の私が一番伝えたいこと、それは、「具体的な目標を持つ」ことの大切さです。私は、仕事やスポーツ等、何に対しても、大小問わず必ず目標を立てます。

大きな目標は、年間単位で定め、今年の目標は、「技術系の資格を 3 つとる」「一通り子育てができるようになる」です。資格試験は無事すべて合格し、子育てに関しては、とても四苦八苦していますが、年内の目標達成に向けて努力しているところです。

小さな目標とは、毎日行う日課のようなものです。私の場合は、退庁時に必ずメモ用紙に翌日予定している協議や事務処理等を記入しています。社会人であれば、急な仕事が入り計画通りにいかないことが多々ありますが、常に目標までの進捗状況や今現在何をすべきか把握しておくことで、非常に効率よく業務を遂行することができます。

仕事の話ばかりで在校生はピンとこないかもしれませんね。例えばテスト前に「俺追い込まれたら凄いい力発揮するんだよね」という人、周りにいませんか？そういう今まで何も目標を立ててこなかった人が、追い込まれた結果、課題解決のための目標（過去問を何回も解く、試験範囲の練習問題を解く等）を立て、効率の良い時間を過ごすことにより、十分な成果（テストでいい点を取る）を得ているのではないのでしょうか。

私の地元や高専の同級生はみな社会人として働いていますが、学生時代、将来に目標を持って過ごしてきた人は、仕事も私生活も充実している印象が強く、一方で明確な目標を持たずその時期が来たらとりあえず頑張ってきた人たちは、現在の環境に満足していないように思えます。

最後になりますが、在校生のみなさん今すぐ夢でも進路でも構わないので、具体的な目標を立て、それに向かって努力してみませんか？私たちが幼い頃大人たちから言われた「将来の夢は何？」という一言。見方を変えれば非常に重要な一言なのかもしれません。さあ、明日の午前中、あなたは何をしますか？

在校生のみなさんへ

情報工学科 26 期 下吉 智陽

皆さんこんにちは。私は昨年度情報工学科を卒業しました。現在は、旭化成電子株式会社に働いています。

旭化成電子は、低消費電力・高速・高精度を特長とする半導体集積回路や磁気センサーの製造・販売を行う旭化成エレクトロニクス株式会社の関連会社で、製品の設計・開発・生産を行っています。私が担当している業務は新製品の試作で、半導体素子をリードフレームに接着固定させるダイボンド工程を担当しています。半導体素子の特性や裏面構造、リードフレーム材により接着条件が異なる難しい工程ではありますが、非常にやりがいを感じ、楽しく取り組んでいます。

高専の5年間を振り返ると、本当に充実していたと思います。一番はやっぱり部活動で、日々練習に励み、高専生活で一番頑張ったかなと思います。ほかにも、高専祭やクラスマッチなど楽しかった思い出がたくさんあります。しかし、もっといろいろなことに挑戦すれば良かったなと後悔もあります。就職してからは、なかなか時間を作れずいろいろなことに挑戦するということが難しくなりました。学生の皆さんには、今のうちにいろいろなことに挑戦してほしいと思います。

高専を卒業し就職してから痛感したことあります。資料作成やプレゼンテーションの難しさです。上司に報告するために作成した資料がわかりづらく、伝えたいことがうまく伝わらないことが多く、全然ダメだと感じました。会社では会議などで、先輩社員の作成した資料を見たり、発表を聞いたりする機会が多いため、分かりやすい資料やプレゼンを参考に能力の向上を図っています。相手の立場に立って物事を考える。高専の時によく聞かされていた言葉の大切さを就職してから実感することが増えました。全員が同じ価値観で、同じ能力を持っているわけではありません。相手の立場に立って物事を考え、コミュニケーションをとっていくことが信頼関係を構築する上で、重要になると思うので、日々意識して実践してほしいと思います。

最後に、私は第一希望であった企業に就職することができましたが、就職活動への取り組みが遅かったと感じています。40年近く働くことになるかもしれない就職先、自分の人生を決める大事なことです。皆さんは早い時期から就職活動に取り組み、第一希望の企業に確実に就職できるように頑張ってもらいたいと思います。

鹿児島高専の皆さんのご活躍を期待しています。

これからの技術者の形

土木工学科平成14年3月卒業 中村 大輔

皆さんこんにちは。私は、土木工学科を平成14年3月に卒業し、現在は、鹿児島市内にある(株)建設技術コンサルタンツで土木構造物等の調査、設計を行っています。平成28年3月に念願叶って、技術士(建設部門)の資格も取得することができました。今回、このような機会を頂きましたので、在校生の皆さんの参考になればと思い、「資格取得に至るまでの技術者像に対する心境の変化」を振り返ってみました。

実は、私が本格的に技術士取得を目指したのは、28歳のときです。正直、学生時代も含め、意欲的に物事に取り組んできたわけではなかったもので、仕事に追われる毎日で「将来、自分がどうありたいか」と考える余裕はほとんどありませんでした。ただ、28歳のときに「2つの大きな出来事」がありました。

1つ目は、仕事でお客様に大きな迷惑をかけてしまったことです。安全上の問題ではなく、事務的な問題ではあったのですが、やはり技術職といえども、打合せ等お客様と話す機会は非常に多くあります。技術を学ぶことはもちろんですが、それ以上にお客様が何を求めているかをよく理解し、それを形にして、“わかりやすく伝える”。その上でさらに相手が考えていた以上のものを提案できることが、「本物の技術者」(=技術力+人間力)なのだと感じました。

2つ目は、先輩技術士との出会いです。技術士の資格を持っている方の多くは、専門的な知識を有していることはもちろんですが、仕事への真摯な取組み、常にお客様第一で行動すること、若い技術者の意見にも耳を傾ける謙虚な姿勢など、尊敬できる部分がたくさんありました。その中でも特に感じたのは、何事も「学びの姿勢」で自己研鑽に取り組む姿でした。

近年、ICT化が急速に進み、少しずつ技術者像も変化してきていると感じます。「技術力」は、経験の部分も多いですが、「人間力」を磨くことは、年齢に関係なく、いつからでもできることであり、あとは、自分自身がどれだけ「学び」の姿勢でいるか次第です。少し前のめりになるくらいの姿勢で、自分の感性のままにいろいろなことを経験しようとする、将来、ふとした時に自分の技術者像＝自分の生き方が見えてくるかもしれません。私もまだまだ勉強中ですので、楽しい未来を創るために、一緒に頑張りましょう。

在校生の皆さんへ

平成 25 年度 機械・電子システム工学専攻修了 谷山 功紀

私は現在、車載センサを仮想空間上でシミュレーションするために必要な技術の研究、開発に携わっています。

「自動運転」という言葉をご存知の方、聞かれたことのある方は多いと思います。これからこの分野に関係する方が、在校生にいらっしゃるかもしれませんし、既に関わっている卒業生、修了生の方々もいらっしゃるかもしれません。実際にやってみると、とても難しい分野だと思います。

大雑把に自動運転がなにかと言うと、車両を制御するためには周辺環境を情報として取得する必要があります。ロボットが自己位置推定をする場合に種々のセンサを搭載して、その情報を使うというのを車両でやろうという感じです（車両がロボットなのかの議論はおいておきます）。では、実際に車を製品として出す場合には“試験”をしなくてはなりません。しかし、「自動運転」をどう試験するというのでしょうか？

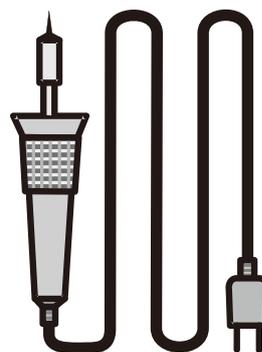
もうすでに世の中には自動運転を銘打った製品が出されています。現状のシステムはどちらかと言うと運転補助システムといった方が正確かと思います。車両にセンサを搭載して衝突防止をする映像などは見たことがある方も多いと思います。そして、残念なことではあるのですが、このシステムに関係した死亡事故が起きた事例もあります。

車載センサー一つとっても、いざ使ってみると「本来見えるはずの無いものが見える」といった想定外の挙動をする場合があります。しかも、起こっている状況を再現し、原因を究明することはなかなか困難です。そして、責任はどこにあるのか？技術者が悪いのか？といった方向にどんどんと議論されるのです。そこで、製品としての信頼性を出すための技術として、センサのシミュレータが必要であると考えます。実験では環境やコストなど検討しなければならないことが多々ありますが、仮想空間であれば、仮に事故が発生しても実害はありません。

このシミュレータを作ることも大変で、きちんと「どうしてこう作ったのか？」「それが妥当なのか？」といったようなことについて説明できなければなりません。技術者が説明できないものが「なんか仕様書通りに動いた」ではお粗末にも程があります。説明だけならば知識があれば十分なのですが、“納得”させるには骨が折れます。使っていただく方に「わからん」と言われるとうちの手上げです。しかも、何がわからないかわからない状態なので議論も何も進みません。私も入社直後は、知識の少

なさから痛い目に遭った経験もありますが、現在も世の中の役に立つ技術とすべく、日々勉強しながら取り組んでいるところです。

在校生の皆さん、授業は受け身のままで長くて苦痛かもしれませんが、学校のカリキュラムはきちんと意図があって組まれているはずで、普段から行動の理由や目的を考えるべきだと思います。将来、テストの点数に一喜一憂した内容が、何か役に立つ可能性があります。役に立たないこともあるかもしれませんが、多くの引き出しを持つことが大切です。また、勉強以外のことで色々な事柄に取り組むことも学生時代は大変良いと思います。日々を充実させて、楽しい学生生活をお送りください。



大学院に進学して感じたこと

平成 27 年度電気情報システム工学専攻修了 脇 蕉太

私が鹿児島高専専攻科を卒業してからあつという間に半年が経過し、もうすぐ一年が経過しようとしています。進学先の東京工業大学工学院電気電子系で講義と研究に追われながらも、充実した毎日を送らせていただいています。先日、高専だよりの執筆依頼を受けましたので、紙面をお借りして近況報告や在校生の皆さんに伝えたい事など書いて行きたいと思います。多少失礼なことも書くかもしれませんが、私の体感したことをそのままお伝えするためなので、どうかご容赦願いたいと思います。

私の研究分野はパワーエレクトロニクスとあって、半導体素子の組み合わせ回路を使って電力変換を行う学問です。高専の本科生時代に所属していたメカトロニクス研究部で、モータドライブというパワーエレクトロニクスの一分野を担当するのがきっかけで興味を持ちました。大学院に進むと決めたときも、パワーエレクトロニクスの研究ができる大学を探し、どうせやるなら一番すごいところが良いということで東工大に決めました。

東工大に入ると、やはり教員にしても学生にしても、高専とはレベルが違うなと感じるところがありました。特に学生のレベルは高く、高専で「この人はすごいな」と感じた人の能力を全員分合算したような人がごろごろいました。私も大学院に進むにあたって院試の勉強以外にもいろいろ勉強して準備したつもりではありましたが、まったく及ばなかったと思います。当然研究室で求められるものも多く、成果主義というわけではありませんが、何らかの理論や実験結果に対して高いレベルの考察が求められます。日々自分がいかに勉強を怠っていたかを痛感する毎日です。学業だけでなく、趣味などのプライベートの充実度にしても高い人が多く、ほんとに同年代なのかわからなくなることも多いです。

これから大学院に進学しようとしている高専生は、学業にしても趣味にしても全力で取り組むということをしてほしいです。高専は早くから専門科目を学び、その知識を実践で学ぶ事のできる環境です。気になったこと、興味のあることはすぐに取り組んで、自分の物にしていってください。そうしたことの積み重ねが、研究成果を出したり、新たな発見をしたりすることにつながります。

やり残したことは多かったように思いますが、高専時代に自分なりに頑張ってきたからこそ、レベルの高い研究にもついていけていると思います。残りの高専生活、できるだけ後悔のないように過ごしてください。

専攻科、大学院を修了して

土木工学専攻 11 期生 (平成 23 年度修了生) 八木 聡

2012 年 3 月に鹿児島高専専攻科土木工学専攻を修了し、約 5 年が経過しようとしています。

私は専攻科修了後に岩手大学大学院に進学し、現在は株式会社横河ブリッジで橋梁の維持補修に携わる仕事をしています。今回は、専攻科・大学院を経て会社で働きながら感じたことを紹介させていただきます。

まず初めに会社の紹介をさせていただくと、株式会社横河ブリッジは、鋼鉄製の橋梁を中心に新設事業から点検・調査、維持補修工事の保全事業までをトータルに行う会社です。

私は現在東京保全事業の現場施工に携わらせていただいているのですが、学生時代の研究内容は、廃棄物の再利用や生物の毒性試験といった環境関係の研究を行っており、橋梁の勉強といえば授業で習った程度でした。そんな私が、専攻科・大学院の研究とはあまり関係がなさそうな内容の仕事ができてるのは、高専で若いうちから専門の勉強、研究をさせていただいたからだと感じています。

高専では、普通の大学生よりも 2 年も早く研究に携わることができます。そこでは、調査(試験)を行い、その結果を考察し、対策を練ります。これが学生時代にしっかり身につけていけば、仕事において大きなスキルとなると感じています。社会人として求められるのは、コミュニケーション能力や積極的に動くこととよく言われますが、そこで大前提としてあるのが自分で調べ、自分で考えることだと思います。特に人のことを鵜呑みにしないで自分で調べると自然と自分の意見や考えが生まれてきますよね。そうすることで上司や先輩に意見を伺うときにも自分の考えを述べた上で意見を聞けますから、結果コミュニケーションも取れますし、自分の自信にもつながり、仕事も積極的に行えると思います。やはり高専で若いうちから研究に関わらせてもらうと自分で調べて、自分考えるので仕事も積極的に取り組みます。高専時代の研究では間違っているでも自分で調べどンドン先生に意見を述べてみてください。

最後になりますが、学生時代は、悩むことも多く、自分の将来のことで迷走すると思います。そんなときに頼りになるのが家族や友達です。高専のときの友人は、私も 2、3 ヶ月に一回は会っていて、良い息抜きとなります。また、趣味なども今のうちに見つけておくと仕事もプライベートも前向きに取り組めるので勉強や将来のことだけでなく、今を大切にしてください。

平成28年度の広報委員会の活動について

副校長(総務・企画、国際交流、地域連携担当)
広報委員会委員長 大竹 孝明

広報委員会委員長を担当してついに10年目となりました。昨年度から総務・企画担当の副校長が本委員会の委員長を担当することとなりましたが、今年度は副校長補佐として嵯峨原先生にご担当頂き、事務部門の企画係と共に「ニューライフカレッジ霧島「隼人学」」等を協力しながら実施することができました。

担当も広報誌、ホームページ、「鹿児島高専の日」、「高専サイエンス支援ネット」、「九州沖縄地区高専フォーラム」や高専シンポジウム等での事例発表等に加え、霧島市教育委員会と志学館大学との共催で行ってきた「ニューライフカレッジ霧島「隼人学」」や南日本新聞社の学生が記者となり取材を行うミライページ(旧キャンパスプレス)を担当することとなり、非常に幅広くなっています。

このような状況下で、副校長補佐の嵯峨原先生、広報委員会委員、技術長、技術室ならびに企画室長及び企画係の皆様には、ご協力を頂き誠に感謝申し上げます。

広報(PR)につきましては、学内の全ての部門に関係し、皆様方のご協力が不可欠ですので、本校及び地域の活性化のため今後ともよろしくお願い致します。

今年度の主な活動内容と、代表例として第8回目の「小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2016」」の8月29日に開催した鹿児島市立科学館での活動についてご報告致します。

1. 平成28年度の主な活動内容

- ①「平成28年度 学校要覧」の発行

- ②「ニューライフカレッジ霧島「隼人学」」の開催：
志学館大学生涯学習センター及び霧島市教育委員会との共催、年10回開催(5月14日～2月11日)
- ③「小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2016」」：8月29日、鹿児島市立科学館
- ④「高専サイエンス支援ネット」「わくわくサイエンス実験講座2016」：11月12日、熊本高専八代キャンパス
- ⑤「高専サイエンス支援ネット」会議及び科学技術教育支援シンポジウムへの参加：12月23日、熊本市
- ⑥ 鹿児島高専だより第71号の発行
- ⑦ かがしま県民大学連携講座(鹿児島高専のおもしろ実験教室)：8月12日、県民交流センター
- ⑧「ミライページ(旧キャンパスプレス)」の本校紹介：南日本新聞の学生による記事掲載(9月10日(土))
- ⑨「平成28年度全国高専フォーラム」出席：
8月24日～26日、岡山大学津島キャンパス(岡山県岡山市)
- ⑩「第26回九州沖縄地区高専フォーラム」参加：12月3日、熊本高専八代キャンパス(熊本県八代市)
- ⑪「第22回高専シンポジウム in Mie」への出席及び事例発表：平成29年1月28日、三重県鳥羽市)

2. “小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2016」”について

鹿児島高専では、鹿児島市立科学館との連携(共催)により、科学実験工作教室等の各種イベントを通じて科学に対する興味や関心を高め、夢や創造性を育む機会を設ける事業を実施してきた。本事業は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の「科学技術コミュニケーション推進事業機関連携推進 機関活動支援型」に「小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日」」のテーマで、平成21年度より平成26年度まで連続して支援を受けてきたが、昨年度に引き続き今年度も採択され

表1 鹿児島市立科学館における活動内容(平成28年8月29日(月))

| 音楽と科学の融合ショーや各科の科学実験、学校紹介等(鹿児島市立科学館の一般来館者) |
|--|
| 1. オシロスコープで音を見てみよう、 2. 鹿児島高専学校紹介、 3. 進学相談 |
| 4. 一般来館者小中学生向け科学実験工作教室 ① シュワシュワあわロケットで宇宙へ!(一般教育科物理) ② サッカーボールを作ろう!(一般教育科数学) |
| 5. 機械、電気電子、電子制御、情報及び都市環境デザイン工学科による展示及び科学実験 ① 水の力と水車、紙トンボをつくろう ② 感じて、処理して、動かして、・・・、凄じぞっ!世界に無いモノを創り出す技術 ③ 体験しよう!電子制御の世界、4足歩行ロボットを作ろう ④ 人に近づくコンピュータ、簡単プログラミング体験!(センサー使ってみませんか?) ⑤ 三角形の組み合わせの強さを知ろう、折り紙建築で、紙から立体になる魅力を体験しよう |

なかった。

しかしながら、本企画を、科学技術者育成を行う鹿児島高専への志願者増に向けた広報活動の一環とも位置づけ、科学実験工作教室、学科展示、学校説明会や進学相談等を今年度も企画し、平成28年8月29日(月)に鹿児島市立科学館にて実施した。

活動内容については、表1に示すように、科学実験工作教室と音楽と科学の融合ショーや各科の科学実験、学校紹介等を企画した。音楽と科学の融合ショーについては、一般来館者に対して、オシロスコープで音を見てみようを行った。また、学内の専門5学科の科学実験工作教室では、小・中学生に対して、「紙トンボを作ろう」等の10のテーマを設定した。さらに一般教育科からは、「シュワシュワあわロケットで宇宙へ」や「サッカーボールを作ろう」による科学実験工作教室やパネル展示と資料配布を行い、学校紹介や進学相談等の企画も実施した。(図1及び図2)

イベント終了時(16時)に1,100名を越える多くの入館者があり、好評のうちに終了した。受講者及び一般来館者へのアンケートでも、9割以上が満足しているが、いろいろなロボット作り等を体験してみたかったとの意見も多かった。



図1 サッカーボールを作ろう!



図2 オシロスコープで音を見てみよう

ニューライフカレッジ霧島について

一般教育科(文系) 嵯峨原 昭次

ニューライフカレッジ霧島は、平成12年度より本学と志学館大学、霧島市教育委員会が連携して行っている1年間の連続講座(全10回)です。年度ごとにテーマを決め、様々な分野から霧島市に縁の深い方を講師に招いています。

この講座は17年目を迎えることとなり、講座のまとめとして、これまでに2冊(『隼人学—地域遺産を未来につなぐ』(2004年)、『農的生活のすすめ』(2007年))を出版し、今年度は3冊目となる『五感で学ぶ地域の魅力』を刊行予定です。

今年度のテーマは『隼人学 となりのあの人に学ぶ地域・魅力・発信』であり、実施の日時、場所、演題、講師は次の通りです。

- 第1回 5月14日(土) 9:30~12:00 国分公民館
開講式
キリシマツツジの普及をめざして
国分中央高等学校 園芸工学科
- 第2回 6月11日(土) 9:30~11:30 国分公民館
地域の魅力をミュージカルで
NPO法人さりしま創造舞台 理事長 地蔵原 勇 氏
- 第3回 7月9日(土) 10:00~12:00 志学館大学
こうして伝えた「霧島の食文化・食のドラマ」
NPO法人霧島食育研究会 理事長 千葉 しのぶ 氏
- 第4回 8月6日(土) 9:30~11:30 国分公民館
共生協働で地域を発信~Lab 蒲生郷10年の歩み~
NPO法人Lab 蒲生郷 副理事長 丸野 博和 氏
- 第5回 9月10日(土) 9:30~11:30 国分公民館
ふるさとみがき in 牧園
史跡・文化財・景観モデルロード実行委員会 会長
手島 正次 氏
- 第6回 10月8日(土) 9:30~11:30 鹿児島高専
夢をかなえるスポーツのチカラ!
NPO法人隼人錦江スポーツクラブ クラブマネージャー 木原 正人 氏
- 第7回 11月12日(土) 9:30~11:30 鹿児島高専
金山史跡で地域活性化!
山ヶ野金山文化財保護活用実行委員会 委員長
宇都 隆志 氏
- 第8回 12月10日(土) 9:30~11:30 鹿児島高専
吉野兵六でつなぐ地域づくり
NPO法人地域サポートよしのねぎぼうず 理事長 永山 恵子 氏
- 第9回 1月14日(土) 9:30~11:30 鹿児島高専
ゴッタン演奏でまちを元気に発信
元財部北小学校職員・ゴッタン演奏家 永山 成子 氏
- 第10回 2月11日(土) 9:30~12:00 鹿児島高専
となりのあの人に学ぶ「地域・魅力・発信」
コーディネーター 志学館大学 教授 岩橋 恵子 氏
閉講式



御挨拶

後援会 会長 末廣 浩二

日頃、後援会活動に、ご理解ご協力いただきありがとうございます。本年度は、後援会会長として最後の年になり、副会長4年、会長3年、7年間お世話になりました。思い返せば、1年生で息子が入学した時に、当時の岩元常務理事と前菊谷後援会会長から声をかけられ、私自身が、市P連や県P連などのPTA活動もひと段落した時期だったのでもういいだろう思っていた時期でしたが、自分の母校でもあり理事くらいだったらと思いき受け入れたのが始まりでした。理事を引き受け副会長になってみると、高専の後援会は、予算の問題、事務局の問題、会則の問題、体育祭や学校行事の問題のなど、その年々で検討、変化していかなければ後援会として、機能できないような状況が続き、あわただしい7年間だったように思います。今年度も、突然の高専機構からの問題提起がなされ、学校事務局と後援会の関わり方や、新たな事務局の場所など、検討する事項が山積した1年でした。今後、後援会は、来年、再来年で大きな変革の時期になると思います。また、高専自体も創立から50余年を過ぎ少子化により過渡期の時期に入っています。

その中で、後援会を有効に存続させるためには、保護者の皆様が積極的に総会などに参加し、盛り上げていただいて、学校と一体となって学生を直接応援できる体制を維持していかなければならないと考えます。後援会は、学校から遠方の方も多く、なるべくシンプルに動きがとりやすい会として、更に、後援会員の会費を充分活用できる会として、発展充実させていかなければいけません。そうしなければ、今の大きな波に飲み込まれ機能不全なる可能性があります。

今後、後援会を一部の役員の方ではなく、保護者全員がかかわる会として発展させていただくようによりしくお願い致します。

最後に、3年間会長をさせていただきありがとうございました。副会長の方々、常務理事、理事の皆様方、そして会員の皆様方、会長として至らない所ばかりで申し訳ありませんでした。

また、後援会の顧問である校長先生をはじめ、3主事の先生方、事務部長・学生課長など教職員の方々、色々な問題と一緒に取り組んでいただき、ありがとうございました。今後とも、後援会に温かいご理解とご協力よろしく願い申し上げます。

今後の鹿児島工業高等専門学校の更なる発展と、輝かしい未来に期待しています。

後援会今昔

後援会 副会長 宮崎 喜保子

後援会の活動を初めて知ったのは12年前のことです。長女が入学して間もなく授業参観ツアーがありました。担任の先生を先頭に保護者がわが子の授業参観のほか実習室や施設、高学年の授業風景まで見てまわりました。私は初めての校内見学にワクワクしました。不安だらけの高専でしたが学校の中の様子が見えて少し安心できたことを思い出します。評判がとてよくて参加率80%を超えていました。それが後援会から学校に働きかけてようやく行われた行事だと知ったのはずっと後のことです。当時の理事さんや役員さんたちが保護者に学校を知ってもらおうと大変な骨をおってくださったものでした。その後、授業参観は学校行事になりました。

現在、後援会活動の一つに支部会があります。保護者のかたはどなたでも参加できます。支部会での卒業生のお話は毎回教えられることがいっぱいです。思い出や今仕事に対してどのように高専での生活が関わっているか、また、失敗談などから高専の良いところ。大事にしていきたいところを改めて気づかされます。先生方のお話は学生の現状や、くるくと変わる社会情勢に対応している学校のことで、それらを理解することで子供たちの将来も見えやすくなると思います。

他にも支部会ではいろいろな方のお話をきくことができます。きっと保護者として今、わが子にできることの参考になると思います。その良さは参加してみなければわかりません。支部会に参加してくださった方からは、「来た人だけがお得な情報をもらえます。」「低学年から参加していればよかった」と感想をいただいています。参加してみてください。このような機会を保護者も賢く利用して子供たちを応援していきたいものです。

理事会では先生方の報告や様々な議案を理事全員で懸命に話し合ってきました。そして時には母親だけの大笑いの情報交換会も楽しみでした。理事さんは半数弱がお父様方ですが皆さん忙しい中、遠方からも出席して快く協力頂きました。また、先生方の多大なご協力にも感謝申し上げます。

こうして私が有意義で楽しい後援会活動を終えられますことは多くの方々のおかげです、とても嬉しく思います。

皆様、本当にありがとうございました。

お願いします

後援会 副会長 芝 幸宏

このたび、縁ありまして今年度後援会副会長という大役をお引き受けいたしました、末広会長を中心に結束力のある後援会組織であることを半年間活動して感じるところです。

平成15年にサッカー部名誉監督の山崎先生に声をかけて頂き末広会長と共に錦江スポーツクラブの立ち上げに参加できたことを懐かしく思っておりましたところ、息子の高専入学が叶い少しでもお役にたてればと、後援会副会長をお引き受けさせていただきました。後援会の皆様、よろしく願い致します。

機械工学科に入学しました息子も入学当初は、全寮制から選択制に移行しました現在の寮体制の為、自宅のある日当山より毎日、自転車を漕いでの通学で、勉強に部活にと楽しんでいたようでしたが仲間たちの寮生活に憧れたのか後期から寮生活デビューをしました。

規律正しい寮生活で多くの仲間と共に力を合わせて共同生活を送ることで多くのことを学べている様に思います。

在校生のみなさんは多くのことにチャレンジして多くの成功や失敗を経験してください。挑戦した数だけ経験が生まれます。楽はしないでください。苦勞の分だけ能力がつくと思います。能力は失敗や成功の積み重ねの経験でしか生まれません。

人には二種類の人がいるそうです、何事にも挑戦する人と挑戦しない人

世の中を変えていくのはどちらの人でしょうか？大人になると挑戦しない人が多くなります。多くのひとは挑戦する前に言い訳を考えます。何か新しい提案をしたら前例がないと一言で済まされることがあります。前例のないことをやるから新しい発見があるのです。

決して、前例が無いからと言う小さな理由で未来の扉を閉ざす、ちっぽけな大人にはならないでください。魅力のある鹿児島高専は校長先生や先生方が作るものではありません。主役は未来を創る鹿児島高専生の皆さんです。

保護者の皆さん、鹿児島高専生を応援するために後援会活動に積極的に参加ご協力お願いいたします。

何があっても学生の味方

機械工学科5年 理事 今村 太多志

本年卒業する三男坊がお世話になった五年間に対して、皆様に感謝を申し上げねばなりません。私自身も理事会に出席し、お世話になることとなりました。

後援会という大切なしくみは疎かにはできませんので、私は理事を務める上での精神的ルールを二つ、自分で決めました。一つは「何があっても学生の味方につく」です。学校や教員ではなく学生です。“学生たちの幸せ”以外に目的などありません。二つ目は「機会均等」です。このルールに則って理事を務めさせていただきました。

理事としての感想としては二点あります。一点目は何よりもまず予算の大きさです。小中学校PTA程度の認識しか持っていなかったのですがケタが違いました。重要なしくみですので、もっと保護者の皆さんに理解してもらおう必要があると思いました。

二点目は先生方の対応のもどかしさです。私たちは後援会理事ですが保護者ですので、それが先生方へのプレッシャーになったのでしょうか。学生の味方ですから、議論が噛み合わないはずがありません。先生方と学生たちのために机を叩くような激論をしたかった。しかしながら無難な議論に終わってしまった感覚が残りました。

二年前、十月の残暑で汗ばむ日曜日の午後でした。鹿児島市の地区支部会に行ったおり、体育祭の応援団の練習で集まった四年の学生達が飲酒するという事件を聞きました。十九才男子の飲酒を“どのツラ下げて”オヤジ達が非難できるでしょうか。校則に則って処分。それでおしまい。大したことではありません。が、大騒ぎになり、会長が大変な面倒をしておさめて下さいました。「文科省の方針では今後体育祭は……」などと関係のない話にまで発展し、閉口しました。文科省などとても頼りになる存在ではありませんが先生方にとっては上司筋にあたるのでしょうか。「上は何を言おうが鹿児島高専のために後援会を利用したい」という熱い提案があればいくらでも乗ろうと私はワクワクしながら待っていたのですがそういう提案はなく残念でした。先生方には、学生に対する「熱さ」があれば何の文句もありません。理事達が熱烈に応援するのは当たり前です。

末広会長はじめ副会長、会計監査などの面倒を引き受けて下さった役員の方々のボランティア精神にはただただ頭を下げ、敬意を表します。また、私のような面倒くさい理事にいてねいな対応をして下さった事務の徳石さんにお礼を申しあげたいと思います。

理事会が終わって交通量の減った10号線を市内まで走るのには心地よい充実感がありました。ほんの少しなりと学生達の役に立っているという青臭いセンチメンタルだったのでしょう。全ての高専卒業生がいかなるカタチであれ幸せになることを願ってやみません。

思 い

電気電子工学科 5年 理事 吉留 祥代

私共家族の愛する息子が荒波の社会に旅立つ時になりました。隼人中学からお隣の高専に入学し早や五年、親としての今までの思い、これからの思いを少し綴ってみたいと思います。

入学時は全寮生活で淋しい思いもしましたが、我が家は田園を挟んだ高専の北側にあります。子供達の朝の挨拶、運動の音が風に乗って聞こえる度に、元気かな？楽しい学校生活おけているかな？と色々考える毎日だったように思います。

二年から、自宅からの通学になり見送りの後ろ姿を見ながら身体的、精神的に成長を感じるようになりました。三年以降ともなると、専門技術等の習得も本格的になったようで色々な大変さを本人なりに、頑張っ乗り越えてほしいと願いました。

また、高専祭で、応援団にチャレンジすると聞いて随分積極的になったとうれしい気持ちになりました。これまで、シーズンになると何気なく聞こえていた応援練習の大きな声が、息子が参加していると思うと耳をすます様になったものです。親ばかりですね。

中学から継続していたソフトテニスの部活では協調性、人に対するの思いやりも培われたと思っています。これも部活の顧問の先生方の御指導の賜物と感謝している次第です。ありがとうございました。

そのソフトテニスで最後の五年時、高専部活の集大成ともいえる沖縄、九州大会優勝、全国大会準優勝という結果でした。その時の感動を、家族、部員、先生方と会場で共有できたことは息子にとっても良き思い出になると思います。また息子自身五年間の努力の成果が発揮できたことは、これからの社会生活においても励みになると思っています。

これから、気軽にテニスをしている息子の姿を見られなくなるのはちょっと淋しいですが、社会に出ても人との出会い、健康の為にも続けていってほしいと思っています。たくましく思いやりのある社会人に育ってほしいと願うばかりです。

最後に、私自身も五年間理事という貴重な役職を経験させていただきました。お陰さまで役員、先生方と接する機会に恵まれ色々勉強になりました。今後の生活に生かせればと思います。本当にありがとうございました。

高専5年間で感じたこと

都市環境デザイン工学科 5年 理事 瀬戸口 浩一

5年前、進路について、親子でいろんな話をしたことを思い出します。将来「夢」について子供の考えを聞き、親としての考えを話したことです。娘が技術者の道に進みたいと聞いたとき大変驚きました。私も高校・大学と技術者を目指し学んだ一人であるからです。私の影響を受けたのか橋・建物・ダム・水などに興味があることを初めて知ることが出来ました。また、将来についても考えがしっかりしていること、高専で何を学びたいかが明確であることに大変驚きました。

無事高専に入学することになり入学式のときクラスに女の子が多くいることに一安心しました。また、後援会の役員として私にもチャンスを頂けたことにより、校長及び先生そして役員の先輩たちの話を直接聞くことが出来たことは大変ありがたく思います。高専は、普通の高校と違う事、大学とも違う事に大変不安を持ちました。しかし、子供にとっては、学校、寮、部活動、海外研修、インターシップといろんなことを学び、経験が出来た5年間だと思います。特にいろんなチャンスを頂きタイ・ベトナム・長岡・東京での研修・発表と高専で学んでいることの大切さを直接感じる事が出来たのではないのでしょうか。また、研修旅行や現場見学を通じて高専で学ぶ意義と将来「夢」について考えインターシップ先、卒業研究、就職や進学を決めた者も多かったのではないのでしょうか。幅広い人間性を培うことと開発的技術者育成の出来る学校であることを確信いたしました。

私たちのクラスは、進路変更や進級出来ず学校を辞めるクラスメートも多く、私にとってももっと親に対して発信すべきであったと悔やまれる部分があります。しかし、少なからず鹿児島高専で学んだことは、人生の中で役立つと確信しています。

娘も専攻科に進むことになり、更なる夢にむかって邁進してくれると期待しています。

高専入学におもうこと

電子制御工学科1年 理事 西川 尚美

2016年4月、次男が高専に入学しました。順調にいけば5年間、本人にその気があれば更に2年間お世話になるんだな、と思ってから早くも1年が過ぎようとしています。

その次男が生まれたのは2001年。21世紀生まれなのです。

私が子供の頃、21世紀なんてずっとずっと先の話で、未来の世界の話だと思っていました。しかし、空想していた未来の世界が、少しずつですが現実になって目の前に存在し豊かな生活を送っています。ブラウン管TVが液晶TVになり劇的に変化。薄く軽く画面も見やすくなりました。また、固定電話が持ち運べるようになり、あっという間に小型化。今では話をするだけでなく、カメラ機能がついたり音楽が聞けたりと多機能化。自動車について言えば、自動ブレーキが開発され、自動運転の実験が始まっています。

これらはほんの一例にしか過ぎませんが、あったら便利だ、助かると思ったから進化したのだと思います。

ここにたどり着くまでには大変な苦労があったと思います。それでも人々の願いに応えたいという気持ちがあったからこそ、技術者は努力して困難をのり越え、不可能を可能にし、実現してきたのだと思います。

技術革新は目覚ましいものがあります。学生の皆さんには常に世界に目を向けて色々なことに興味を持ってほしいと思います。柔軟な発想から画期的な技術の開発・発展へとつながっていくと思います。

5年間という時間をぜひ有効に使ってください。時間だけは誰にでも平等に与えられていると思います。濃く過ごすか薄く過ごすかは自分次第です。無駄な事は何もありません。高専で学ぶにあたって何が必要なのかを考え、そして行動する。行動しても思ったような結果が出ないかもしれません。しかし、今は分からないかもしれませんが、すべてが財産になります。自分で「選んで」高専を目指したはずですが、ここがゴールではなく出発点であることを忘れず、色んな事を吸収し成長していったほしいと願っています。遊びも勉強も全力で。その姿を応援しています。

今の時間を大切に

情報工学科1年 理事 地主園 義昭

息子が入学式の日を迎え、一緒に高専の門をくぐったとき昔の懐かしい思い出が走馬灯のように頭に溢れてきました。私も息子と学科は違えど二十年程前に高専に入学、卒業しました。

入試前の学校説明会や入学式の日のお話を聞いた際には、自分が在籍していた頃とは高専もずいぶん変わっていることに驚きました。いくつか挙げれば、独立行政法人となり、専攻課ができ、ご指導頂いた先生方の多くは定年を迎え退職され、全寮制ではなくなり、英語教育の充実、赤点が50点から60点に（これが一番驚きました）。時代とともに高専も進化していることを目の当たりにしたとき驚き、うれしくもありました。

さて、高専を卒業したものとして、少し在校生にアドバイスをしたいと思います（参考になれば幸いです）。

①テスト前日の徹シコは、身につかないうえにお肌にも悪い（ニキビが沢山出来ました）。

②先生方に変なあだ名を付けても良いが（良いのか？）先生を尊敬しましょう（日本のトップクラスの技術者にご指導頂けることに感謝を）。

③アルバイトはお金を稼ぐだけじゃダメ。一緒に社会勉強もしっかりしましょう（せっかくの機会なので実社会のことも勉強しないともったいない）。

④先輩、後輩は大切に（社会に出ると高専卒の先輩や後輩と一緒に仕事をする機会が意外と多い。顔を知っているだけでも色々と有利に…なるかも）。

⑤将来の目標が定まっていなかったら、一度じっくりと自分の将来を思い描いてみては（焦りは禁物ですが）

高専生活はすごく充実しており楽しいので5年間という時間は「あっ!!」という間に過ぎてしまいます。目標が定まると勉学にも熱が入るもので、目標を持っている人と持っていない人との差は結構大きいと思います。

大変拙いアドバイスでしたが、皆さんが社会のしっかりとした礎となり、先頭に立って日本を引っ張っていく技術者となることを親として、先輩の一人として、心より願っております。

平成29年度 行事予定表

(12月～3月)

| 平成29(2017)年12月 | | | 平成30(2018)年1月 | | | 平成30(2018)年2月 | | | 平成30(2018)年3月 | | |
|-------------------------|--------------------------|------------------|------------------|---|------------------|----------------------|--|------------------|---|---------------------------------|------------------|
| 曜日 | 行事 | 回数 | 曜日 | 行事 | 回数 | 曜日 | 行事 | 回数 | 曜日 | 行事 | 回数 |
| 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 | 本 科 出 席 |
| 1 金 | 後学期中間試験 | 13 9 129 | 1 月 | 5日 | 131 132 | 1 木 | 後学期中間試験科目受講開始(10時～12時) | 14 15 162 | 1 木 | 専攻科 | 158 160 |
| 2 土 | | 116 117 | 2 火 | | 132 133 | 2 金 | 後学期期末試験 | 14 15 163 | 2 金 | | 159 161 |
| 3 日 | 全国大会(前日回技軸) | 117 118 | 3 水 | | 133 134 | 3 土 | | 146 147 | 3 土 | | 160 162 |
| 4 月 | | 8 9 130 4 | 4 木 | 仕事始め | 134 135 | 4 日 | | 146 148 | 4 日 | | 161 163 |
| 5 火 | | 9 10 131 5 | 5 金 | | 135 136 | 5 月 | | 14 9 164 | 5 月 | 卒業判定会議(18時30分) | 162 164 |
| 6 水 | | 8 9 132 6 | 6 土 | | 136 137 | 6 火 | 後学期期末試験(成績入力・再試 特別研究員発表会(学位審査会)) | 14 5 165 | 6 火 | | 163 165 |
| 7 木 | | 8 9 133 7 | 7 日 | | 137 138 | 7 水 | 後学期期末試験 卒業論文提出開始(15時) | 15 10 166 | 7 水 | | 164 166 |
| 8 金 | 履修開始/他専攻履修受付 評価試験入力開始 | 8 10 134 8 | 8 月 | 成人の日/閉寮(10時) | 138 139 | 8 木 | 後学期期末試験 卒業論文提出・解説 | 16 11 167 8 木 | 8 木 | | 165 167 |
| 9 土 | | 118 119 | 9 火 | 授業開始/本職目の授業/再 評価試験入力開始 | 11 12 105 9 | 9 金 | 後学期期末試験・特別学修単位器 定申請書提出/運営会議 | 17 12 168 9 金 | 9 金 | 進級判定会議(18時30分)/ 進級式(教員)/運営会議 | 166 168 |
| 10 日 | | 119 120 | 10 水 | | 11 12 106 10 | 10 土 | | 147 149 | 10 土 | | 167 169 |
| 11 月 | | 9 10 135 11 | 11 木 | 休講/12.4年次のア教育/2年 学習到達度試験/3年課部/午 後:特別クラスコン | 8 100 147 11 | 11 日 | 建国記念の日 | | 148 150 | | 168 170 |
| 12 火 | | 10 11 136 12 | 12 金 | 運営会議 | 11 12 108 12 | 12 月 | 振替休日 | | 149 151 | | 169 171 |
| 13 水 | 成績入力・再試験結果通知(17時) | 9 10 137 13 | 13 土 | 企業業績説明会(午迄) | 139 141 | 13 火 | 後学期期末試験 特別研究員発表会(学位審査会) 特別研究員発表の準備開始 | 18 13 169 | 13 火 | | 170 172 |
| 14 木 | 修務連 | 9 10 138 14 | 14 日 | 学内合同企業セミナー | 140 142 | 14 水 | 卒業論文提出・解説/再試験結果通知 | 15 14 170 14 水 | 14 水 | | 171 173 |
| 15 金 | 修務連 | 9 11 139 15 | 15 月 | | 11 13 149 15 木 | 15 木 | 卒業論文提出・解説 特別研究員発表 | 15 15 171 15 木 | 15 木 | | 172 174 |
| 16 土 | 学内コンベンション2017(仮 称) | 120 121 | 16 火 | 志学春ハート(家長連携) | 12 13 150 16 金 | 16 金 | 卒業論文提出・解説/後学期学修 単位器提出/卒業論文提出 | 15 16 172 16 金 | 16 金 | 卒業式 | 11 7 177 |
| 17 日 | 学内コンベンション2017(仮 称) | 121 122 | 17 水 | | 12 13 151 17 土 | 17 土 | 入学試験 | 150 152 | 17 土 | | 173 175 |
| 18 月 | | 10 11 140 18 | 18 木 | | 12 13 152 18 日 | 18 日 | | 151 153 | 18 日 | | 174 176 |
| 19 火 | | 11 12 141 19 | 19 金 | 再評価試験入力開始/仮修連 | 12 13 153 19 月 | 19 月 | 休講/振替 | 152 154 | 19 月 | | 175 177 |
| 20 水 | 履修会議 | 10 11 142 20 | 20 土 | 推薦入試 | 141 143 | 20 火 | 卒業論文提出・解説 特別研究員発表 | 15 17 173 20 火 | 20 火 | 学年末休業開始 | 176 178 |
| 21 木 | | 10 11 143 21 | 21 日 | | 142 144 | 21 水 | 卒業論文提出・解説/入 学試験開始 | 15 6 174 21 水 | 21 水 | 春分の日 | 177 179 |
| 22 金 | 特別閉寮/LIR/春閉寮 (特別) | 10 12 144 22 | 22 月 | | 12 14 154 22 木 | 22 木 | 卒業論文提出・解説/再試験結果 通知 | 9 18 175 22 木 | 22 木 | | 178 180 |
| 23 土 | 天皇誕生日 閉寮(11時) | 122 123 | 23 火 | | 13 14 155 23 金 | 23 金 | 卒業論文提出・解説/再試験結果 通知 | 10 19 176 23 金 | 23 金 | 校務進 | 179 181 |
| 24 日 | | 123 124 | 24 水 | 推薦入学判定会議 | 13 14 156 24 土 | 24 土 | 閉寮(11時) | 155 157 | 24 土 | | 180 182 |
| 25 月 | 高専祭学生団体 | 124 125 | 25 水 | | 13 14 157 25 日 | 25 日 | | 154 156 | 25 日 | | 181 183 |
| 26 火 | | 125 126 | 26 木 | 後学期期末試験時間発表 | 13 14 158 26 月 | 26 月 | 卒業論文提出・解説/再試験結果 通知 | 155 157 | 26 月 | | 182 184 |
| 27 水 | | 126 127 | 27 土 | 全国高等学校アスリート大会(男子) 大会(19時前開始) | 143 145 | 27 火 | | 156 158 | 27 火 | | 183 185 |
| 28 木 | | 127 128 | 28 日 | 仕事始め | 144 146 | 28 水 | | 157 159 | 28 水 | | 184 186 |
| 29 金 | | 128 129 | 29 月 | 推薦入学合格発表 | 13 15 159 | | | | 29 月 | | 185 187 |
| 30 土 | | 129 130 | 30 火 | 入課時数入力開始(15時) | 14 15 160 | | | | 30 金 | | 186 188 |
| 31 日 | | 130 131 | 31 水 | 入学願書受付(6日まで) | 14 15 161 | | | | 31 土 | | 187 189 |
| 学生会長立会演説会・選挙 | | | 学位(小論文)試験(従来方式) | | | TOEIC Bridge (1～3年生) | | | 学生交流(香港VTC、テマセック、ボリテクニク) | | |
| 特別研究1のポスターを用いた討論(12月上旬) | | | 学生会)データ研修 | | | 合格内定者登校日(合格発表) | | | 学校行事 11日 ■ 試験日 18日 ■ 学校行事 11日 ■ 休み 187日 | | |
| きりしまチャレンジデー | | | | | | | | | ※ ■ 専攻科特別指導日 | | |
| 学生会主催行事・学生会 | | | | | | | | | | | |

編 集 後 記

「鹿児島高専だより」第71号をお届けいたします。

今回の特集は、「グローバル高専事業」です。国立高専機構は、全国51高専の中から平成26年にグローバル高専モデル校として茨木高専と明石高専の2校、平成28年4月にグローバル高専展開校として鹿児島高専を含む7校を指定しました。

平成28年度の鹿児島高専は、丁子哲治校長を中心に、国内の高等教育機関に押し寄せる大きな改革の波に対して、積極的な取組を行っていますが、その中でも、グローバル高専事業では、グローバルエンジニア育成のための英語力強化実践教育プログラムとして、1) 中学英語教育と連携した高専における英語教育プログラムの開発 2) 英語教育プログラムに則った学生の英語力強化 3) 英語による講義と国際・異文化理解に対応したカリキュラムの整備を目指して取組を行っています。

国内に目を向けると、新語・流行語大賞は広島東洋カープの緒方孝一監督、鈴木誠也選手のチームの快進撃を指して発した「神ってる」。そして、熊本地震、東京都知事に小池氏、リオ五輪メダル41個、天皇陛下退位のご意向示唆、米大統領が広島訪問、東京工業大学名誉教授大隅良典氏によるノーベル生理学・医学賞受賞、18歳選挙権施行など様々なことが起こった年でした。

今回の「鹿児島高専だより」も、例年通り、校長巻頭言に始まり、特集、各委員会報告、教職員研究活動、卒業関係、教職員動向、国際交流だより、同窓生だより、後援会だよりなど盛りだくさんの記事になっていますので、お楽しみください。

昨シーズン、広島東洋カープが「神ってる」状態で快進撃を続け見事優勝したように、鹿児島高専も「神ってる」状態で更に発展していくことを祈念して編集後記の締めとさせていただきます。

最後になりますが、「鹿児島高専だより」の発行にあたり、ご多忙の中、原稿執筆を快くお引き受け下さった執筆者各位に対し、委員一同厚く御礼申し上げます。

一般教育科 嵯峨原 昭次

「高専だより」専門委員会委員

委員長 嵯峨原昭次（一般教育科）
委 員 南金山裕弘（機械工学科）
奥 高洋（電気電子工学科）
宮田千加良（電子制御工学科）
豊平 隆之（情報工学科）
毛利 洋子（都市環境デザイン工学科）
担当事務 田尻 正和（総務課企画係長）

「鹿児島高専だより」第71号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会
発 行 鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1